

(様式4) (再評価)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(令和4年5月1日現在)

第一薬科大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1 - 8
基礎資料 2	修学状況 2-1 在籍状況 2-2 学生受入状況 2-3 学籍異動状況 2-4 学士課程修了(卒業)状況	9 - 12
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOs に該当する科目	13 - 59
基礎資料 4	カリキュラム・マップ	60 - 66
基礎資料 5	語学教育の要素	67
基礎資料 6	実務実習事前学習のスケジュール	68 - 70
基礎資料 7	学生受入状況について (入学試験種類別)	71 - 73
基礎資料 8	教員・職員の数	74
基礎資料 9	専任教員の構成	75
基礎資料10	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	76 - 99
基礎資料11	卒業研究の配属状況および研究室の広さ	100
基礎資料12	講義室等の数と面積	101 - 103
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	104
基礎資料14	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	105
基礎資料15	専任教員の教育および研究活動の業績	106 - 190

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

	1 年 次											
	科目名			前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育			心理学	前期	~68	2	136	コ			1	
			薬学基礎英語 I	前期	~72	2	143	コ	演		1	
			薬学基礎英語 II	後期	~73	2	146	コ	演		1	
			情報処理演習 I	前期	~69	2	137	コ	演		1	
			情報処理演習 II	後期	~71	2	142	コ	演		1	
			コミュニケーション論	前期	~35	4	138	コ	演		1	
			文章表現論	前期	137	1	137	コ	演		1	
			薬学への招待	前期	140 (実~35)	1 (実 4)	140	コ	実		0.5	
			基礎物理学	前期	141	1	141	コ			1	
			基礎化学 I	前期	139	1	139	コ	演		1	
			基礎化学 II	後期	143	1	143	コ	演		1	
			基礎生物学	前期	138	1	138	コ	S		1	
			基礎数学 I	前期	141	1	141	コ	演		1	
			基礎数学 II	後期	145	1	145	コ	演		1	
			(選) 文学 I	前期	~44	2	88	コ	演		1	
			(選) 文学 II	後期	~45	2	90	コ	演		1	
			(選) 倫理学 I	前期	~53	2	105	コ			1	
			(選) 倫理学 II	後期	~53	2	106	コ			1	
			(選) 法学 I	前期	~40	2	79	コ			1	
			(選) 法学 II	後期	~41	2	82	コ			1	
			(選) 英会話 I	前期	~39	2	77	コ	演		1	
			(選) 英会話 II	後期	~38	2	75	コ	演		1	
			(選) 中国語 I	前期	~21	2	42	コ	演		1	
			(選) 中国語 II	後期	~23	2	46	コ	演		1	
		(選) フランス語 I	前期	~9	2	18	コ			1		
		(選) フランス語 II	後期	~9	2	18	コ			1		
薬学専門教育			医療概論	通年	141	1	141	コ			1.5	
			薬学概論	前期	148	1	148	コ	演		1	
			生命・医療倫理学	後期	142	1	142	コ	演		1	
			理論化学	後期	148	1	148	コ	演		1	
			無機化学	前期	148	1	148	コ	演		1	
			有機化学 I	後期	~73	2	145	コ	演		1	
			生命科学 I	後期	148	1	148	コ			1.5	
			機能形態学 I	後期	144	1	144	コ			1.5	
			薬理学 I	後期	148	1	148	コ	演		1.5	
			早期臨床体験 (1・2年継続)	通年	~8	20	147	コ	演	実	継続	
			(薬) 臨床心理学	前期	121	1	121	コ			1	
			(薬) 介護学概論	後期	121	1	121	コ			1	
			(漢) 漢方・民間薬概論	前期	25	1	25	コ			1	
			(漢) 本草学	後期	24	1	24	コ			1	
			科目横断演習 I	後期	148	1	148	演			0.5	
			基礎実習	後期	~74	2	148	実			1.5	
			(選) 海外大学講師特別講義	未開講	0	1	0	コ			0.5	
			薬学データサイエンスへの招待	前期	6	1	6	コ			2	
			薬学データサイエンス数学 I	前期	5	1	5	コ			1	
		薬学データサイエンス数学 II	後期	5	1	5	コ			1		
		診療報酬請求学	後期	0	1	0	コ	実		2		
実習												
演習												
単位数の合計											(必須科目)	(薬) 28.5 (漢) 28.5
											(選択科目)	18.5
											合計	(薬) 47.0 (漢) 47.0

(薬)は薬学科、(漢)は漢方薬学科。
それ以外は薬学科・漢方薬学科共通

(凡例)
講義=コ 実習=実 演習=演 PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付けてください。
「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S
6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

2 年 次											
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育 ・ 語学教育		薬学英語	前期	~33	4	132	コ			1	
		プレゼンテーション論	前期	122	1	122	コ	演	S	1	
		基礎統計学	前期	131	1	131	コ			1	
薬学専門 教育		医療コミュニケーション学	前期	122	1	122	コ			1	
		物理化学 I	前期	133	1	133	コ			1.5	
		物理化学 II	後期	139	1	139	コ			1.5	
		放射化学	後期	140	1	140	コ	演		1.5	
		分析化学 I	前期	129	1	129	コ	演		1.5	
		分析化学 II	後期	143	1	143	コ	演		1.5	
		無機化学	前期	131	1	131	コ			1	
		有機化学 III	前期	124	1	124	コ	演		1	
		有機化学 IV	後期	139	1	139	コ			1	
		生薬学	後期	143	1	143	コ			1.5	
		生命科学 I	前期	129	1	129	コ	演		1.5	
		生命科学 II	後期	144	1	144	コ	演		1.5	
		機能形態学 II	前期	138	1	139	コ			1.5	
		微生物学 I	前期	137	1	137	コ			1.5	
		微生物学 II	後期	141	1	141	コ			1.5	
		環境衛生学 I	後期	141	1	141	コ			1.5	
		薬理学 I	前期	134	1	134	コ	演		1.5	
		薬理学 II	後期	146	1	146	コ	演		1.5	
		病態薬物治療学 I	後期	144	1	144	コ			1.5	
		医療統計学	後期	134	1	134	コ			1.5	
	早期臨床体験 (1・2年継続)	通年	~21	6	127	コ	実	演・S	1.5		
	(薬) 介護学概論	後期	98	1	98	コ			1		
	(薬) 臨床心理学	前期	98	1	98	コ			1		
	(漢) 漢方薬理学	前期	23	1	23	コ			1		
	(漢) 漢方薬効免疫学	後期	25	1	25	コ			1		
実習		基礎実習	前期	~61	2	121	実	コ		1.5	
		化学系実習	後期	~64	2	127	実	コ		1.5	
		物理系実習	後期	~62	2	124	実	コ		1.5	
演習		有機化学演習	後期	131	1	131	演・S			1	
単位数の 合計							(必須科目)			40.0	
							(選択科目)			0	
							合計			40.0	

(薬)は薬学科、(漢)は漢方薬学科。
それ以外は薬学科・漢方薬学科共通

(凡例)
講義=コ 実習=実 演習=演 PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
- 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

		3 年 次										
		科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育												
薬学専門教育			物理化学Ⅲ	前期	112	1	112	コ	演		1.5	
			分析化学Ⅲ	前期	90	1	90	コ			1.5	
			分析化学Ⅳ	後期	113	1	113	コ			1.5	
			有機化学Ⅴ	前期	101	1	101	コ			1	
			有機化学Ⅵ	後期	109	1	109	コ			1	
			医薬品化学Ⅰ	後期	110	1	110	コ			1.5	
			天然物化学	後期	104	1	104	コ			1.5	
			生命科学Ⅲ	前期	110	1	110	コ			1.5	
			生命科学Ⅳ	後期	108	1	108	コ			1.5	
			免疫学	前期	99	1	99	コ			1.5	
			食品衛生学Ⅰ	前期	93	1	93	コ	演		1.5	
			食品衛生学Ⅱ	後期	94	1	94	コ	演		1.5	
			公衆衛生学	後期	90	1	90	コ			1.5	
			環境衛生学Ⅱ	前期	107	1	107	コ			1.5	
			薬理学Ⅲ	前期	100	1	100	コ			1.5	
			薬理学Ⅳ	後期	108	1	108	コ			1.5	
			病態薬物治療学Ⅱ	前期	91	1	91	コ			1.5	
			病態薬物治療学Ⅲ	前期	101	1	101	コ	演		1.5	
			病態薬物治療学Ⅳ	後期	105	1	105	コ	演		1.5	
			感染症治療学	後期	119	1	119	コ			1.5	
		薬物動態学Ⅰ	後期	110	1	110	コ	演		1.5		
		物理薬剤学	前期	101	1	101	コ	演		1.5		
		製剤学Ⅰ	前期	106	1	106	コ	演		1.5		
		製剤学Ⅱ	後期	89	1	89	コ	演		1		
		調剤学	後期	95	1	95	コ			1.5		
		(漢) 漢方製剤・薬剤学	前期	13	1	13	コ			1		
実習			生物系実習	前期	~44	2	87	実	コ		1.5	
			衛生薬学実習	前期	~44	2	87	実	コ		1.5	
			薬理学実習	後期	~44	2	88	実	コ		1.5	
演習			物理系演習	前期	101	1	101	演	コ		1	
			構造解析演習	後期	110	1	110	演	コ		1	
単位数の合計									(必須科目)		(薬)42.5 (漢)43.5	
									(選択科目)		0	
									合計		(薬)42.5 (漢)43.5	

(漢)は漢方薬学科。

それ以外は薬学科・漢方薬学科共通

(凡例)

講義=コ 実習=実 演習=演 PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	ヒューマニズム教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。

- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。
下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

	4 年 次											
	科目名					前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育					臨床薬学英語	前期	~52	2	104	コ	演	1
薬学専門教育					臨床薬物動態学	前期	110	1	110	コ		1
					医薬品情報学	前期	114	1	114	コ		1
					薬事関係法規・制度	前期	106	1	106	コ	演	1.5
					医薬品化学Ⅱ	前期	108	1	108	コ		1.5
					病態薬物治療Ⅴ	前期	106	1	106	コ		1.5
					がん化学療法学	前期	115	1	115	コ		1.5
					漢方治療論	前期	104	1	104	コ		1.5
実習					薬物動態学Ⅱ	前期	116	1	116	コ	演	1.5
					薬剤学実習	前期	~51	2	101	実		1
演習					実務実習Ⅰ(4~5年継続)	通年			124	実		継続
					卒業研究(4~6年継続)	通年			122	演	実	継続
					事前学習	通年	106	1	106	演	実	4
単位数の合計					薬学演習	後期	114	1	114	演		6
											(必須科目)	23.0
											(選択科目)	0
										合計	23.0	

(凡例)
講義=コ 実習=実 演習=演 PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	ヒューマニズム教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

5 年 次												
科目名												
		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数			
教養教育・語学教育												
薬学専門教育		後期	115	1	115	コ					1.5	
		後期	29	1	29	コ					1	
		通年	7	1	7	コ	実				継続	
		通年	14	1	14	コ	実				継続	
		通年	14	1	14	コ	実				継続	
		通年	4	1	4	コ	実				継続	
実習		通年			120	実					10	
		通年			120	実					10	
演習		通年			122	演	実				継続	
		通年	120	1	120	演	S				1.5	
単位数の合計										(必須科目)	(薬)23.0 (漢)24.0	
										(選択科目)	0	
										合計	(薬)23.0 (漢)24.0	

(凡例)
講義=コ 実習=実 演習=演 PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。
「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

		6 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育									
語学教育									
薬学専門教育		(薬) 処方解析学	前期	95	1	95	コ		1
		(漢・選) 処方解析学							
		(薬) 地域薬局論	前期	84	1	84	コ		1
		(漢・選) 地域薬局論							
		(薬) 医薬品開発論	前期	84	1	84	コ		1
		(漢・選) 医薬品開発論							
		(漢) 臨床漢方治療学	前期	19	1	19	コ		1
		(選) 臨床物理分析法	前期	39	1	39	コ		1
		(選) 疾患治療特論	前期	78	1	78	コ		1
		(選) ターミナルケア論	前期	34	1	34	コ		1
		(選) 救急医療概論	前期	81	1	81	コ		1
		(選) 健康管理学	前期	27	1	27	コ		1
		(選) 薬局薬学実習 (5・6年継続)	通年	0	1	0	コ	実	2
		(選) 病院薬学実習 (5・6年継続)	通年	2	1	2	コ	実	2
		(選) 伝統医療薬学実習 (5・6年継続)	通年	7	1	7	コ	実	2
	(選) 海外医療研修 (5・6年継続)	通年	0	1	0	コ	実	2	
	(選) 学内研修 (5・6年継続)	通年	91	1	91	コ	演	2	
実習									
演習		卒業研究 (4~6年継続)	通年			103	演	実	13
		薬学総合演習	通年	170	1	170	演		6
単位数の合計								(必須科目)	(薬)22.0 (漢)20.0
								(選択科目)	(薬)15.0 (漢)18.0
								合計	(薬)37.0 (漢)38.0

(薬)は薬学科、(漢)は漢方薬学科。

赤字：経過措置で実際は16単位として実施。

それ以外は薬学科・漢方薬学科共通

(凡例)

講義=コ 実習=実 演習=演 PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	ヒューマンズム教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。

- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

【薬学科】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	20	51
教養教育科目	18	17.5
語学教育科目	10	10
医療安全教育科目	11	30
生涯学習の意欲醸成科目	19	50.5
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	24	55

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	28.5	18.5	47
2 年 次	40	0	40
3 年 次	42.5	0	42.5
4 年 次	23	0	23
5 年 次	23	0	23
6 年 次	22	15	37
合計	179	33.5	212.5

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

【漢方薬学科】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	18	49
教養教育科目	18	17.5
語学教育科目	10	10
医療安全教育科目	9	30
生涯学習の意欲醸成科目	19	50.5
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	24	55

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	28.5	18.5	43
2 年 次	40	0	40
3 年 次	42.5	0	43.5
4 年 次	23	0	23
5 年 次	24	0	24
6 年 次	20	18	38
合計	179	36.5	211.5

(基礎資料2-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		153	173	173	173	173	173
入学時の学生数 ²⁾ A		132	144	128	147	182	173
在籍学生数 ³⁾ B		152	154	127	124	146	170
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	20	44	48	46	39	78
	休学による者 D	0	0	1	0	2	1
編入学などによる在籍者数 E		0	0	3	3	3	1
ストレート在籍者数 ⁵⁾ F		132	110	75	75	102	90
ストレート在籍率 ⁶⁾ F/A		1.00	0.76	0.59	0.51	0.56	0.52
過年度在籍率 ⁷⁾ (C+D)/B		0.13	0.29	0.39	0.37	0.28	0.46

- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。
ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}
- 6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。
- 7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料2-2) 直近6年間の学生受入状況

入学年度		平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	平均値 ⁵⁾
入学定員	A	173	173	173	173	173	153	150.83
実入学者数 ¹⁾	B	173	182	147	128	144	131	
入学定員充足率 ²⁾	B/A	1.00	1.05	0.85	0.74	0.83	0.86	0.89
編入学定員		—	—	—	—	—	—	2
編入学者数 ³⁾	C+D+E	0	0	1	2	4	4	
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	0	0	0	1	1	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	1	0
	4年次 E	0	0	1	1	3	3	1

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入学者数の編入学受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料2-3) 評価実施年度の直近5年間における学年別の学籍異動状況

		平成30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	200	170	146	167	154
	休学者数 ²⁾	0	1	0	0	1
	退学者数 ²⁾	16	20	16	21	24
	留年者数 ²⁾	23	17	23	22	15
	進級率 ³⁾	0.81	0.78	0.73	0.74	0.74
2年次	在籍者数 ¹⁾	178	199	164	142	154
	休学者数 ²⁾	2	0	0	0	1
	退学者数 ²⁾	15	14	13	20	20
	留年者数 ²⁾	36	31	33	33	27
	進級率 ³⁾	0.70	0.77	0.72	0.63	0.69
3年次	在籍者数 ¹⁾	134	153	174	146	127
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	4	6	10	8	8
	留年者数 ²⁾	28	20	29	39	22
	進級率 ³⁾	0.76	0.83	0.78	0.68	0.76
4年次	在籍者数 ¹⁾	123	105	132	141	124
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	1	2	2	1	3
	留年者数 ²⁾	2	4	3	22	21
	進級率 ³⁾	0.98	0.94	0.96	0.84	0.81
5年次	在籍者数 ¹⁾	178	139	111	132	146
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	1	3	0	0	6
	留年者数 ²⁾	19	12	5	28	23
	進級率 ³⁾	0.89	0.89	0.95	0.79	0.80

1) 在籍者数は、当該年度当初(4月1日)における1年次から5年次に在籍していた学生数を記載してください。

2) 休学者数、退学者数、留年者数については、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載してください。
ただし、同一学生に複数の事象が発生した場合は、後の事象だけに算入してください。
なお、前期に休学して後期から復学した学生については、進級できなかった場合は休学として算入し、進級した場合は算入しないでください。

3) 進級率は、次式で計算した結果を、小数点以下第2位まで記入してください。

$$\frac{[(\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数})]}{(\text{在籍者数})}$$

(基礎資料2-4) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A		168	160	124	106	103
学士課程修了(卒業)者数 B		85	74	38	39	50
卒業率 ²⁾ B/A		0.51	0.46	0.31	0.37	0.49
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	78	74	37	35	47
	7年	7	0	0	3	2
	8年	0	0	1	0	0
	9年以上	0	0	0	0	0
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D		205	202	164	142	173
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D		0.38	0.37	0.23	0.25	0.27

1)9月卒業などの卒業延期生、休退学者を除いた数字を記載してください。

2)卒業率=(学士課程修了者数)/(6年次の在籍者数)の値(B/A)を小数点以下第2位まで記載してください。

3)「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4)それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。

5)ストレート卒業率=(卒業までに要した在学期間が6年間の学生数)/(入学時の学生数)の値(C/D)を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	医療概論 早期臨床体験	早期臨床体験				
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)						
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)						
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	医療概論					
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)						
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	医療概論					
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。						
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。						
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。						
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。						
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。						
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。						
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)						
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	医療概論					
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。						
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。						
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。						
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)						
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。						
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	医療概論					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。						
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。						
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）						
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）	医療概論 生命・医療倫理学					
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。						
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）						
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。						
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。	生命・医療倫理学					
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。						
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。						
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）	生命・医療倫理学					
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。						
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。						
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度）						
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	生命・医療倫理学					
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。						
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）						
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	医療概論	医療コミュニケーション学 プレゼンテーション論		実務実習 I		
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。						
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。		医療コミュニケーション学				
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）						
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）						
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度）		医療コミュニケーション学 プレゼンテーション論				
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度）						
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。		医療コミュニケーション学		事前学習 実務実習Ⅰ		
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度）						
（4）多職種連携協働とチーム医療						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。		医療概論	調剤学	事前学習	ポスト教育	
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。						
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。						
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度）						
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度）		化学系演習				
（5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度）	生命・医療倫理学					
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（技能）		基礎実習				
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。（知識・技能）		基礎実習 プレゼンテーション論				
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能）		基礎実習				
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）		プレゼンテーション論				
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	医療概論					
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度）		化学系実習				
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	医療概論					
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能）						
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度）					ポスト教育	
2) 後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）						
B 薬学と社会						
（1）人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。		医療コミュニケーション学		薬事関係法規・制度		
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。（態度）						
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。（態度）						
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。（態度）	早期臨床体験					
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。（態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。				薬事関係法規・制度		地域薬局論
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。						
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。						
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。						
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。	医療概論					
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。						地域薬局論
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品）の定義について説明できる。				薬事関係法規・制度		
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。						
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。						
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。						
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。						
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。						
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。						
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。			物理系演習			
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。						
10) 健康被害救済制度について説明できる。						
11) レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。						
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	医療概論			薬事関係法規・制度		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。						
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。						
(3) 社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。				薬事関係法規・制度		
2) 医療保険制度について説明できる。						
3) 療養担当規則について説明できる。						
4) 公費負担医療制度について概説できる。						
5) 介護保険制度について概説できる。						
6) 薬価基準制度について概説できる。						
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。						地域薬局論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。				薬事関係法規・制度		
2) 国民医療費の動向について概説できる。						
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。						
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。						
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	医療概論			薬事関係法規・制度		地域薬局論
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。						
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。						
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。						
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。						
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。						
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。	医療概論		調剤学	薬事関係法規・制度		地域薬局論
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。						
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。						
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)						
C 薬学基礎						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。	理論科学		無機化学 有機化学演習			
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。						
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。			有機化学演習			
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	理論科学 有機化学 I		無機化学			
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。						
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4) 分散力について例を挙げて説明できる。						
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	理論科学					
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		放射化学				
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。			分析化学Ⅲ			
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。						
5) 光の散乱および干渉について説明できる。						
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。						
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		放射化学	物理系演習			
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。						
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		物理化学Ⅰ				
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。		物理化学Ⅱ	物理系演習			
2) 熱力学第一法則を説明できる。						
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。						
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6) エンタルピーについて説明できる。						
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。		物理化学Ⅱ	物理系演習			
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 熱力学第三法則について説明できる。						
4) ギブズエネルギーについて説明できる。						
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。						
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学Ⅱ	物理系演習			
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。						
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。						
4) 共役反応の原理について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。			物理化学Ⅲ			
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 状態図について説明できる。						
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。			物理化学Ⅲ			
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。						
4) イオン強度について説明できる。						
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。			物理化学Ⅲ			
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。						
(3) 物質の変化						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学Ⅰ	物理系演習			
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学Ⅰ 物理系実習				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学Ⅰ				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学Ⅰ 物理系実習				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。			物理系演習			
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		物理化学Ⅰ				
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。						
C2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)		分析化学Ⅰ 基礎実習 物理系実習				
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)		分析化学Ⅰ 基礎実習				
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。						
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。		分析化学Ⅰ 無機化学	物理系演習			
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)		分析化学Ⅰ 無機化学 基礎実習 物理系実習				
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)		分析化学Ⅰ 基礎実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。		分析化学Ⅰ 無機化学 基礎実習	物理系演習			
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		分析化学Ⅰ 無機化学	物理系演習			
2) 沈殿平衡について説明できる。		分析化学Ⅱ				
3) 酸化還元平衡について説明できる。		分析化学Ⅱ 無機化学				
4) 分配平衡について説明できる。		分析化学Ⅱ				
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		分析化学Ⅱ				
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学Ⅱ 化学系実習				
【②定量分析（容量分析・重量分析）】						
1) 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ 基礎実習	物理系演習			
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）		分析化学Ⅱ 基礎実習 物理系実習				
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学Ⅱ	物理系演習			
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
(4) 機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ	分析化学Ⅲ 物理系演習			
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ			
3) 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。						
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。						
5) 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。						
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）		物理系実習	構造解析演習			
【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ			
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ			
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。			分析化学Ⅲ			
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。			分析化学Ⅲ			
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。						
(5) 分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。			分析化学Ⅳ			
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		物理系実習				
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅳ			
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。			分析化学Ⅳ			
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を挙げる。			分析化学Ⅳ			
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。						
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		放射化学				
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅳ 有機化学演習	有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。		無機化学 有機化学Ⅳ 有機化学演習	有機化学Ⅴ			
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。		有機化学Ⅳ 有機化学演習	有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。		無機化学 有機化学Ⅳ 有機化学演習				
5) ルイス酸・塩基、プレンステッド酸・塩基を定義することができる。		有機化学Ⅳ 有機化学演習				
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。		有機化学Ⅳ 有機化学演習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ 有機化学Ⅳ 有機化学演習	有機化学Ⅴ			
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。		有機化学Ⅳ 有機化学演習				
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)		有機化学Ⅲ 有機化学Ⅳ 化学系実習 有機化学演習	有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機化学Ⅰ	基礎実習 有機化学演習	有機化学Ⅴ			
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。		基礎実習 化学系実習 有機化学演習				
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。						
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)						
6) 炭素—炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。		有機化学Ⅲ 基礎実習 有機化学演習				
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)		基礎実習 有機化学演習				
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。						
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学Ⅰ	基礎実習 有機化学演習				
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)						
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。						
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)		基礎実習 化学系実習 有機化学演習				
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学Ⅲ 有機化学Ⅳ 化学系実習 有機化学演習				
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学Ⅲ 有機化学演習				
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
【③芳香族化合物】						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機化学Ⅳ				
2) 芳香族性の概念を説明できる。						
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学Ⅳ 化学系実習				
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学Ⅳ	有機化学Ⅵ			
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ 基礎実習 有機化学演習	有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		基礎実習 化学系実習	有機化学Ⅵ			
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ 有機化学演習				
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。		有機化学演習	有機化学Ⅵ			
3) 脱離反応の特徴について説明できる。						
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ 有機化学演習	有機化学Ⅴ			
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒドおよびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅴ			
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		化学系実習	有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機化学Ⅱ	有機化学演習	有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学Ⅱ	化学系実習 有機化学演習	有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。			有機化学Ⅵ			
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ^1H および ^{13}C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。			有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ 構造解析演習			
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
3) ^1H NMR の積分値の意味を説明できる。						
4) ^1H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。						
5) 代表的な化合物の部分構造を ^1H NMR から決定できる。(技能)		物理系実習				
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。			有機化学Ⅴ 有機化学Ⅵ			
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)			構造解析演習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。			有機化学VI 構造解析演習			
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		物理系実習				
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。						
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		物理系実習				
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		物理系実習	構造解析演習			
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。		無機化学				
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。						
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						
G4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。		生命科学 I	有機化学V 医薬品化学 I	医薬品化学 II		
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			医薬品化学 I			
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	機能形態学 I		医薬品化学 I	医薬品化学 II		
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。						
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。		無機化学				
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。						
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。		生命科学 II				
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。						
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。		生命科学 I		医薬品化学 II		
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		薬理学 I		医薬品化学 II		
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。						
【④生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。		生命科学 II		医薬品化学 II		
2) 異物代謝の反応(発がん性物質の代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。			医薬品化学 I			
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など)から説明できる。			医薬品化学 I	医薬品化学 II		
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性など)を説明できる。			医薬品化学 I	医薬品化学 II		
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。						
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			医薬品化学 I	医薬品化学 II		
2) バイオアイソスター(生物学的等価体)について、代表的な例を挙げて概説できる。						
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。						
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学 I	医薬品化学 II		
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
5) β -ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 II		
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 II		
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学 I			
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学 II		
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品(アルキル化剤、シスプラチン類)を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			医薬品化学 I			
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。			医薬品化学 I	医薬品化学 II		
C5 自然が生み出す薬物						
（1）薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。	薬用資源学	生薬学				
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。（知識、技能）		化学系実習				
3) 植物の主な内部形態について説明できる。						
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。						
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		生薬学				
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。		生薬学				
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。						
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学				
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学 化学系実習				
3) 代表的な生薬を鑑別できる。（技能）		化学系実習				
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学 化学系実習				
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		生薬学				
（2）薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。	薬用資源学		天然物化学			
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			天然物化学			
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。（知識、技能）	薬用資源学	化学系実習	天然物化学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			天然物化学			
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。						
3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。						
C6 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	機能形態学 I	生命科学 I				
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。						
【②細胞小器官】						
1) 細胞小器官 (核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど) やリボソームの構造と機能を説明できる。		生命科学 I				
【③細胞骨格】						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	機能形態学 I	生命科学 I 機能形態学 II				
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。		生命科学 I				
【②糖質】						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。		生命科学 I				
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。		生命科学 I				
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造 (一次、二次、三次、四次構造) と性質を説明できる。		生命科学 I		医薬品化学 II		
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) ヌクレオチドと核酸 (DNA、RNA) の種類、構造、性質を説明できる。		生命科学 I				
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。		生命科学 I				
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。		生命科学 I				
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)			生物系実習			
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多彩な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。		生命科学 I				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。		生命科学 I				
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。		生命科学 I				
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		物理系実習				
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。		生命科学 I				
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。						
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。			生命科学 III			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。			生命科学 III			
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。						
3) RNA の種類 (hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。						
【③遺伝子の複製】						
1) DNA の複製の過程について説明できる。			生命科学 III			
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。			生命科学 III			
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。						
3) 転写因子による転写制御について説明できる。						
4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。						
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。			生命科学 III			
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。			生命科学 III 生命科学 IV			
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。			生命科学 IV			
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。		生命科学 II				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②ATPの産生と糖質代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		生命科学Ⅱ				
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。						
3) 電子伝達系(酸化的リン酸化)とATP合成酵素について説明できる。						
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。						
5) 糖新生について説明できる。						
【③脂質代謝】						
1) 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。		生命科学Ⅱ				
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。						
【④飢餓状態と飽食状態】						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		生命科学Ⅱ				
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		生命科学Ⅱ				
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。			生命科学Ⅲ			
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生命科学Ⅱ				
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	機能形態学Ⅰ					
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学Ⅰ					
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	機能形態学Ⅰ					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。						
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	機能形態学Ⅰ					
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	機能形態学Ⅰ 基礎生物学					
【②細胞死】						
1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	機能形態学Ⅰ					
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	機能形態学Ⅰ					
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
（1）人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1）遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。			生命科学Ⅲ			
2）遺伝子多型について概説できる。						
3）代表的な遺伝疾患を概説できる。			生命科学Ⅳ			
【②発生】						
1）個体発生について概説できる。	基礎生物学					
2）細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。						
【③器官系概論】						
1）人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学Ⅰ	基礎実習				
2）組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3）実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）		基礎実習	薬理学実習			
4）代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）						
【④神経系】						
1）中枢神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ					
2）末梢（体性・自律）神経系について概説できる。						
【⑤骨格系・筋肉系】						
1）骨、筋肉について概説できる。	機能形態学Ⅰ					
2）代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【⑥皮膚】						
1）皮膚について概説できる。	機能形態学Ⅰ					
【⑦循環器系】						
1）心臓について概説できる。	機能形態学Ⅱ					
2）血管系について概説できる。						
3）リンパ管系について概説できる。						
【⑧呼吸器系】						
1）肺、気管支について概説できる。		機能形態学Ⅱ				
【⑨消化器系】						
1）胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学Ⅱ					
2）肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。						
【⑩泌尿器系】						
1）泌尿器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ				
【⑪生殖器系】						
1）生殖器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ				
【⑫内分泌系】						
1）内分泌系について概説できる。		機能形態学Ⅱ				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	機能形態学 I					
【⑭血液・造血器系】						
1) 血液・造血器系について概説できる。		機能形態学 II 基礎実習				
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学 I					
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。						
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。		機能形態学 II				
【③オータコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		機能形態学 II				
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		機能形態学 II				
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。		機能形態学 II				
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。		機能形態学 II				
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。		機能形態学 II				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態学 I					
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		機能形態学 II				
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。		機能形態学 II				
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。			免疫学			
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。						
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。						
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。			免疫学			
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。			免疫学			
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性 (遺伝子再構成) と活性化について説明できる。						
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。						
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学			
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。						
4) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。						
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類 (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど) について説明できる。			免疫学			
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。						
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。						
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能)			生物系実習			
(3) 微生物の基本						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学 I 微生物学 II				
【② 細菌】						
1) 細菌の分類や性質 (系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。		微生物学 I 微生物学 II				
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。						
3) 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。						
4) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。						
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。						
【③ ウイルス】						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学 I 微生物学 II				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学 I				
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学 II				
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学 I				
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		微生物学 II				
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)			生物系実習			
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
(4) 病原体としての微生物						
【①感染の成立と共生】						
1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		微生物学 I				
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学 II				
【②代表的な病原体】						
1) DNA ウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		微生物学 II				
2) RNA ウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。						
3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など)について概説できる。						
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。						
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。						
6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。						
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。						
8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。						
9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。						
D 衛生薬学						
D1 健康						
(1) 社会・集団と健康						
【①健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学			
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。						
3) 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。						
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生学			
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）						
(2) 疾病の予防						
【①疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学			
2) 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。						
【②感染症とその予防】						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。			公衆衛生学			
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。						
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。						
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。						
【③生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			公衆衛生学			
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。						
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）						
【④母子保健】						
1) 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			公衆衛生学			
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
【⑤労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			公衆衛生学			
2) 労働衛生管理について説明できる。						
(3) 栄養と健康						
【①栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			食品衛生学 I			
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。						
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。						
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。						
【②食品機能と食品衛生】						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			食品衛生学 I			
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			食品衛生学 I 衛生薬学実習			
3) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。			食品衛生学 II			
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			食品衛生学 I 衛生薬学実習			
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			食品衛生学 II			
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。						
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			食品衛生学 II			
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			環境衛生学 II			
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)						
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。						
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			環境衛生学 II			
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			環境衛生学 II 衛生薬学実習			
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。			環境衛生学 II			
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。						
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			環境衛生学Ⅱ			
2) 遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。						
3) 発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。						
【④放射線の生体への影響】						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。			環境衛生学Ⅱ			
2) 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。						
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
4) 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		環境衛生学Ⅰ				
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。						
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）						
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		環境衛生学Ⅰ				
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。						
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		環境衛生学Ⅰ				
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。						
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			衛生薬学実習			
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			衛生薬学実習			
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。		環境衛生学Ⅰ				
2) 主な大気汚染物質を測定できる。（技能）						
3) 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。						
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）		環境衛生学Ⅰ	衛生薬学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【⑥廃棄物】							
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。		環境衛生学 I					
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。							
3) マニフェスト制度について説明できる。							
E 医療薬学							
E1 薬の作用と体の変化							
(1) 薬の作用							
【①薬の作用】							
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学 I	病態薬物治療学Ⅲ				
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。							
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。							
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。							
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)							
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)		病態薬物治療学 I	病態薬物治療学Ⅲ				
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。							
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)				薬理学 I			
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。							
【②動物実験】							
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)		基礎実習	薬理学実習				
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)				薬理学実習 衛生薬学実習			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)					薬理学実習		
【③日本薬局方】							
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。			製剤学 I				
(2) 身体の病的変化を知る							
【①症候】							
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰部部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害				病態薬物治療学 V			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				病態薬物治療学Ⅴ		
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			薬理学実習			
(3) 薬物治療の位置づけ						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。		病態薬物治療学Ⅰ				
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）						
(4) 医薬品の安全性						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学Ⅰ				
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害		病態薬物治療学Ⅰ	病態薬物治療学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ	病態薬物治療学Ⅴ		
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）	医療概論					
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）				薬理学実習		
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。				薬理学実習		
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）						
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）		薬理学Ⅰ	病態薬物治療学Ⅲ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ				
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。						
3) 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
4) 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅳ	病態薬物治療学Ⅴ		
5) うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
6) 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
7) てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学Ⅲ			
8) 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ	病態薬物治療学Ⅴ		
9) Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学Ⅳ			
10) 認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学Ⅳ			
11) 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。			病態薬物治療学Ⅲ			
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）			病態薬物治療学Ⅳ			
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症			病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ			
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			医薬品化学Ⅰ			
（2）免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅳ			
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。						
3) 創傷治癒の過程について説明できる。						
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅳ			
2) 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症症候群、薬疹			病態薬物治療学Ⅳ			
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅳ			
6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病			病態薬物治療学Ⅳ			
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 バセドウ病 (重複)、橋本病 (重複)、悪性貧血 (重複)、アジソン病、1型糖尿病 (重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複)、シェーグレン症候群			薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅳ	病態薬物治療学Ⅴ		
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ (重複)						
9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態薬物治療学Ⅳ			
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		病態薬物治療学Ⅰ	薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ	病態薬物治療学Ⅴ		
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ			
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅲ			
【④化学構造と薬効】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			医薬品化学Ⅰ			
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮 (PAC)、心室性期外収縮 (PVC)、心房細動 (Af)、発作性上室頻拍 (PSVT)、WPW症候群、心室頻拍 (VT)、心室細動 (Vf)、房室ブロック、QT延長症候群		薬理学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅰ		病態薬物治療学Ⅴ		
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3) 虚血性心疾患 (狭心症、心筋梗塞) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症 (腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)						
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症 (ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患						
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【②血液・造血系疾患の薬、病態、治療】							
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ				
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。							
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血							
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓性血小板減少症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E2(7)【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)							
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】							
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ				
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態薬物治療学Ⅰ	薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅳ	病態薬物治療学Ⅴ			
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石		病態薬物治療学Ⅰ			病態薬物治療学Ⅴ		
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫							
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			病態薬物治療学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅳ				
【④化学構造と薬効】							
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅳ				
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬							
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】							
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ	病態薬物治療学Ⅴ			
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。				薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】							
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎				薬理学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ	病態薬物治療学Ⅴ		
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
6) 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						病態薬物治療学Ⅴ	
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
【③化学構造と薬効】							
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学Ⅲ 薬理学Ⅳ				
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬							
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】							
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	医薬品化学Ⅱ			薬理学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅱ	病態薬物治療学Ⅴ		
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態薬物治療学Ⅰ					
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】							
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ				
2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅱ	病態薬物治療学Ⅴ		
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態薬物治療学Ⅰ					
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内膜症(重複)、アジソン病(重複)						病態薬物治療学Ⅴ	
【③化学構造と薬効】							
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学Ⅲ 薬理学Ⅳ				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅲ	病態薬物治療学Ⅴ		
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症						
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅲ			
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎				病態薬物治療学Ⅴ		
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(2)【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅲ	病態薬物治療学Ⅴ		
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(7)【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)						
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。 尋麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)						
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅳ			
(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗菌薬			感染症治療学			
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。						
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			感染症治療学			
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症)を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎						
2) 以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎			感染症治療学				
4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎							
5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等							
6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。							
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病							
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。							
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等							
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症							
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】							
1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				感染症治療学			
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。							
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。							
4) ウイルス性肝炎 (HAV、HBV、HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理 (急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(重複)							
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態薬物治療学IV 感染症治療学				
6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性紅斑 (リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルトヤコブ) 病			感染症治療学				
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】							
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			感染症治療学				
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症							
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】							
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			感染症治療学				
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。				がん化学療法学		
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査 (細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー (腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学 (がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因						
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。						
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬				がん化学療法学		
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用 (下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害 (手足症候群を含む)、血小板減少等) の軽減のための対処法を説明できる。						
4) 代表的ながん化学療法法のレジメン (FOLFOX等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。						
5) 以下の白血病について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性 (慢性) 骨髄性白血病、急性 (慢性) リンパ性白血病、成人T細胞白血病 (ATL)						
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
7) 骨肉腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌						
9) 肺癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍						
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌						
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
13) 乳癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態 (病態生理、症状等) と治療を説明できる。				がん化学療法学		
2) がん性疼痛の病態 (病態生理、症状等) と薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
【⑩化学構造と薬効】						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。				がん化学療法学		
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【①組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			生命科学IV			
2) 代表的な組換え体医薬品を挙げる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			生命科学IV			
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			生命科学IV			
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。						
4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。						
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				医薬品情報学		
2) 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。						
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。						
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				事前学習		
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				医薬品情報学		
6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)				事前学習		
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。				漢方治療論		
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証						
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。						
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。				漢方治療論		
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。						
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。				漢方治療論		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)			病態薬物治療学Ⅳ			
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)			環境衛生学Ⅱ			
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)		病態薬物治療学Ⅰ				
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。				医薬品情報学		
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。						
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。						
5) 医薬品情報に関する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。						
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。				医薬品情報学		
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。						
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						
4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。						
5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。						
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。						
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)				事前学習		
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)				医薬品情報学		
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)				事前学習		
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。				医薬品情報学		
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。				医薬品情報学		
2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。						
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。(E3(1)【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。		医療統計学				
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。						
3) 代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布）について概説できる。						
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。						
5) 二群間の差の検定（t検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）			薬理学実習			
6) 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。						
7) 基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。						
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それぞれの特徴を概説できる。		医療統計学				
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。						
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。						
4) 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。						
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。						
6) 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。						
7) 統計解析時の注意点について概説できる。						
8) 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。						
9) 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）						
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				医薬品情報学		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。（技能）						
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）					事前学習	
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				医薬品情報学		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム（POS）を説明できる。				医薬品情報学		
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。						
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。						
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 （A（2）【③患者の権利】参照）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 個別化医療						
【①遺伝的素因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				臨床薬物動態学		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。						
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与设计において注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学		
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与设计において注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与设计において注意すべき点を説明できる。						
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。				臨床薬物動態学		
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）				臨床薬物動態学		
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
E4 薬の生体内運命						
(1) 薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。				薬物動態学 I		
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。						
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。				薬物動態学 I		
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						
3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。						
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。					臨床薬物動態学	
5) 初回通過効果について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			薬物動態学 I			
2) 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。						
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。						
4) 血液－組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。						
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。						
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。					臨床薬物動態学	
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			薬物動態学 I			
2) 薬物代謝の第 I 相反応（酸化・還元・加水分解）、第 II 相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。					衛生薬学実習	
3) 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。						
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			薬物動態学 I 製剤学 II			
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			薬物動態学 I	臨床薬物動態学		
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			薬物動態学 I			
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。						
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。						
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。						
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。					臨床薬物動態学	
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。				薬物動態学 II		
2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注）。（知識、技能）				薬物動態学 II 薬剤学実習		
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）						
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。				薬物動態学 II		
5) 組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。						
6) 薬物動態学－薬力学解析（PK-PD解析）について概説できる。				臨床薬物動態学 薬剤学実習		
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。				臨床薬物動態学 薬剤学実習		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）						
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。			物理薬剤学			
2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。						
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (G2 (2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び【②各種の化学平衡】2. 参照)			物理化学Ⅲ 物理薬剤学			
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。						
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学			
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形(レオロジー)について説明できる。			物理化学Ⅲ 物理薬剤学			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。						
【③分散系材料】						
1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (G2 (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照)			物理薬剤学			
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。						
3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。						
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			物理薬剤学			
2) 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。 (G1 (3) 【①反応速度】1. ~7. 参照)						
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学Ⅰ			
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
3) 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。						
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。						
6) その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。						
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学Ⅰ			
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【③生物学的同等性】							
1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤学 I				
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)							
【①DDS の必要性】							
1) DDS の概念と有用性について説明できる。			製剤学 II				
2) 代表的な DDS 技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4. も参照)							
【②コントロールドリリース (放出制御)】							
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。			製剤学 II				
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。							
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。							
【③ターゲティング (標的指向化)】							
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤学 II				
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。							
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。							
【④吸収改善】							
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。			製剤学 II				
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。							
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。							
F 薬学臨床							
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項							
(1) 薬学臨床の基礎							
【①早期臨床体験】 ※原則として 2 年次修了までに学習する事項							
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期臨床体験						
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)							
3) 一次救命処置 (心肺蘇生、外傷対応等) を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)							
【②臨床における心構え】 [A (1)、(2) 参照]							
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)				事前学習			
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				事前学習 実務実習 I			
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)							
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)				実務実習 I	実務実習 II ポスト教育		
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)							
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)						実務実習 II	
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【③臨床実習の基礎】							
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				事前学習			
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。							
3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。							
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。							
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。 〔B（3）①参照〕				薬事関係法規・制度 事前学習			
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。				実務実習Ⅱ			
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。							
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）							
9) 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。							
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。							
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習Ⅰ		
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。							
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。							
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。							
15) 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）							
（2）処方せんに基づく調剤							
【①法令・規則等の理解と遵守】 〔B（2）、（3）参照〕							
1) 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			調剤学	薬事関係法規・制度 事前学習			
2) 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）				実務実習Ⅰ	実務実習Ⅱ		
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）							
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。							
【②処方せんと疑義照会】							
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。			調剤学	事前学習			
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。							
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。							
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。							
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。					事前学習 実務実習Ⅰ		
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）					事前学習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
7) 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）				実務実習 I	実務実習 II		
8) 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）							
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）							
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方妥当であるか判断できる。（知識・技能）							
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）							
【③処方せんに基づく医薬品の調製】							
1) 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）				事前学習			
2) 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。			調剤学				
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）				事前学習 実務実習 I			
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。			調剤学	事前学習			
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。							
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）				事前学習 薬剤学実習			
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）				事前学習			
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）				実務実習 I	実務実習 II		
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）							
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）							
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）							
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）							
13) 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）							
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）							
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。							
16) 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）							
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）							
18) 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）				実務実習 I			
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）							
【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】							
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と応対できる。（態度）				事前学習 実務実習 I			
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				事前学習			
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）				事前学習 実務実習 I			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)				事前学習			
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。							
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)							
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。							
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)				事前学習 実務実習 I			
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)				実務実習 I	実務実習 II		
10) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)							
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)							
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)							
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)							
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)							
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)							
【⑤医薬品の供給と管理】							
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				事前学習			
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。							
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				薬事関係法規・制度 事前学習			
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。							
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。		放射化学		事前学習			
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			調剤学				
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。							
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。			物理薬剤学	事前学習			
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)				実務実習 I	実務実習 II		
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)							
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。							
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)							
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【⑥安全管理】							
1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				事前学習			
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。							
3) 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）							
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。							
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）							
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。							
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。							
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）				実務実習 I	実務実習 II		
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。							
10) 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）							
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）							
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）							
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）							
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）							
（3）薬物療法の実践							
【①患者情報の把握】							
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				事前学習			
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 〔E3（2）①参照〕							
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。							
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）			薬理学実習				
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）				実務実習 I	実務実習 II		
6) 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）							
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）							
【②医薬品情報の収集と活用】 〔E3（1）参照〕							
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）				事前学習			
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）				実務実習 I	実務実習 II		
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）							
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）							
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）							
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】							
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				事前学習			
2) 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。							
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。							
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。							
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。							
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。							
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				実務実習 I	実務実習 II ポスト教育		
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案できる。							
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方提案できる。（知識・態度）						実務実習 II	
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）							
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）							
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）							
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。							
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）							
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】							
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				事前学習			
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）							
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）							
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）				実務実習 I	実務実習 II ポスト教育		
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定提案ができる。（知識・態度）					実務実習 II		
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。（知識・技能）							
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。							
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					実務実習 II ポスト教育		
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。							
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）					実務実習 II		
11) 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）							
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）					実務実習 II ポスト教育		
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）					実務実習 II		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
（4）チーム医療への参画 【A（4）参照】						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。			調剤学	事前学習		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。						
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニックバス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。						
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。（態度）					実務実習Ⅱ	
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。（知識・態度）						
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）						
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）						
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）						
9) 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）						
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。				薬事関係法規・制度 事前学習		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）				事前学習		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）				実務実習Ⅰ	実務実習Ⅱ	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）						
（5）地域の保健・医療・福祉への参画 【B（4）参照】						
【①在宅（訪問）医療・介護への参画】						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。			調剤学	薬事関係法規・制度 事前学習		
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				事前学習		
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				実務実習Ⅰ		
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）						
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）						
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）						
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。				薬事関係法規・制度 事前学習		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			公衆衛生学	事前学習		
3) 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）				実務実習Ⅰ		
4) 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 〔E2（9）参照〕						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)				事前学習		
2) 前) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)						
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)						
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)						
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)				実務実習 I		
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)						
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)						
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)						
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)						
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。				薬事関係法規・制度 事前学習		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。				実務実習 I	実務実習 II	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)						
G 薬学研究						
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。				卒業研究		
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。						
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)						
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)						
(2) 研究に必要な法規範と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				卒業研究		
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲						
(3) 研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)				卒業研究		
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)						
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)						
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)						
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)						
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)						

第一薬科大学カリキュラムマップ

主専攻プログラム モデル体系図

第一薬科大学 薬学プログラム

(専門教育における) 学習の成果	教養教育 到達目標	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	1. 薬学を学ぶ上で基礎となる基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用することができる。	基礎数学(演習)(◎)			基礎統計学(◎)								
	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題(社会のしくみと科学の在り方、知の営みの意味、いのちの重み、多様な文化間の交流や対立、自然と共生する意義など)について、多角的な視点から説明できる。	哲学(○)	哲学(○)	哲学(○)	哲学(○)								
		倫理学(○)	倫理学(○)	倫理学(○)	倫理学(○)								
		法学(○)	法学(○)	法学(○)	法学(○)								
		経済学(○)	経済学(○)	経済学(○)	経済学(○)								
		心理学(◎)											
	特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。	早期体験学習(◎)	早期体験学習(◎)										
		薬学概論(◎)	社会薬学(◎)										
	1. コンピュータと情報ネットワークを理解し、応用的な情報活用ができる。	情報処理演習(◎)	情報処理演習(◎)					医薬品情報学(◎)					
	1. 外国語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。	中国語(○)	中国語(○)										
フランス語(○)		フランス語(○)											
1. 体力・健康づくりの必要性を科学的に説明でき、運動を通じて健康生活の設計と自己管理ができる。	体育実技(△)	体育実技(△)											
1. 幅広い教養ならびに自然科学及び社会科学についての基本的な知識と理解	教養科目	教養科目											
2. 医薬品や無機・有機化合物の基本構造、物理的性質、反応性などの基本的知識と理解	理論化学(◎)	理論化学(◎)	物理化学Ⅰ(◎)	物理化学Ⅱ(◎)	物理薬理学(◎)	応用物理化学(◎)	薬学演習(◎)※基礎薬学演習Ⅱに該当		卒業研究Ⅰ(◎)		卒業研究Ⅱ(◎)		
			有機化学Ⅰ(◎)	有機化学Ⅱ(◎)	製剤学(◎)	臨床物理分析法(◎)							
			化学系実習(◎)	物理系実習(◎)									
3. 生体のホメオスタシス(恒常性)の維持機構とダイナミックな調節機構に関する知識と理解	機能形態学Ⅰ(◎)	機能形態学Ⅰ(◎)	機能形態学Ⅱ(◎)	免疫学(◎)	分子生物学(◎)	分子生物学(◎)	薬学演習(◎)※基礎薬学演習Ⅱに該当		卒業研究Ⅰ(◎)		卒業研究Ⅱ(◎)		
		生化学Ⅰ(◎)	生化学Ⅱ(◎)	生化学Ⅱ(◎)							ゲノム創薬(◎)		
			微生物学(◎)	微生物学(◎)									
				生物系実習(◎)									

教養科目 専門基礎科目 専門科目 卒業研究 臨床実習 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)自由選択科目

第一薬科大学カリキュラムマップ

主専攻プログラム モデル体系図		第一薬科大学 薬学プログラム													
(専門教育における) 学習の成果		1年		2年		3年		4年		5年		6年			
教養教育到達目標		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
知識・理解	4. 様々な臓器に関する主な疾患に対する適切な薬物治療のための基本的知識と理解			薬理学Ⅰ(◎)	薬理学Ⅱ(◎)	薬理学Ⅲ(◎)	薬理学Ⅳ(◎)	薬学演習(◎)※医療薬学演習に該当	薬物治療Ⅰ(◎)	薬物治療Ⅱ(◎)	薬物治療Ⅲ(◎)	薬物治療Ⅳ(◎)	卒業研究Ⅰ(◎)	卒業研究Ⅱ(◎)	
	5. 生態系や生活環境の保全、維持するための環境汚染物質などの成因、ヒトへの影響に関する理解			放射化学(◎)	環境衛生学Ⅰ(◎)	環境衛生学Ⅱ(◎)	公衆衛生学(◎)		衛生薬学演習(◎)				卒業研究Ⅰ(◎)	卒業研究Ⅱ(◎)	
	6. 薬効や副作用を定量的に理解するための薬物動態の理論的解析に関する知識と理解				生物薬剤学(◎)	薬物動態学Ⅰ(◎)	薬物動態学Ⅱ(◎)	医薬品情報学(◎)	薬学演習(◎)※医療薬学演習に該当				卒業研究Ⅰ(◎)	卒業研究Ⅱ(◎)	
	7. 医療チームと薬物治療などに関してコミュニケーションができる知識と理解		コミュニケーション論(◎)		病態生理学Ⅰ(◎)	病態生理学Ⅱ(◎)	病態生理学Ⅱ(◎)	薬学演習(◎)※臨床薬学演習に該当	薬部治療学Ⅲ(◎)			薬物治療学Ⅳ(◎)	卒業研究Ⅰ(◎)	卒業研究Ⅱ(◎)	
	8. 医療人としての人格形成の自己向上力; 薬剤師はヒトの生命にかかわる職業人であることを自覚し、それに相応しい行動・態度。病んでいる人たちのみならず、医療チームの中で他の医療スタッフとコミュニケーションできる知識と理解				医学概論(◎)			薬事関係法規・制度Ⅰ(◎)	薬事関係法規・制度Ⅱ(◎)			臨床心理学(◎)			
	9. 英語の読解力を高め、医療及び化学英語を習得する。	1. 英語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。	基礎英語(◎)	基礎英語(◎)	薬学英語(◎)							臨床薬学英語(◎)			
			英会話(○)	英会話(○)											
知的能力・技能	1. 基本的な医薬品の薬理作用を化学構造と関連づけて思考する能力					医薬品化学A(◎)	医薬品化学B(◎)					卒業研究Ⅰ(◎)	卒業研究Ⅱ(◎)		
	2. 薬物治療に必要な情報を自ら収集できる能力							医薬品情報学(◎)	医療安全性学(◎)			卒業研究Ⅰ(◎)	卒業研究Ⅱ(◎)		
	3. 化学物質の中毒量、標的器官、中毒症状、応急処置法、解毒法を検索できる。					薬理学実習(◎)		医薬品情報学(◎)	医療安全性学(◎)			卒業研究Ⅰ(◎)	卒業研究Ⅱ(◎)		
	4. 臨床検査値の異常から推測される主な疾患を挙げることができる能力・技能				病態生理学Ⅰ(◎)	病態生理学Ⅱ(◎)	病態生理学Ⅱ(◎)					薬物治療学Ⅲ(◎)	薬物治療学Ⅳ(◎)	卒業研究Ⅰ(◎)	卒業研究Ⅱ(◎)
	5. 薬物の有害作用(副作用)軽減のための対処法を思考する能力・技能					薬物治療学Ⅰ(◎)	薬物治療学Ⅱ(◎)	薬物治療学Ⅲ(◎)				薬物治療学Ⅳ(◎)	臨床薬物動態学(◎)	卒業研究Ⅰ(◎)	卒業研究Ⅱ(◎)

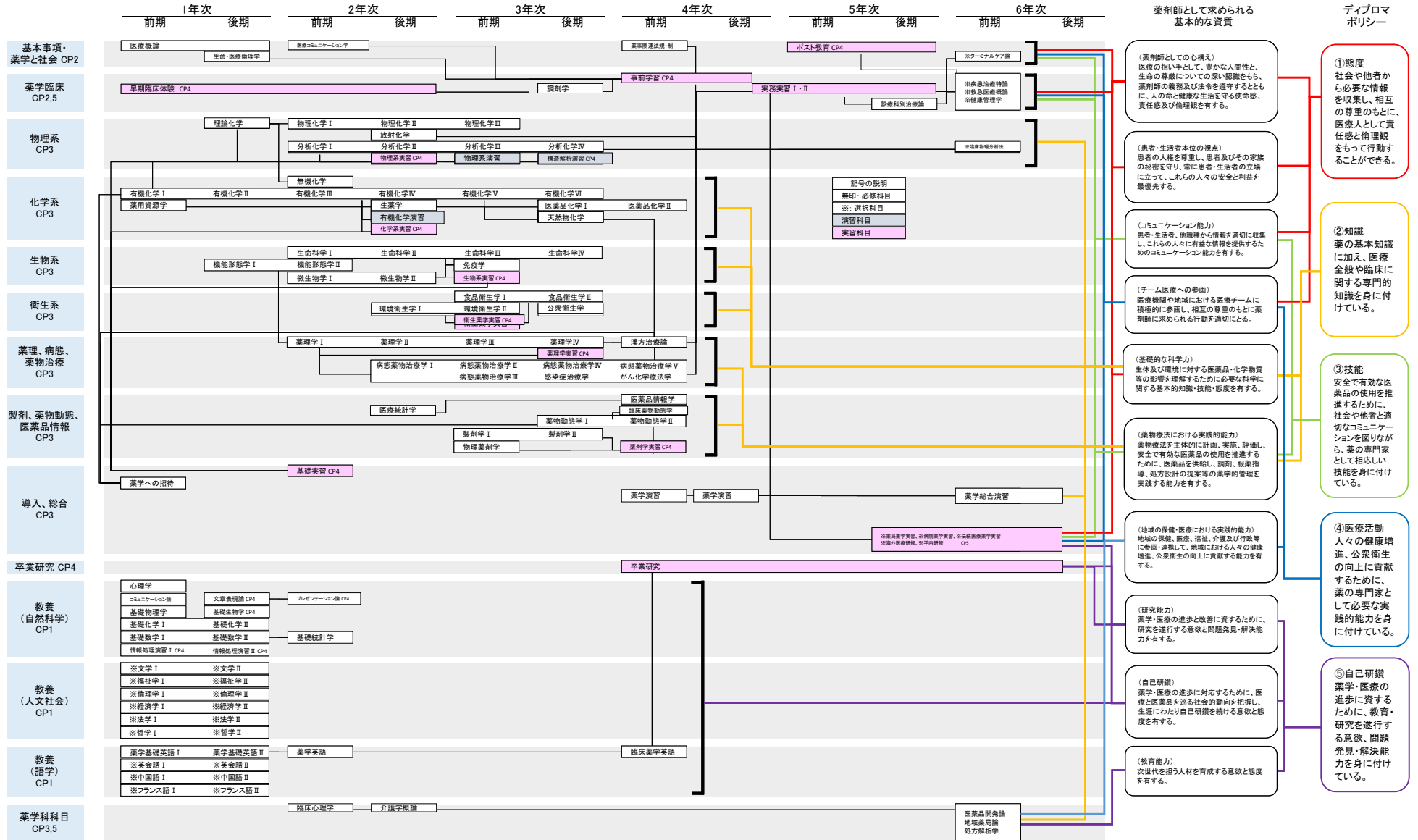
教養科目 専門基礎科目 専門科目 卒業研究 臨床実習 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)自由選択科目

(基礎資料 4-3) カリキュラムマップ (薬学科 : 平成28年度~令和3年度入学生)

カリキュラムマップ(薬学科)

カリキュラムポリシー(CP)

CP1: 豊かな教養と人間性を醸成する教養教育・倫理教育科目を配置します。
 CP2: 国内外の医療従事者と連携できる医療系教養・専門教育科目を配置します。
 CP3: 基礎薬学から医療薬学に至るまで、実践能力を持つ薬剤師として必要な知識、技能を醸成する専門科目を配置します。
 CP4: 問題発見能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を醸成し自己研鑽できる専門科目を配置します。
 CP5: 薬剤師として、様々な医療現場で活躍できる能力を醸成するアドバンスト専門科目を配置します。

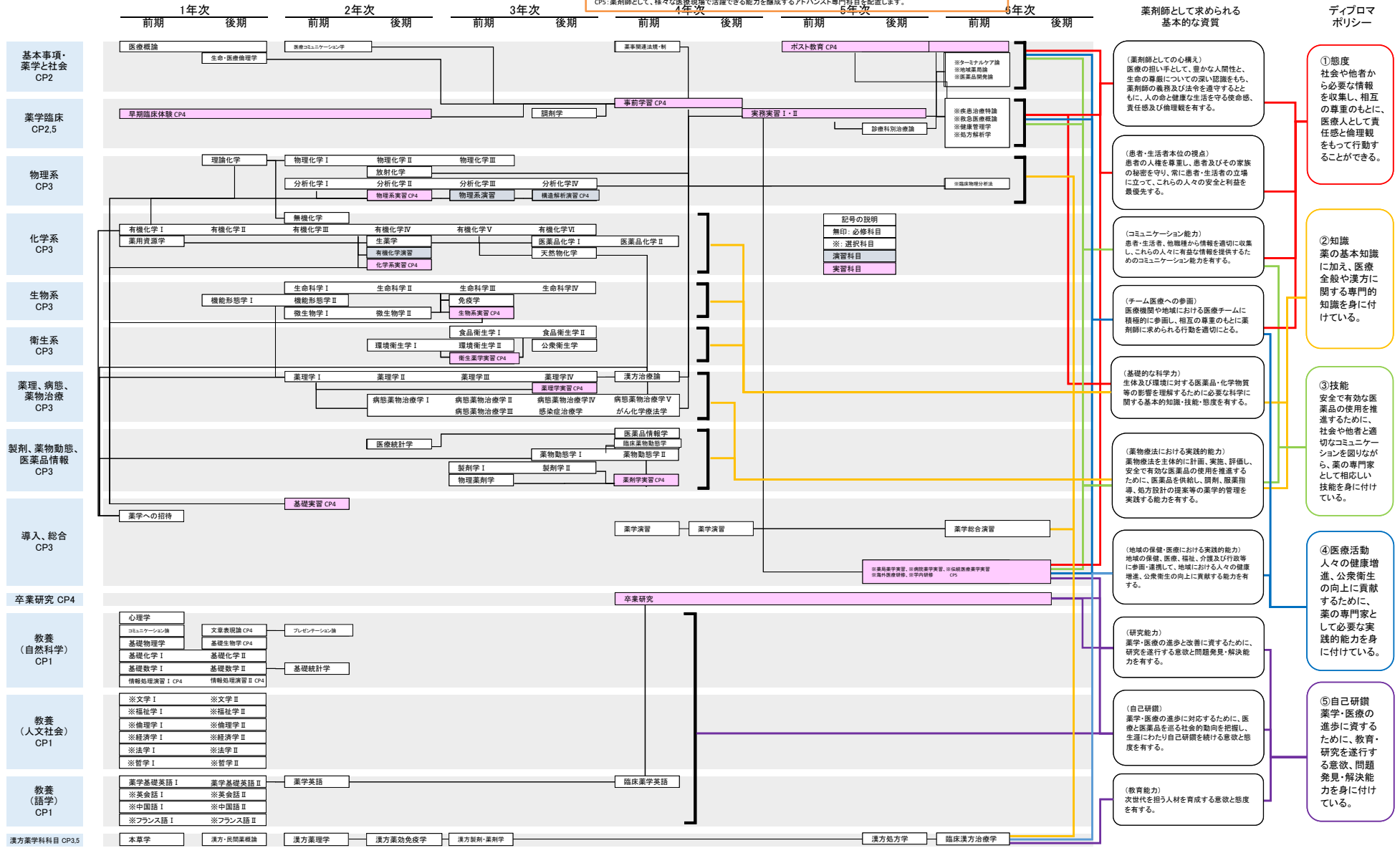


(基礎資料4-4) カリキュラムマップ (漢方薬学科 : 平成28年度~令和3年度入学生)

カリキュラムマップ (漢方薬学科)

カリキュラムポリシー (CP)

- CP1: 豊かな教養と人間性を醸成する教養教育・倫理教育科目を配置します。
- CP2: 国内外の医療従事者と連携できる医療系教養・専門教育科目を配置します。
- CP3: 基礎薬学、医療薬学及び漢方に係る中で、実践能力を持つ薬剤師として必要な知識、技能を醸成する専門科目を配置します。
- CP4: 問題発見能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を醸成し自己研鑽できる専門科目を配置します。
- CP5: 薬剤師として、様々な医療現場で活躍できる能力を醸成するアドバンスト専門科目を配置します。



(基礎資料5) 語学教育の要素

(令和4年度適用カリキュラム)薬学科・漢方薬学科共通

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
薬学基礎英語Ⅰ	1年次	○	○	○	○
薬学基礎英語Ⅱ	1年次	○	○	○	○
英会話Ⅰ	1年次	○	○	○	○
英会話Ⅱ	1年次	○	○	○	○
中国語Ⅰ	1年次	○	○	○	○
中国語Ⅱ	1年次	○	○	○	○
フランス語Ⅰ	1年次	○	○	○	○
フランス語Ⅱ	1年次	○	○	○	○
薬学英語	2年次	○	○	○	○
臨床薬学英語	4年次	○	○	○	○

(平成30年～令和3年度適用カリキュラム)薬学科・漢方薬学科共通

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
薬学基礎英語Ⅰ	1年次	○	○	○	○
薬学基礎英語Ⅱ	1年次	○	○	○	○
英会話Ⅰ	1年次	○	○	○	○
英会話Ⅱ	1年次	○	○	○	○
中国語Ⅰ	1年次	○	○	○	○
中国語Ⅱ	1年次	○	○	○	○
フランス語Ⅰ	1年次	○	○	○	○
フランス語Ⅱ	1年次	○	○	○	○
薬学英語	2年次	○	○	○	○
臨床薬学英語	4年次	○	○	○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料6) 実務実習事前学習のスケジュール

令和4年5月 (4年次用)							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第3週	木	19日			講義・演習F(1)②1, 2, 3, ③1, 2		
	金	20日			演習A(3)②1-2, A(4)5, F(1)②3, F(2)②1, ④5, ⑥2, F(3)②1, ③1, 2, ④1-3		
	土	21日					
第4週	月	23日					
	火	24日					
	水	25日					
	木	26日			講義F(2)②2, ④7, F(3)①1	講義F(2)⑤1-5, 8	
	金	27日			演習A(4)1-5, F(1)③3, 4, F(3)③6, F(4)①1, 2		
土	28日						

令和4年6月 (4年次用)							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	水	1日					
	木	2日			演習F(3)②1, E3(1)⑦3, E3(1)③1, 4		講義F(2)⑥6, F(5)②2
	金	3日			演習A(3)②1-2, A(4)5, F(1)②3, F(2)②1, ④5, ⑥2, F(3)②1, ③1, 2, ④1-3		
	土	4日					
	月	6日					
第2週	火	7日					
	水	8日					
	木	9日			講義F(1)③2, 4, F(4)②1, 2		
	金	10日			演習A(3)②1-2, A(4)5, F(1)②3, ③3, 4, F(2)②1, ④5, ⑥2, F(3)②1, ③1, 2, ④1-3, F(4)①1, 2		
	土	11日					
第3週	月	13日			講義F(4)②1, 2, F(5)①1-3, ②1		
	火	14日					
	水	15日					
	木	16日			演習A(3)②1-2, A(4)5, F(1)②3, F(2)②1, ④5, ⑥2, F(3)②1, ③1, 2, ④1-3		
	金	17日			演習F(2)②1, 5, F(3)③2		
	土	18日					
第4週	月	20日					
	火	21日					
	水	22日					
	木	23日			演習F(3)③3	講義F(3)③5, 6	
	金	24日			演習F(1)③3, 4, F(2)⑥1-3, 7		
	土	25日					
第5週	月	27日					
	火	28日					
	水	29日					
	木	30日			演習A(3)②1-2, A(4)5, F(1)②3, ③3, 4, F(2)②1, ④5, ⑥2, F(3)②1, ③1, 2, ④1-3, F(4)①1, 2		

令和4年7月 (4年次用)							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	金	1日			講義F(5)④1	講義F(4)②1, 2, F(5)①1-3, ②1	
	土	2日					
第2週	月	4日					
	火	5日					
	水	6日					
	木	7日			演習F(5)③1-4		
	金	8日			演習A(3)②1-2, A(4)5, F(1)②3, F(2)②1, ④5, ⑥2, F(3)②, ③1, 2, F④1-3, F(5)①3		
土	9日						
第3週	月	11日			演習A(3)②1-2, A(4)5, F(1)②3, ③3, 4, F(2)②1, ④5, ⑥2, F(3)②1, ③1, 2, ④1-3, F(4)①1, 2		
	火	12日					
	水	13日					
	木	14日			講義・演習F(3)③4		
	金	15日					
土	16日						

令和4年9月 (4年次用)							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第3週	金	16日	ガイダンス			実習F(2)①1, ②3-6, ③4	
	土	17日					
第4週	月	19日	祝日				
	火	20日					
	水	21日			実習F(2)③1-3, 5		
	木	22日			実習F(2)③1-3		
	金	23日			祝日		
土	24日						

第5週	月	26日					
	火	27日					
	水	28日				実習F(2)③1-3	
	木	29日				実習F(2)③1-3	
	金	30日				講義・実習F(2)③5、⑥4-6	

令和4年10月 (4年次用)							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	土	1日					
	月	3日					
	火	4日					
	水	5日				実習F(2)②3-6、③8、F(3)①2	
	木	6日				演習・実習F(2)②1、④1,4,5,7,8、F(3)①2、④1-3	
	金	7日				演習・実習F(2)②1,5,6、④2,7,8、F(3)①2	
第2週	土	8日					
	月	10日				祝日	
	火	11日					
	水	12日				演習・実習E(2)⑨4,8、F(2)②1、④2,4,5、F(3)④1、F(5)③3,4	
	木	13日				実習F(2)③6、F(3)③4	
	金	14日				演習・実習F(2)②1、④1,4,5,7,8、⑥2、F(3)①2、③2、④1-3	
第3週	土	15日					
	月	17日					
	火	18日					
	水	19日				演習・実習F(2)②1、④2,7,8、F(3)①2、③2、④1-3	
	木	20日					
	金	21日				演習・実習F(2)④1,4,6-8	
第4週	土	22日					
	月	24日					
	火	25日					
	水	26日				演習F(2)⑤1-4	
	木	27日				演習F(3)④1	
	金	28日				実習F(3)①3,4	
第5週	土	29日					
	月	31日					

令和4年11月 (4年次用)							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火	1日					
	水	2日				演習F(3)③2、④1	
	木	3日				祝日	
	金	4日				実習F(2)③6,7、F(3)③5	
	土	5日					
第2週	月	7日					
	火	8日					
	水	9日				実習F(2)④1,3,7,8、F(3)④2、F(5)③2	
	木	10日				実習F(2)④1,3,7,8、F(3)④2、F(5)③2	
	金	11日					
	土	12日					
第3週	月	14日				実習F(2)③6,7	
	火	15日					
	水	16日					
	木	17日					
	金	18日					
	土	19日					
第4週	月	21日	実習F(2)④1,3,8		実習F(2)③1,3		
	火	22日					
	水	23日				祝日	
	木	24日	実習F(2)③8、F(3)①2		実習F(2)③6		
	金	25日	実習F(2)③1,3		実習F(2)②6、④1,3,4、F(3)④3		
	土	26日					
第5週	月	28日					
	火	29日					
	水	30日					

令和4年12月（4年次用）							
（週）	（曜日）	（日）	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
第3週	月	12日					
	火	13日					
	水	14日					
	木	15日					
	金	16日					
	土	17日	報告会F(1)②1,3				

令和5年1月（4年次用）							
（週）	（曜日）	（日）	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
第3週	月	16日					
	火	17日					
	水	18日					
	木	19日			ポスト教育報告会F(1)②1,3		
	金	20日					
	土	21日					

- [注]
- 1 実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は各年次、月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートをコピーして適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 **上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**

(基礎資料7) 学生受入状況について(入学試験種類別)

	学科名	入試の種類		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	募集定員数 に対する入 学者数の比 率(6年間 の平均)
				入試(29年 度実施)	入試(30年 度実施)	入試(元年 度実施)	入試(2年度 実施)	入試(3年度 実施)	入試(4年度 実施)	
薬 学 部	薬 学 科	一般選抜	受験者数	119	87	124	86	123	96	
			合格者数	107	84	115	86	111	79	
			入学者数(A)	42	37	49	32	43	38	
			募集定員数(B)	40	40	35	40	38	38	
			A/B*100(%)	105.00	92.50	140.00	80.00	113.16	100.00	105.11
		共通テスト利用選抜 (大学入試センター 入試)	受験者数	106	95	112	92	97	93	
			合格者数	98	73	99	84	73	79	
			入学者数(A)	23	15	19	22	13	17	
			募集定員数(B)	13	13	13	13	10	10	
			A/B*100(%)	176.92	115.38	146.15	169.23	130.00	170.00	151.28
		総合型選抜 (AO入試)	受験者数	11	12	12	11	14	14	
			合格者数	11	12	12	11	14	14	
			入学者数(A)	11	12	12	10	12	13	
			募集定員数(B)	15	15	10	15	15	15	
			A/B*100(%)	73.33	80.00	120.00	66.67	80.00	86.67	84.45
		指定校推薦	受験者数	5	12	23	26	22	25	
			合格者数	5	12	23	26	21	25	
			入学者数(A)	5	12	23	26	21	25	
			募集定員数(B)	15	15	40	20	20	20	
			A/B*100(%)	33.33	80.00	57.50	130.00	105.00	125.00	88.47
		公募制推薦	受験者数	14	5	10	6	8	13	
			合格者数	13	5	9	6	8	13	
			入学者数(A)	8	1	6	2	4	6	
			募集定員数(B)	15	15	10	10	10	10	
			A/B*100(%)	53.33	6.67	60.00	20.00	40.00	60.00	40.00
		社会人選抜	受験者数	3	2	1	0	2	1	
			合格者数	2	2	1	0	1	1	
			入学者数(A)	1	1	1	0	1	1	
			募集定員数(B)	4	4	4	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	25.00	25.00	25.00	-	-	-	12.50
		帰国生徒選抜	受験者数	0	0	0	0	0	0	
			合格者数	0	0	0	0	0	0	
入学者数(A)	0		0	0	0	0	0			
募集定員数(B)	1		1	1	若干名	若干名	若干名			
A/B*100(%)	0.00		0.00	0.00	-	-	-	0		
特待生選抜	受験者数	138	82	-	67	73	77			
	合格者数	111	72	-	67	59	69			
	入学者数(A)	37	23	-	20	14	16			
	募集定員数(B)	10	10	-	15	20	20			
	A/B*100(%)	370.00	230.00	-	133.33	70.00	80.00	147.22		
学 科 計	受験者数	396	295	282	288	339	319			
	合格者数	347	260	259	280	287	280			
	入学者数(A)	127	101	110	112	108	116			
	募集定員数(B)	113	113	113	113	113	113			
	A/B*100(%)	112.39	89.38	97.35	99.12	95.58	102.65	99.41		
編(転)入試験	受験者数	-	-	2	4	4	1			
	合格者数	-	-	2	4	4	1			
	入学者数(A)	-	-	2	4	4	1			
	募集定員数(B)	-	-	若干名	若干名	若干名	若干名			
	A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-	-		

	学科名	入試の種類		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	募集定員数 に対する入 学者数の比 率（6年間 の平均）
				入試（29年 度実施）	入試（30年 度実施）	入試（元年 度実施）	入試（2年度 実施）	入試（3年度 実施）	入試（4年度 実施）	
薬 学 部	漢 方 薬 学 科	一般選抜	受験者数	40	55	8	19	17	19	
			合格者数	39	51	7	18	16	13	
			入学者数(A)	17	16	3	11	8	4	
			募集定員数(B)	25	25	25	25	12	12	
			A/B*100(%)	68.00	64.00	12.00	44.00	66.67	33.33	48.00
		共通テスト利用選抜 (大学入試センター 入試)	受験者数	19	15	6	6	7	14	
			合格者数	17	7	4	5	4	13	
			入学者数(A)	6	0	3	0	1	1	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	8	8	
			A/B*100(%)	60.00	0.00	30.00	0.00	12.50	12.50	19.17
		総合型選抜 (A〇入試)	受験者数	7	4	5	6	3	3	
			合格者数	7	4	5	6	3	3	
			入学者数(A)	6	4	5	5	3	2	
			募集定員数(B)	5	5	3	5	5	5	
			A/B*100(%)	120.00	80.00	166.67	100.00	60.00	40.00	94.45
		指定校推薦	受験者数	7	3	8	5	2	5	
			合格者数	7	3	8	5	2	5	
			入学者数(A)	7	3	7	5	2	5	
			募集定員数(B)	5	5	15	6	6	6	
			A/B*100(%)	140.00	60.00	46.67	83.33	33.33	83.33	74.44
		公募制推薦	受験者数	1	6	0	1	1	1	
			合格者数	1	4	0	1	1	1	
			入学者数(A)	1	2	0	1	0	0	
			募集定員数(B)	5	5	5	4	4	4	
			A/B*100(%)	20.00	40.00	0.00	25.00	0.00	0.00	14.17
		社会人選抜	受験者数	1	3	0	1	5	0	
			合格者数	1	3	0	1	5	0	
			入学者数(A)	0	3	0	1	5	0	
			募集定員数(B)	2	2	1	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	0.00	150.00	0.00	-	-	-	25.00
		帰国生徒選抜	受験者数	0	0	0	0	0	0	
			合格者数	0	0	0	0	0	0	
入学者数(A)	0		0	0	0	0	0			
募集定員数(B)	1		1	1	若干名	若干名	若干名			
A/B*100(%)	0.00		0.00	0.00	-	-	-	0		
特待生選抜	受験者数	52	61	-	22	12	19			
	合格者数	47	55	-	22	10	18			
	入学者数(A)	18	18	-	9	4	3			
	募集定員数(B)	7	7	-	10	5	5			
	A/B*100(%)	257.14	257.14	-	90.00	80.00	60.00	124.05		
学 科 計	受験者数	127	147	27	60	47	61			
	合格者数	119	127	24	58	41	53			
	入学者数(A)	55	46	18	32	23	15			
	募集定員数(B)	60	60	60	60	40	40			
	A/B*100(%)	91.67	76.67	30.00	53.33	57.50	37.50	57.78		
編（転）入試験	受験者数	-	-	0	1	0	0			
	合格者数	-	-	0	0	0	0			
	入学者数(A)	-	-	0	0	0	0			
	募集定員数(B)	-	-	若干名	若干名	若干名	若干名			
	A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-			
一般選抜	受験者数	159	142	132	105	140	115			
	合格者数	146	135	122	104	127	92			
	入学者数(A)	59	53	52	43	51	42			
	募集定員数(B)	65	65	60	65	50	50			
	A/B*100(%)	90.77	81.54	86.67	66.15	102.00	84.00	85.19		

	学科名	入試の種類		平成30年度 入試（29年 度実施）	令和元年度 入試（30年 度実施）	令和2年度 入試（元年 度実施）	令和3年度 入試（2年度 実施）	令和4年度 入試（3年度 実施）	令和5年度 入試（4年度 実施）	募集定員数 に対する入 学者数の比 率（6年間 の平均）
薬 学 部 学 部 計	薬 学 部	共通テスト利用選抜 （大学入試センター 入試）	受験者数	125	110	118	98	104	107	
			合格者数	115	80	103	89	77	92	
			入学者数(A)	29	15	22	22	14	18	
			募集定員数(B)	23	23	23	23	18	18	
			A/B*100(%)	126.09	65.22	95.65	95.65	77.78	100.00	93.40
		総合型選抜 （A〇入試）	受験者数	18	16	17	17	17	17	
			合格者数	18	16	17	17	17	17	
			入学者数(A)	17	16	17	15	15	15	
			募集定員数(B)	20	20	13	20	20	20	
			A/B*100(%)	85.00	80.00	130.77	75.00	75.00	75.00	86.80
		指定校推薦	受験者数	12	15	31	31	24	30	
			合格者数	12	15	31	31	23	30	
			入学者数(A)	12	15	30	31	23	30	
			募集定員数(B)	20	20	55	26	26	26	
			A/B*100(%)	60.00	75.00	54.55	119.23	88.46	115.38	85.44
		公募制推薦	受験者数	15	11	10	7	9	14	
			合格者数	14	9	9	7	9	14	
			入学者数(A)	9	3	6	3	4	6	
			募集定員数(B)	20	20	15	14	14	14	
			A/B*100(%)	45.00	15.00	40.00	21.43	28.57	42.86	32.14
	社会人選抜	受験者数	4	5	1	1	7	1		
		合格者数	3	5	1	1	6	1		
		入学者数(A)	1	4	1	1	6	1		
		募集定員数(B)	6	6	5	若干名	若干名	若干名		
		A/B*100(%)	16.67	66.67	20.00	-	-	-	17.22	
	帰国生徒選抜	受験者数	0	0	0	0	0	0		
		合格者数	0	0	0	0	0	0		
		入学者数(A)	0	0	0	0	0	0		
募集定員数(B)		2	2	2	若干名	若干名	若干名			
A/B*100(%)		0.00	0.00	0.00	-	-	-	0		
特待生選抜	受験者数	190	143	0	89	85	96			
	合格者数	158	127	0	89	69	87			
	入学者数(A)	55	41	0	29	18	19			
	募集定員数(B)	17	17	0	25	25	25			
	A/B*100(%)	323.53	241.18	-	116.00	72.00	76.00	138.12		
学部合計	受験者数	523	442	309	348	386	380			
	合格者数	466	387	283	338	328	333			
	入学者数(A)	182	147	128	144	131	131			
	募集定員数(B)	173	173	173	173	153	153			
	A/B*100(%)	105.20	84.97	73.99	83.24	85.62	85.62	86.44		
編（転）入試験	受験者数	-	-	2	5	4	1			
	合格者数	-	-	2	4	4	1			
	入学者数(A)	-	-	2	4	4	1			
	募集定員数(B)	-	-	若干名	若干名	若干名	若干名			
	A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-	-		

[大学
独自の
注]

- 1 平成29～令和2年度入試の社会人選抜・帰国生徒選抜の募集定員数は、「学生募集要項」の人数を按分して記載しています。
- 2 令和3～4年度入試の指定校推薦・公募制推薦の募集定員数は、「学生募集要項」の人数を按分して記載しています。
- 3 令和3年度入試の特待生選抜の募集定員数は、「学生募集要項」の人数を按分して記載しています。

[注]

- 1 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 2 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合 [A/B*100(%)] を算出してください。
- 3 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 4 各入学（募集）定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 5 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 6 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
19名	10名	10名	2名	41名	36名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
3名	2名	2名	1名	8名	7名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2は含まない

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
3名	7名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
0名	0名	0名	0名

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員¹⁾

事務職員	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
25名	3名	4名	32名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まない。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料9) 専任教員(基礎資料8の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0.0%
60代	9名	1名	1名	0名	11名	26.8%
50代	8名	4名	1名	1名	14名	34.2%
40代	2名	5名	3名	1名	11名	26.8%
30代	0名	0名	5名	0名	5名	12.2%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0.0%
合計	19名	10名	10名	2名	41名	100.0%

専任教員の定年年齢:(_____ 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料8の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	13名	7名	9名	0名	29名	70.7%
女性	6名	3名	1名	2名	12名	29.3%

(基礎資料10) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料8の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学への招待		1.50	0.05
							薬理学Ⅲ		18.00	0.60
							薬理学Ⅳ		18.00	0.60
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							薬理学実習	◎	4.50	0.15
							薬学演習(旧コアのみ)		3.00	0.10
							薬学総合演習		3.00	0.10
							学内研修		3.00	0.10
							薬理学(看護学部)		15.00	0.50
							研究倫理特論(大学院)		1.50	0.05
							統合医療特論(大学院)		3.00	0.10
							臨床応用薬理学特論(大学院)		12.00	0.40
							大学院特別講義(大学院)		1.50	0.05
授業担当時間の合計								99.00	3.30	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬物動態学Ⅰ		22.50	0.75
							薬物動態学Ⅱ		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							薬剤学実習	◎	15.00	0.50
							薬学演習(旧コアのみ)		1.50	0.05
							大学院特別講義(大学院)		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎統計学		22.50	0.75
							薬学概論		3.00	0.10
							臨床薬物動態学		15.00	0.50
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							薬剤学実習	◎	15.00	0.50
							薬学演習(旧コアのみ)		1.50	0.05
							薬学総合演習		3.00	0.10
							学内研修		1.50	0.05
							統合医療特論(大学院)		3.00	0.10
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	医療概論		1.50	0.05
							生命・医療倫理学		4.50	0.15
							ポスト教育	◎	22.50	0.75
							事前学習	◎	153.00	5.10
							実務実習Ⅰ	◎	15.00	0.50
							実務実習Ⅱ	◎	15.00	0.50
							医薬品開発論		7.50	0.25
							処方解析学		15.00	0.50
							薬学演習(旧コアのみ)		3.00	0.10
							薬学総合演習		3.00	0.10
							薬局薬学実習			
							地域医療薬学特論(大学院)		3.00	0.10
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	環境衛生学Ⅰ		22.50	0.75
							環境衛生学Ⅱ		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							薬学演習（旧コアのみ）		6.00	0.20
							薬学総合演習		6.00	0.20
							授業担当時間の合計		94.50	3.15
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生命科学Ⅳ		22.50	0.75
							がん化学療法学		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							生物系実習	◎	10.50	0.35
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		3.00	0.10
							授業担当時間の合計		75.00	2.50

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学への招待		3.00	0.10
							生命・医療倫理学		4.50	0.15
							薬事関係法規・制度		10.50	0.35
							ポスト教育	◎	6.00	0.20
							医薬品情報学		9.00	0.30
							早期臨床体験		12.00	0.40
							事前学習	◎	129.00	4.30
							実務実習Ⅰ	◎	15.00	0.50
							実務実習Ⅱ	◎	15.00	0.50
							医薬品開発論		7.50	0.25
							薬学演習(旧コアのみ)		1.50	0.05
							薬学総合演習		1.50	0.05
							病院薬学実習		7.50	0.25
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎物理学		7.50	0.25
							分析化学Ⅲ		22.50	0.75
							構造解析学(旧構造解析演習)		15.00	0.50
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							物理系実習	◎	18.00	0.60
							薬学演習(旧コアのみ)		1.50	0.05
							研究倫理特論(大学院)		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	微生物学Ⅱ		22.50	0.75
							免疫学		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							生物系実習	◎	12.00	0.40
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		3.00	0.10
							微生物学（看護学部）		12.00	0.40
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	製剤学Ⅰ		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							薬剤学実習	◎	15.00	0.50
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		3.00	0.10
							生化学（看護学部）		22.50	0.75
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	准教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学への招待		1.50	0.05
							ポスト教育	◎	6.00	0.20
							早期臨床体験		12.00	0.40
							調剤学		22.50	0.75
							事前学習	◎	151.50	5.05
							実務実習Ⅰ	◎	15.00	0.50
							実務実習Ⅱ	◎	15.00	0.50
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		3.00	0.10
							診療科別治療論		1.50	0.05
							薬局薬学実習			
							地域薬局論			
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	公衆衛生学		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10
							薬学総合演習		4.50	0.15
							栄養学（看護学部）		15.00	0.50
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎生物学		22.50	0.75
							機能形態学Ⅰ		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10
							科目横断演習Ⅰ		3.00	0.10
							薬学総合演習		1.50	0.05
							学内研修		1.50	0.05
							形態機能学Ⅰ（看護学部）		22.50	0.75
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎化学Ⅰ		22.50	0.75
							基礎化学Ⅱ		22.50	0.75
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学基礎英語Ⅰ		45.00	1.50
							機能形態学Ⅱ		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							薬理学実習	◎	6.00	0.20
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		1.50	0.05
							形態機能学Ⅱ（看護学部）		22.50	0.75
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学概論		1.50	0.05
							生命科学Ⅰ		22.50	0.75
							生命科学Ⅱ	◎	22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							薬学演習（旧コアのみ）		7.50	0.25
							科目横断演習Ⅰ		1.50	0.05
							薬学総合演習		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎生物学		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							看護学生のための生物・化学(看護学部)		6.00	0.20
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学基礎英語Ⅱ		45.00	1.50
							生命科学Ⅲ		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							生物系実習	◎	10.50	0.35
							薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10
							薬学総合演習		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	ポスト教育	◎	6.00	0.20
							事前学習	◎	154.50	5.15
							実務実習Ⅰ	◎	15.00	0.50
							実務実習Ⅱ	◎	15.00	0.50
							ターミナルケア論		15.00	0.50
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		3.00	0.10
							臨床薬理学（看護学部）		10.50	0.35
							授業担当時間の合計		220.50	7.35
薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	ポスト教育	◎	6.00	0.20
							医薬品情報学		6.00	0.20
							早期臨床体験		12.00	0.40
							事前学習	◎	151.50	5.05
							実務実習Ⅰ	◎	15.00	0.50
							実務実習Ⅱ	◎	15.00	0.50
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		3.00	0.10
							授業担当時間の合計		210.00	7.00

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■ ■■■	■■■■■	基礎生物学	22.50	0.75	
							プレゼンテーション論	22.50	0.75	
							薬学概論	3.00	0.10	
							薬理学Ⅲ	4.50	0.15	
							薬理学Ⅳ	4.50	0.15	
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							薬理学実習	◎	9.00	0.30
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							科目横断演習Ⅰ			
							薬学総合演習		1.50	0.05
							薬理学（看護学部）		7.50	0.25
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学概論	1.50	0.05	
							病態薬物治療学Ⅲ	22.50	0.75	
							病態薬物治療学Ⅳ	22.50	0.75	
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							薬理学実習	◎	10.50	0.35
							薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10
							薬学総合演習		1.50	0.05
授業担当時間の合計							76.50	2.55		

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	事前学習	◎	121.50	4.05
							実務実習 I	◎	7.50	0.25
							実務実習 II	◎	7.50	0.25
							生物系実習	◎	12.00	0.40
							薬剤学実習	◎	15.00	0.50
							薬学総合演習		1.50	0.05
							授業担当時間の合計		165.00	5.50
薬学科	助教 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	医療概論		1.50	0.05
							ポスト教育	◎	6.00	0.20
							早期臨床体験		12.00	0.40
							事前学習	◎	151.50	5.05
							実務実習 I	◎	15.00	0.50
							実務実習 II	◎	15.00	0.50
							薬学総合演習		1.50	0.05
							薬局薬学実習			
							授業担当時間の合計		202.50	6.75

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
漢方薬学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	臨床薬学英語	22.50	0.75	
							薬学への招待	1.50	0.05	
							生命・医療倫理学	3.00	0.10	
							薬事関係法規・制度	12.00	0.40	
							ポスト教育	◎	6.00	0.20
							早期臨床体験	12.00	0.40	
							事前学習	◎	157.50	5.25
							実務実習Ⅰ	◎	15.00	0.50
							実務実習Ⅱ	◎	15.00	0.50
							海外大学講師特別講義	7.50	0.25	
							薬学演習（旧コアのみ）	3.00	0.10	
							薬学総合演習	1.50	0.05	
							地域薬局論			
							海外医療研修			
							薬学演習（大学院）	12.00	0.40	
地域医療薬学特論（大学院）	4.50	0.15								
授業担当時間の合計								273.00	9.10	
漢方薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	微生物学Ⅰ	22.50	0.75	
							感染症治療学	22.50	0.75	
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							生物系実習	◎	12.00	0.40
							薬学演習（旧コアのみ）	3.00	0.10	
							薬学総合演習	3.00	0.10	
							微生物学（看護学部）	12.00	0.40	
							研究倫理特論（大学院）	1.50	0.05	
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
漢方薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学への招待	1.50	0.05	
							薬理学Ⅰ	22.50	0.75	
							薬理学Ⅱ	22.50	0.75	
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							薬理学実習	◎	7.50	0.25
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							科目横断演習Ⅰ		1.50	0.05
							薬学総合演習		3.00	0.10
							海外医療研修			
							臨床薬理学（看護学部）		12.00	0.40
							研究倫理特論（大学院）		1.50	0.05
							授業担当時間の合計		88.50	2.95
							漢方薬学科	教授	■■■■■	■
病態薬物治療学Ⅴ	22.50	0.75								
実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25							
実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25							
基礎薬学実習Ⅰ（旧化学系実習）	◎	4.50	0.15							
薬理学実習	◎	4.50	0.15							
薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10							
薬学総合演習		3.00	0.10							
診療科別治療論										
救急医療概論		3.00	0.10							
海外医療研修										
病理学（看護学部）		22.50	0.75							
研究倫理特論（大学院）		3.00	0.10							
統合医療特論（大学院）		3.00	0.10							
授業担当時間の合計		106.50	3.55							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
漢方薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学英語		22.50	0.75
							医療概論		1.50	0.05
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							臨床漢方治療学		6.00	0.20
							伝統医療薬学実習			
							学内研修		1.50	0.05
							ビジネスマナー論		22.50	0.75
							授業担当時間の合計			
漢方薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	分析化学Ⅳ		22.50	0.75
							医薬品化学Ⅰ		12.00	0.40
							早期臨床体験		10.50	0.35
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							物理系実習	◎	18.00	0.60
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							科目横断演習Ⅰ			
							臨床物理分析法		15.00	0.50
							大学院特別講義（大学院）		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
漢方薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							漢方薬理学		15.00	0.50
							薬学総合演習		1.50	0.05
							研究倫理特論(大学院)		1.50	0.05
							漢方薬特論(大学院)		4.50	0.15
							統合医療特論(大学院)		3.00	0.10
							授業担当時間の合計			
漢方薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学への招待		1.50	0.05
							薬用資源学		22.50	0.75
							生薬学		22.50	0.75
							天然物化学		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							化学系実習	◎	45.00	1.50
							漢方処方学		3.00	0.10
							臨床漢方治療学		3.00	0.10
							薬学演習(旧コアのみ)		1.50	0.05
							伝統医療薬学実習			
							漢方薬特論(大学院)		4.50	0.15
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
漢方薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	有機化学Ⅴ	22.50	0.75	
							有機化学Ⅵ(旧カリのみ)	22.50	0.75	
							医薬品化学Ⅰ	10.50	0.35	
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	10.50	0.35
							化学系実習	◎	45.00	1.50
							有機化学演習(旧コアのみ)		15.00	0.50
							薬学演習(旧コアのみ)		1.50	0.05
							薬学総合演習		1.50	0.05
							学内研修		4.50	0.15
							看護学生のための生物・化学(看護学部)		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			
漢方薬学科	准教授(実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	臨床薬学英语	22.50	0.75	
							ポスト教育	◎	6.00	0.20
							漢方治療論		22.50	0.75
							事前学習	◎	142.50	4.75
							実務実習Ⅰ	◎	15.00	0.50
							実務実習Ⅱ	◎	15.00	0.50
							漢方薬効免疫学		15.00	0.50
							臨床漢方治療学		3.00	0.10
							薬学演習(旧コアのみ)		1.50	0.05
							伝統医療薬学実習			
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
漢方薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学概論		1.50	0.05
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							物理系実習	◎	18.00	0.60
							漢方・民間薬概論		15.00	0.50
							本草学		15.00	0.50
							臨床漢方治療学		3.00	0.10
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		1.50	0.05
							伝統医療薬学実習			
							漢方・民間薬概論（看護学部）		15.00	0.50
							漢方薬特論（大学院）		3.00	0.10
							授業担当時間の合計			
漢方薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	分析化学Ⅰ		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							物理系実習	◎	18.00	0.60
							健康管理学		7.50	0.25
							物理系演習（旧コアのみ）		4.50	0.15
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		1.50	0.05
							研究倫理特論（大学院）		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
漢方薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	分析化学Ⅱ		22.50	0.75
							無機化学		15.00	0.50
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							化学系実習	◎	45.00	1.50
							物理系演習(旧コアのみ)		9.00	0.30
							薬学演習(旧コアのみ)		1.50	0.05
							科目横断演習Ⅰ		1.50	0.05
							薬学総合演習		1.50	0.05
							看護学生のための生物・化学(看護学部)		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			
漢方薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学英语		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							化学系実習	◎	45.00	1.50
							漢方処方学		12.00	0.40
							薬学総合演習		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
漢方薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎生物学		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							健康管理学		7.50	0.25
							漢方製剤・薬剤学		15.00	0.50
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		3.00	0.10
							授業担当時間の合計			
漢方薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	有機化学Ⅳ		22.50	0.75
							医薬品化学Ⅱ		10.50	0.35
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							化学系実習	◎	45.00	1.50
							有機化学演習（旧コアのみ）		15.00	0.50
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							薬学総合演習		1.50	0.05
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
漢方薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	食品衛生学Ⅰ		22.50	0.75
							食品衛生学Ⅱ		15.00	0.50
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10
							薬学総合演習		1.50	0.05
							栄養学（看護学部）		10.50	0.35
							授業担当時間の合計			

1) 薬学科（6年制）専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は（兼任学科名）を付記してください。

2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に（実務）と付記してください。

3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目（兼任学科・兼任学科の科目も含む）を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を付してください。

4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。
 ※講義科目は時間割から計算される実際の時間数（1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間）を記入します。
 ※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
 ※実習科目では、同一科目を複数教員（例えば、教授1名と助教、助手2名）が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。

5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」（授業が実施される1年間の基準週数）で除した値を記入してください。
 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料10) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手(基礎資料8の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	◎	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■ ■ ■	■■■■■	薬剤学実習	◎	15.00	0.50
							事前学習	◎		
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	物理系実習	◎	18.00	0.60
							基礎実習	◎	10.50	0.35
漢方薬学科	助手	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎実習	◎	10.50	0.35
							化学系実習	◎	45.00	1.50
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料8の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	◎	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間
薬科学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学への招待		1.50	0.05
							製剤学Ⅱ		15.00	0.50
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							薬剤学実習	◎	15.00	0.50
							薬学演習(旧コアのみ)		1.50	0.05
							薬学総合演習		1.50	0.05
							薬学データサイエンスへの招待		1.50	0.05
							薬学情報処理演習		12.00	0.40

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間	
薬科学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生命・医療倫理学		3.00	0.10
							ポスト教育	◎	6.00	0.20
							医療統計学		22.50	0.75
							早期臨床体験		12.00	0.40
							事前学習	◎	141.00	4.70
							実務実習Ⅰ	◎	15.00	0.50
							実務実習Ⅱ	◎	15.00	0.50
							薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10
							薬学総合演習		3.00	0.10
							疾患治療特論		1.50	0.05
							病院薬学実習		7.50	0.25
薬科学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎物理学		7.50	0.25
							薬学概論		1.50	0.05
							物理化学Ⅰ		22.50	0.75
							物理化学Ⅱ		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							物理系実習	◎	18.00	0.60
							物理系演習（旧コアのみ）		4.50	0.15
							薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10
							科目横断演習Ⅰ		1.50	0.05
薬学総合演習		1.50	0.05							

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間	
薬科学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学概論		3.00	0.10
							理論化学		15.00	0.50
							物理薬剤学		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							薬剤学実習	◎	15.00	0.50
							薬学演習（旧コアのみ）		1.50	0.05
							科目横断演習Ⅰ		3.00	0.10
							薬学総合演習		4.50	0.15
							学内研修		1.50	0.05
薬科学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎物理学		7.50	0.25
							薬学概論		1.50	0.05
							物理化学Ⅲ		22.50	0.75
							放射化学		22.50	0.75
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	7.50	0.25
							物理系実習	◎	18.00	0.60
							物理系演習（旧コアのみ）		4.50	0.15
							薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10
							薬学総合演習		1.50	0.05

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間	
薬科学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学概論		1.50	0.05
							有機化学Ⅰ		15.00	0.50
							有機化学Ⅲ		15.00	0.50
							医薬品化学Ⅱ		12.00	0.40
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25
							基礎実習	◎	10.50	0.35
							化学系実習	◎	45.00	1.50
							有機化学演習（旧コアのみ）		15.00	0.50
							薬学演習（旧コアのみ）		3.00	0.10
							科目横断演習Ⅰ		3.00	0.10
							薬学総合演習		3.00	0.10
薬科学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■ ■■■■■	■■■■■	基礎数学Ⅰ		22.50	0.75
							基礎数学Ⅱ		22.50	0.75
							薬学データサイエンス数学Ⅰ		12.00	0.40
							薬学データサイエンス数学Ⅱ		12.00	0.40
							実務実習Ⅰ	◎	7.50	0.25
							実務実習Ⅱ	◎	7.50	0.25

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数	124名
5年生の在籍学生数	146名
6年生の在籍学生数	103名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	薬品化学分野 (門口)	2	3	6	6	15	342.4
2	薬物解析学分野 (小松)	3	11	10	9	30	286.0
3	分子生物学分野 (炬口)	2	12	11	9	32	229.0
4	薬品作用学分野 (有竹)	2	5	6	3	14	232.0
5	薬物治療学分野 (小山)	3	9	11	6	26	247.0
6	衛生化学分野 (副田)	3	10	7	5	22	348.0
7	薬剤設計学分野 (中原)	3	10	11	4	25	203.0
8	臨床薬剤学分野 (入倉)	2	9	11	3	23	239.0
9	処方解析学分野 (村山)	2	0	4	8	12	103.9
10	生薬学分野 (久保山)	1	4	3	5	12	400.5
11	天然物化学分野 (長島)	2	9	11	9	29	174.9
12	和漢薬物学分野 (森永)	3	8	10	9	27	258.0
13	免疫薬品学分野 (松原)	2	3	8	4	15	199.0
14	分析化学分野 (藤井)	2	2	9	3	14	246.0
15	地域医療薬学センター (窪田・首藤)	8	22	23	14	59	348.8
16	薬学教育推進センター (白谷)	4	7	5	6	18	120.6
	合計	44	124	146	103	373	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員(助手を含む)の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備 考
講義室・演習室 ²⁾	大講義室	297～550	6	2396	固定椅子、厚生会館1、実習棟2、本館3
	中講義室	150～245	4	847	固定椅子、本館5
	小講義室	92～98	6	574	固定椅子、全て本館講義室
	演習室	60～121	3	241	本館3階
	情報処理演習室	30～100	4	230	新館2階 CBTにも使用
実習室	化学系A・B、衛生系S実習室	128	1	128	新館3階 化学系A・B、衛生系Sの実験実習に使用、椅子無し
	物理系A・B実習室	128	1	128	新館3階 物理系A・Bの実験実習に使用、椅子可動式
	医療系実習室1	180	1	180	新館3階 模擬保険薬局、薬物血中濃度解析室、模擬病院薬局、医薬品情報室・服薬指導実習室、模擬病棟
	生物系A実習室	120	1	120	新館4階 生物系Aの実験実習に使用、椅子可動式
	薬学系S、化学系C、生物系B実習室	128	1	128	新館4階西 薬学系S、化学系C、生物系Bの実験実習に使用、椅子可動式
	医療系実習室2	60	3	180	新館4階 無菌製剤実習室、製剤実習室、調剤実習室

自習室等	東大教室	150	1	150	可動機・椅子
	食堂(オープンスペース)	306	1	306	一部可動機、椅子
	カフェテリア(オープンスペース)	98	1	98	固定椅子
	質問ルーム	20	1	20	ランニングサポート室可動機・椅子
薬用植物園	<p>※以下の概要を任意の様式で記載してください。</p> <p>1) 設置場所 : 薬学部キャンパス隣地</p> <p>2) 施設の構成と規模 : 敷地833㎡、温室119.5㎡、管理棟29.9㎡</p> <p>3) 栽培している植物種の数 : 約100種</p> <p>4) その他の特記事項 : 無し</p>				
<p>1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。</p> <p>2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を設け、同じ区分での座席数の範囲を示してください。 また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設などを、例示を参考にして備考に記入してください。</p>					

(基礎資料12-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ¹⁾	面積 ²⁾	収容人員 ³⁾	室数 ⁴⁾	備 考
教員室	26.35m ²	1~4人	54	教授は個室、准教授以下は個室または実験・研究室にデスクがある。
研究室	224.75m ²	24人	15	
セミナー室	45.37m ²	18人	16	
	m ²	人		
	m ²	人		

- 1) 講座・研究室が占有する施設（隣接する2～3講座で共用する施設を含む）を記載してください。
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 2) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値をご記入ください。
- 3) 1室当たりの収容人数をご記入ください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値をご記入ください。
- 4) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数をご記入ください。（ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。）

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ¹⁾	室数	施設の内容
中央機器室	4	超伝導NMR室、質量分析室、超遠心機室、共用機器室
実験動物飼育施設	1	一般飼育室2(マウス用、ラット用各1)
DNA組換え実験室	1	DNA組み換え実験室1(安全キャビネット1)

- 1) 大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を列記してください。（面積などは不要です）

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B） ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備 考 ³⁾
第一薬科大学図書館	224	1,292	17.34	-	0	-	薬学部1048, 看護学部 240, 大学院4
図書・国試情報センター	65	1,292	5.03	-	0	-	薬学部1048, 看護学部 240, 大学院4
計	289	1,292	22.37	-	0	-	

1) 「学生収容定員数（B）」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員（B）」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルの種類 (種類) ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	国内書	外国書			平成31年度	令和2年度	令和3年度	
第一薬科大学図書館	72,100	62,678	618	478	287	3,370	1,354	721	1,846	図書受け入れ冊数、電子 ジャーナルタイトル数、 データベースは図書館で 集中管理
図書・国試情報セ ンター	4,456	4,456	-	-	-	-	-	-	-	
計	76,556	67,134	618	478	287	3,370	1,354	721	1,846	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 教授	氏名 松本 欣三
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 「漢方薬理学」講義 (授業評価等を含む)		令和4年4月1日以降、令和4年6月30日まで	適宜配布資料とパワーポイントを用いて講義を進め、学生の理解を深めに講義中に質問事項を設け、自身で考える時間設け、講義終了時に設問をだすなどの工夫をした。またパワーポイントの内容はPDFファイルで事前に配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 「ストレスと睡眠薬」		平成9年3月1日	「脳科学」に関する参考書「睡眠のメカニズム」を分担執筆(井上昌次郎・山本郁男編集、朝倉書店)
「使君子、ハズ、接骨木、ビャクシ」の薬理		平成9年12月1日	「漢方薬理学」に関する教科書「漢方薬理学」を分担執筆(高木敬次郎監修・木村正康編集、南山堂)
漢方治療のEBM (evidence-based medicine)		平成23年	科目「脳科学」に関する参考書「認知症学」(荒井啓行 編、日本臨床社)を分担執筆
釣藤鈎アルカロイドの薬理作用		平成29年8月1日	科目「天然物化学」に関する参考書「アルカロイドの科学」(高山廣光編、化学同人)を分担執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Memory/Learning, Dementia and Kampo	共著	平成28年	Herbal Medicines New Horizons, Methods in Pharmacology and Toxicology
(論文) Ilex kudingcha C. J. Tseng mitigates phenotypic characteristics of human autism spectrum disorders in a Drosophila melanogaster rugose mutant.	共著	令和3年5月1日	Neurochem Res 46(8):1995-2007, 2021
(論文) Effect of Yakae-Prajamduen-Jamod Traditional Thai Remedy on Cognitive Impairment in an Ovariectomized Mouse Model and Its Mechanism of Action	共著	令和3年6月1日	Molecules 26 (11): 3442, 2021
(論文) Anti-hypertensive effects of Callisia fragrans extract on reno-vascular hypertensive rats	共著	令和4年4月20日	Clinical and Experimental Hypertension 44 (5) : 411-418, 2022
(論文) Ursolic acid and its isomer oleanolic acid are responsible for the anti-dementia effects of Ocimum sanctum in olfactory bulbectomized mice	共著	令和4年6月1日	J Natural Medicine 76 (3) : 621-633, 2022
(論文) Effect of Yakae-Prajamduen-Jamod Traditional Thai Remedy on Cognitive Impairment in an Ovariectomized Mouse Model and Its Mechanism of Action	共著	令和4年7月5日	Molecules 27(13): 4310, 2022

松本欣三

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成26年12月～	日本臨床中医薬学会（現・日本臨床中医漢方医学会）・理事（神経薬理学分野）	
平成31年3月～	日本薬理学会学名誉会員	
平成31年3月～	日本神経精神薬理学会・功労会員	
令和2年4月～	日本薬理学会学エディター	
令和4年9月25日	九州漢方研究会記念月特別講演会（招待講演）発達障害の緩和治療をめざした漢方薬理学	
令和4年12月20日	第一薬科大学出前講座 福岡県飯塚市 穎田交流センター 「記憶の病、こころの病、そして漢方薬」	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 処方解析学分野	職名 教授	氏名 村山 恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成13年～現在	4年生薬剤学実習を担当している。実習への理解を促すため、事前にビデオ教材なども利用しながら実習を行っている。3年生の科目であったが、平成30年度から4年生に移行した。令和2年度は、オンラインで動画のみによる実習であったため、実習用の無塵衣や軟膏ツボなどを学生に送付して実習を行った。授業評価は令和1年度は4.36-4.52であったが、オンラインで実施した令和2年度は3.18-3.82であった。	
	平成14年～現在	平成30年度まで3年生製剤学Ⅰ、Ⅱを担当していた。令和1年度より製剤学Ⅰを担当。平成28年度までは半期の科目であったが、平成29年度より、製剤学Ⅰ、Ⅱとなった。パワーポイントと板書を併用して講義を進めている。パワーポイントの内容は印刷物とし、授業の副教材として使用している。また、pdfファイルとしてeポートフォリオの学生用フォルダーに収納し、自由に閲覧できるようにしている。授業の終了時に振り返りシートを学生に記入させ、学生の疑問点を把握し、次回講義の冒頭で復習や解説を行っている。副教材には、授業で用いたスライドや事前学習用のプレワークシートと復習用の演習問題を添付しており、予習、復習できるよう工夫している。令和2年度製剤学Ⅰの授業評価(教員に対する評価)は、3.71-4.19であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成13年～現在	「薬剤学実習書」(第一薬科大学)(毎年改訂)	
	平成19年～現在	「製剤学講義のてびき」(村山恵子)(毎年改訂)	
	平成22年11月	ビタミン総合事典 (日本ビタミン学会編)朝倉書店	
	平成23年3月	Perspective薬剤学(大戸茂弘編)京都廣川書店	
	平成29年3月	「臨床製剤学」改訂第4版(三嶋基弘, 内田享弘, 平井正巳, 川崎博文 編)南江堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特に無し	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成26年～令和2年	新任・転任教員のためのFD講習会実施	
	平成27年4月	第一薬科大学学修ポートフォリオ(案)作成	
	平成27年10月	FD講習会企画運営(学生のモチベーション向上)	
	平成28年5・9月	FD講習会(3回)企画運営(ルーブリック等)	
	平成29年9月	ポートフォリオに関するFD講習会企画実施	
	平成30年12月	eポートフォリオの大学への導入	
	令和1年9月	FD講習会(2回)企画運営(学力向上・学生心理)	
	令和2年9・11月	ルーブリックに関するFD講習会ワークショップ企画・運営・参加	

村山恵子

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）1. The biosynthesis of the pyrimidine moiety of thiamin in Halobacterium salinarum	共著	平成28年2月	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 62(2), 130-133, 2016
（論文）2. PM2.5中の水溶性成分がマスト細胞株の脱顆粒に及ぼす影響	共著	平成29年1月	大気環境学会誌 52, 12-18, 2017
（論文）3. 古細菌のチアミン生合成経路の生化学的研究	共著	平成29年1月	ビタミン, 91, 38-47, 2017
（論文）4. 食品による生薬製剤のマスキング効果	共著	平成31年4月	日本食品化学学会誌, 26(1), 68-76, 2019
（論文）5. Cytotoxic effects of water-soluble extracts of coarse and fine atmospheric particulate matter on mast cell lines	共著	令和3年1月	Biol. Pharm. Bull., 44(1), 2021
2. 学会発表（評価対象年度 2020年度、2021年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）嫌気条件下におけるチアミン・ピリミジン部の生合成		令和3年6月	日本ビタミン学会(名古屋)
（演題名）3マイクロメートルを超える大気粒子状物質がマスト細胞株の脱顆粒に及ぼす影響（第2報）		令和3年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会
（演題名）骨粗鬆症治療におけるビタミンD製剤と生薬製剤併用リスク評価		令和4年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
（演題名）3マイクロメートルを超える大気粒子状物質がマスト細胞株に及ぼす細胞障害性（第2報）		令和4年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
（演題名）3マイクロメートルを超える大気粒子状物質がマスト細胞株の脱顆粒に及ぼす影響（第3報）		令和4年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
III 学会および社会における主な活動			
平成16年度～現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ タスクフォース		
平成18年5月～現在	日本ビタミン学会トピックス委員		
平成20年5月～現在	日本ビタミン学会 評議員・代議員		
平成22年3月～現在	薬学教育協議会・ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当者会議委員（世話人：平成22年3月～平成31年3月）		
平成22年9月～令和4年3月	福岡赤十字病院治験審査委員会外部評価委員		
平成22年～現在	市民公開講座、ゆめ佐賀大学 講師（令和2年度 講演5回）		
平成25年5月～現在	日本ビタミン学会 幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬剤設計学	職名 教授	氏名 今井 輝子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		令和2年4月～ 現在	科目「薬物動態学Ⅰ」に関して、パワーポイントと配布資料（パワーポイントの内容）を用いて講義を進めた。予習を促すため、講義資料はPDFファイルで事前にIPoに掲載した。また、毎回、確認テストをするとともに、練習問題を配布し、翌週に解答を掲載することで、復習の効果を高めた。授業評価（3.5～4.4） 科目「薬物動態学Ⅱ」に関して、パワーポイントと配布資料（パワーポイントの内容）を用いて講義を進めた。予習を促すため、講義資料は事前にIPoに掲載した。また、グラフ用紙にプロットさせるなどの演習を毎時間行うとともに、毎時間の確認テスト、さらに練習問題を配布し、翌週までに解答をIPoに掲載した。授業評価（3.5～4.3）
2 作成した教科書、教材、参考書		令和2年4月～ 現在	薬物動態学Ⅰにおいて、毎回の講義の理解度を確認する「確認テスト」（CBTレベルの問題 10問）を作成した。また、各回ごとに問題集（国家試験レベル）を作成した。薬物動態Ⅱでは、記述式の「確認テスト」を毎時間、作成し、国家試験レベルの記述式問題を各回ごとに作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			実務実習学生の薬局訪問および病院訪問を行った。大学院特別講義（1コマ）を担当した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effect of calcium on the hydrolysis activity of human butyrylcholinesterase	共著	令和2年3月	Elsevier, Journal of Pharmaceutical Sciences (109巻), 1417-1420
(論文) Identification and characterization of a new carboxylesterase 2 isozyme, mfCES2C, in small intestine of cynomolgus monkey	共著	令和2年3月	アメリカ薬理学会, Drug metabolism & Disposition, 48(1) 146-152
(論文) Improvement of Pharmaceutical Properties of Zerumbone, a Multifunctional Compound, Using Cyclodextrin Derivatives	共著	令和2年11月	日本薬学会 Chemical and Pharmaceutical Bulletin, Vol 68 No.11, 1117-1120
(論文) "Human and Mouse Cross-reactive" Albumin-binding Helix-loop-helix Peptide Tag for Prolonged Bioactivity of Therapeutic Proteins	共著	令和4年7月	アメリカ化学会 Molecular Pharmaceutics, 19, 2279-2286
(論文) Esterase Involved in the Rapid Bioconversion of Esmolol after Intravenous Injection in Humans	共著	令和4年10月	日本薬学会 Biological and pharmaceutical bulletin, Vol 45 No.10, 1544-1552

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）エステラーゼの構造・機能解析に基づくプロドラッグ/ソフトドラッグ開発に関する研究	令和4年5月	日本薬剤学会第37年会
（演題名）人間ドック受診者における血清Paraoxonase 1活性と心血管疾患予測因子との関連	令和4年5月	日本薬剤学会第37年会
（演題名）エステラーゼに魅せられて～ シンプルな反応、複雑な体内動態	令和4年9月	第30回静岡DDSカンファランス
（演題名）抗HSA分子標的HLHペプチド・タグによるバイオ医薬品の体内動態の改善	令和4年11月	第95回日本生化学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成11年5月～現在	日本薬剤学会 代議員	
平成15年10月～現在	日本薬物動態学会 代議員	
平成21年7月～現在	日本DDS学会 評議員	
平成25年4月～現在	創剤フォーラム 世話人	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	第一薬科大学	講座名	薬学教育推進センター
職名	教授	氏名	柴山 周乃
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	令和2年4月1日 以降-現在	2年生の「薬学英語」を担当している。医師として経験してきた現場の知識を講義の中で極力多く発信した。教科書の内容だけではなく、調剤、投薬に使用する英単語や実験器具、解剖学、漢方英語など毎回テーマを決め、視覚的に理解してもらえよう写真をたくさん取り入れたスライドを用い講義を進めた。毎回講義の終わりに小テストを行い講義理解度を確認した。 (授業評価：3.80~4.60)
		平成31年4月1日 以降-現在	そのほか、医療概論、アドバンスト科目学内研修、伝統医療薬学実習、実務実習前マナー講座などを担当。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	令和元年7月14日 7月15日 令和3年4月~ 令和4年3月	第63回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加した。 本学FD研修会・第1回~11回に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 張伯礼教授臨床用対(隊)薬経験談	共著	平成28年	天津中医薬
(論文) 水質がウズ煎液中のアコニチン型 ジェステルアルカロイド量に及ぼす影響	共著	平成30年	日本東洋医学雑誌
(論文) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) に対する漢方の役割	共著	令和2年4月	日本医事新報
(論文) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) に対する未病漢方活用法	共著	令和2年4月	漢方産業化推進研究会
2. 学会発表(評価対象年度 2020年度、2021年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成23年-現在	日本中医薬学会		
平成31年~現在 (依頼を受けた際に実施)	南区出前講座(大学版) 講座名:「未病を治す」(福岡市南区内公民館等)		

柴山周乃

令和3年5月～令和4年3月	日本薬科大学・漢方アロマコース「中医学基礎」講師（オンライン）
令和3年9月～令和4年3月	日本薬科大学・漢方アロマコース「生活に生かす中医学・秋冬」講師（オンライン）

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 臨床薬学分野	職名 教授	氏名 入倉 充
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年～現在	板書とパワーポイントを並行して講義を進めており、パワーポイントは印刷し配付およびPDFファイルとしeポートフォリオにupし、学生が自由に利用できるようにしている。令和2年度から講義動画を作成し学生が自由に視聴できるようにした。授業評価は、3.13～3.78であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年	スタンダード薬学シリーズⅡ 6 医療薬学 V. 薬物治療に役立つ情報 第11章 年齢的要因「SB049 低出生体重児、新生児、乳児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる」、東京化学同人、2017, pp 224-230.
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成29年10月	熊本学園大学付属高等学校において「学部・学科研究会」の講師として「体の中でのクスリの動きを推理する」と題して講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成30年4月	株式会社そうりんの平成30年度入社式において「薬剤師はどう生きるか～薬剤師による研究～」と題し特別講演を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Ethyl pyruvate attenuates acetaminophen-induced liver injury and prevents cellular injury induced by N-acetyl-p-benzoquinone imine.	共著	平成30年(2018)	Heliyon, vol. 4, e00521.
(論文) Improvement of the water-solubility of Paclitaxel with an amorphous solid dispersing technique using polyvinylpyrrolidone as hydrophilic carrier.1	共著	令和元年(2019)	International Journal of Pharmacy & Technolog, vol. 11, 31701-31710.
(論文) Comparison of quality of life and activity of daily living status of patients with myasthenia gravis treated with low-dose and high-dose prednisolone.	共著	令和2年(2020)	Neuro Endocrinol Lett. 2020 Oct 14;41(4)173-178.
(論文) A homogeneous assay to determine high-density lipoprotein subclass cholesterol in serum.	共著	令和3年(2021)	Anal Biochem. 2021 Jan 15;613:114019.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 新型コロナウイルス感染症と薬学生の実務実習～病院・薬局実務実習九州・山口地区調整機構の対応～		令和4年9月	第81回九州山口薬学大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成24年4月～現在	サクラン研究会 評議員
平成26年2月～平成28年1月	日本薬学会 九州支部 幹事
平成27年4月～平成31年4月	九州・山口地区病院・薬局実務実習調整機構 運営委員
平成27年6月～平成29年5月	福岡県薬剤師会 理事
平成27年6月～平成29年5月	福岡県薬剤師会 薬学教育委員会[委員]
平成27年11月	第42回日本小児臨床薬理学会学術集会 監査
平成29年6月～現在	福岡県薬剤師会 生涯学習委員会[委員]
平成31年2月～現在	NPO法人 筋無力症患者会 顧問
平成31年4月～現在	病院薬局実務実習 九州・山口地区調整機構 委員長
令和2年9月～現在	日本社会薬学会 九州支部 支部長
令和3年3月～現在	日本社会薬学会 代議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 免疫薬品学	職名 教授	氏名 松原 大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成16年～ 現在	パワーポイントを用いた講義形式であるが、事前にPDF化した資料を学生が閲覧できる場所に収納している。また、国家試験の過去問題を配布することで授業と国家試験問題との接点に気づくようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成16年～ 現在	生物系実習書（第一薬科大学免疫薬品学分野編）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Aminopeptidases from <i>Bordetella pertussis</i> and rat brain: Comparison between bacterial and mammalian proteins	共著	平成31年(2018) 1 月	第一薬科大学研究年報、 34, 50-62
(論文) Ni RT, Onishi M, Mizusawa M, Kitagawa R, Kishino T, Matsubara F, Tsuchiya T, Kuroda T, Ogawa W. : 1. The role of RND-type efflux pumps in multidrug-resistant mutants of <i>Klebsiella pneumoniae</i> .	共著	令和2年(2020) 7 月	Sci Rep. 2020 Jul 2:10(1):10876.
(論文) 除菌スプレー「Hygi-aid」の除菌効果に関する検討	共著	令和4年(2022) 7 月	九州薬学会雑誌, 76, 11-14
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成18年～現在	薬学微生物学教員会議 委員		
平成28年4月～令和5年3月	公益財団法人 日本高等教育評価機構 評議員候補者		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

松原大

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 地域医療薬学センター	職名 教授	氏名 首藤 英樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		令和2年～現在	科目「処方解析学」(6年生)においてパワーポイントを用いた講義形式であるが、事前にPDF化した資料を学生が閲覧できる場所に格納している。また、国家試験の過去問題を配布することで授業と国家試験問題との接点に気づくようにしている。
		令和4年～現在	科目「医療概論」(1年生)「生命・医療倫理学」(1年生)「医薬品開発論」(6年生)(いずれも分担)においてパワーポイントを用いた講義形式であるが、事前にPDF化した資料を学生が閲覧できる場所に格納している。また、国家試験の過去問題を配布することで授業とCBT・国家試験問題との接点に気づくようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		令和1年～現在	わかりやすい薬物動態計算問題の解き方(分担執筆)(ネオメディカル)
		令和1年～現在	薬の生体内運命 改訂8版(分担執筆)(ネオメディカル)
		令和2年～現在	科目「事前学習」において「実務実習事前学習(演習・実習書)」を学内で作成した(分担執筆)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
(論文) Safety profile of nivolumab, a programmed death 1 checkpoint inhibitor, in solid tumors: a meta-analysis of randomized clinical trials		共著	令和4年(2022年)3月
(論文) 除菌スプレー「Hygi-aid」の除菌効果に関する検討		共著	令和4年(2022年)7月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
			発表年・月
			学会名
III 学会および社会における主な活動			
令和2年～現在		薬学教育協議会 レギュラトリーサイエンス分野教科担当	
令和4年～現在		薬剤師国家試験問題検討委員会(実務)委員	

首藤英樹

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	第一薬科大学	講座名	分子生物学
職名	教授	氏名	炬口 真理子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
姫路獨協大学薬学部での講義		平成21年4月～ 令和2年3月	薬学部医療薬学科の3年次生に対して「臨床生化学」の講義を行った。自身で作成した授業内容を要約したプリントを配布、パワーポイントを用いて説明した。また、セッション毎に神戸大学病院検査部監修のビデオを鑑賞させ、実際に検査がどのように行われているかを示し、講義内容と現場が一つになるよう工夫をした。
		平成22年4月～ 平成29年3月	薬学部医療薬学科4年次生の「薬理系統合演習(PBL)」を担当した。薬学ゼミナール提供によるe-learningシステムを使用して、毎回学生に薬理学の課題を与え、授業時間には学生と問題についてディスカッションし、理解度の向上を目指した。
		平成24年4月～ 令和2年3月	薬学部医療薬学科の6年次生に対して「安全管理」の講義を行った。病院での実務経験を活かし、学外実習を終えた6年次生に対して、医療現場で発生するリスクマネジメント、院内感染、薬物副作用などについて、事例を示すことにより大学の勉強と医療現場が一つになるよう工夫をした。
		平成24年4月～ 令和2年3月	薬学部医療薬学科6年次生の「症例検討統合演習(PBL)」を担当した。患者症例についてグループで調査した後に発表、学生相互に質疑応答することで、疾患の総合的な理解度を養うように配慮した。
		平成27年4月～ 令和2年3月	薬学部医療薬学科3年次生の「病態解析学実習」を担当した。病院検査部での実務経験を活かし、血清蛋白分画検査、血液像観察、尿沈渣検査、心電図・肺機能検査の他、これからの薬剤師に必要なフィジカルアセスメントを含む診断補助の技術を取得できるよう指導した。
		平成29年4月～ 令和2年3月	薬学部医療薬学科3年次生の「病態生理学Ⅰ(前期)、Ⅱ(後期)」を担当した。主要疾患の症状や病態を理解し、疾患に対する検査・治療(薬物療法)の基礎的知識が習得できるよう、教科書と自己制作のプリント(パワーポイント)を用いて講義を行った。
姫路獨協大学看護学部での講義		平成29年4月～ 令和2年3月	看護学部看護学科3年次生に対して「チーム医療論」の中の「薬剤師からみたチーム医療」を担当し、これから実習に向かう学生に他職種連携の重要性について講義した。
		平成30年4月～ 令和2年3月	看護学部看護学科2年次生に対し「疾病治療学Ⅰ」において、呼吸器・腎疾患を担当した。看護において必要とされる知識を、要点を絞って、図・表、自作プリントを用いて講義を行った。

神戸市医師会看護専門学校での講義	平成25年4月～ 令和2年3月	第1看護学科1年次生(前期)の「生体機能学Ⅲ(細胞と組織、皮膚、血液)」を担当した。入学すぐの学生ということもあり、まず医学に興味を持ってもらうことを目的に教科書、プリントに加えDVDなどの映像による教材を用いて分かり易く講義した。
	平成27年4月～ 令和2年3月	第1看護学科1年次生(後期)に対して「病態学Ⅰ(生体防御)」を担当した。アレルギー、膠原病、血液・造血器疾患について、看護において必要とされる知識を、要点を絞って、図・表、自作プリントを用いて講義を行った。
第一薬科大学薬学部での講義	令和2年4月～ 現在	4年次生の「がん化学療法学」では、教科書に沿った内容をパワーポイントにまとめて講義を行い、講義資料は学生用サーバーにpdfファイル形式で保存・提供している。講義2回毎に小テストを行うことにより知識の定着を図っている。
	令和2年4月～ 現在	3年次生の「生物系実習の生化学実習」において、生命科学Ⅲ、Ⅳの講義を基にしたPCRの分離・泳動、蛋白質の分離・定量実験を指導している。実験操作はビデオを観せることにより、詳細にわかるように工夫している。
	令和3年4月～ 現在	3年次生の「生命科学Ⅳ」では、遺伝子工学、遺伝子治療、再生医療等について講義を行っている。講義資料は講義で用いるパワーポイントをpdf化して提供し、講義2回毎に小テストを行うことにより知識の定着を図っている。
第一薬科大学看護学部での講義	令和3年4月～ 令和4年3月	1年次生の「生化学」の“遺伝情報”の項目を担当した。4名のオムニバス形式による講義であるため、形式・スライドなど統一がとれるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4 その他教育活動上特記すべき事項	平成24年4月～ 令和2年3月	姫路薬剤師会、姫路病院薬剤師会との共同開催による年2回のセミナーの実行委員として、薬剤師への教育講演の計画・運営に携わった。
	令和2年3月19日 令和3年3月15日	zoom発表形式による第3、4回高校生サイエンス研究会の審査員を務めた。
	令和2年3月3日 令和3年3月15日	福岡市立福翔高等学校のキャリアプラン発表会の審査員を務めた。
	令和3年10月26日	福岡市立福翔高等学校の「SDGsチャレンジプロジェクト」のコメンテーターを務めた。
	令和3年8月7日	福岡未来創造プラットフォーム主催の「アントレプレナーシップ教育向上のための教員向けプログラム」に大学代表として参加した。

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Quantitative analysis of hemin-induced neutrophil extracellular trap formation and effects of hydrogen peroxide on this phenomenon	共著	平成29年7月	Biochemistry and Biophysics Reports 11:147-53
（論文）Acetate moderately attenuates the generation of neutrophil extracellular traps	共著	平成30年6月	Blood Research 53(2):177-180
（論文）Evaluation of Absorbability of Macromolecular Substances in the Oral Mucosa and Skin using a Three-Dimensional Tissue Culture Model	共著	平成30年8月	Biology and Medicine 10(5):1000448
（論文）Therapeutic effects of shikonin on skin lesions in mouse models of allergic dermatitis and wound	共著	平成31年4月	Traditional & Kampo Medicine 6(2):62-70
（論文）In Vitro and In Vivo Antiglycation Effects of Connarus ruber Extract.	共著	令和3年12月	Planta Medica 88(12):1026-35
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）PML-RARA-M3におけるFLT3ITD, TdT及びカップ核		令和4年3月	第65回 神戸血液病研究会
III 学会および社会における主な活動			
平成12年4月～現在	日本臨床検査医学会会員		
平成14年8月～現在	日本血液学会会員		
平成18年1月～現在	日本検査血液学会会員		
平成29年9月～平成29年12月	姫路市健康福祉局指定管理者選定委員会委員		
令和4年10月1日～現在	日本薬剤師会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 天然物化学分野	職名 教授	氏名 長島 史裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年9月～現在	科目「分析化学IV」において板書又はパワーポイント等を主体として講義を進め、適宜プリント等を配布し説明を行っている。講義の最後に確認問題を配付し解答させ5～10分後に問題解説を行っている。授業評価 3.9
		令和2年～現在	科目「臨床物理分析法」において板書又はパワーポイント等を主体として講義を進め、プリント等を配布し説明を行っている。また、講義の最後に確認問題を配付している。授業評価 3.9
		令和4年～現在	科目「医薬品化学1」においてパワーポイント等を主体として講義を進め、適宜プリント等を配布し説明を行っている。また、講義の最後に確認問題を配付している。授業評価 3.8
2 作成した教科書、教材、参考書		平成30年4月～令和1年4月	実習科目「実務実習事前学習(実習・演習書)」において実務実習前の演習および実習内容を分担で作成している。主として調剤薬鑑査の部分について鑑査で注意すべき内容について解説している。
		平成30年9月～現在	実習科目「物理系実習」において、担当教員と共同で「薄層クロマトグラフィー」に関して実習内容を解説している。実習評価 4.3
		令和元年4月～現在	実習科目「基礎実習」において、担当教員と共同で「キレート滴定法」に関して実習内容を解説している。実習評価 4.1
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成27年～令和1年	共用試験OSCE実施委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Sesqui- and Diterpenoids from Tahitian and Japanese liverworts <i>Jungermannia</i> species.	共著	平成29年8月	Natural Product Communications, (12(8)), 1171-1175/
(論文) Diterpenoids from the Argentine and Malaysian Liverworts <i>Anastrophyllum</i> and <i>Jungermannia</i> species.	共著	令和元年12月	Natural Product Communications, (14(12)), 1-8.
(総説) Distribution of Bibenzyls, Prenyl Bibenzyls, Bis-bibenzyls, and Terpenoids in Liverworts Genus <i>Radula</i> .	共著	令和2年3月	Journal of Natural Products, (83(3)), 756-769.

長島史裕

(総説) Multitasking bamboo leaf-derived compounds in prevention of infectious, inflammatory, atherosclerotic, metabolic, and neuropsychiatric diseases.	共著	令和4年10月	Pharmacology and Therapeutics, (235), 108159
(論文) Potential anti-allergic effects of bibenzyl derivatives from liverworts, <i>Radula perrottetii</i> .	共著	令和4年12月	Planta Medica, (88(12)), 1069-1077.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 漢方薬「八味地黄丸」の抗肥満作用に対する脂質代謝の影響. 香川正太, 田部勝也, 廣村信, 古賀貴之, 椎木幾久子, 大嶺貴亮, 濱地桜子, 奥矢 茂, 木村郁子, 谷澤幸生, 長島史裕	共著	令和4年3月	日本薬学会 第142年会
(演題名) 果糖過剰摂取によるNAFLDへのSelenbp1欠損が及ぼす影響の解析. 古賀貴之, 廣村信, 香川正太, 平尾雅代, 竹田修三, 石井祐次, 石田卓巳, 長島史裕, 小武家優子, 戸田晶久, 副田 二三夫	共著	令和4年8月	フォーラム2022 衛生薬学・環境トキシコロジー
(演題名) 漢方薬「六味丸」および「八味地黄丸」の肥満抑制作用への影響と各構成生薬の寄与について. 香川正太, 大嶺貴亮, 濱地桜子, 佐伯敦輝, 田原青空, 當山雄介, 藤森大樹, 長島史裕	共著	令和4年11月	第39回日本薬学会九州山口支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成23年4月～	認定スポーツファーマシスト		
平成29年2月～令和5年2月	日本薬学会九州支部代議員		
平成30年1月～	日本蘚苔類学会 Bryological Research 編集委員		
平成30年4月～	分析化学担当教員会議委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

長島史裕

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 地域医療薬学センター	職名 教授	氏名 俵口 奈穂美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成31年4月～ 令和4年12月	科目「医薬品情報」「薬事関係法規」「生命・医療倫理」では、配布資料とパワーポイントを用いて説明し、確認問題を提示し講義内容の復習と、学生の理解を深める工夫をしている。科目「薬学への招待」では、配布資料とパワーポイントを用いた説明を行った。授業評価令和2年（医薬品情報4.20-4.30 薬事関係法規4.20-4.39）
2 作成した教科書、教材、参考書		令和4年5月1日～ 令和4年11月	聴覚障がい者への服薬指導についてのe-learningシステムを構築し、実務実習前の学生への教材とした
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成30年10月	薬学生の難聴疑似体験による読話での配慮方法の理解向上と聴覚障がい者への服薬指導に対する意識 第37回社会薬学会
		平成30年11月	薬学部5年生を対象とした聴覚障害者への合理的配慮のための聴覚障害の理解と服薬指導に関する意識調査 第28回医療薬学会
		平成31年3月	実務実習前の薬学生を対象とした聴覚障害の特性と聴覚障がい者への配慮方法の理解向上を目指した疑似体験授業の効果 第139回日本薬学会
		令和1年10月	改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習における8疾患の実施状況について 第52回日本薬剤師学術大会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 薬局なんでも相談室	共著	令和1年12月	日経BP, 日経DI (12)
(著書) 聴覚に障害のある患者	単著	令和4年5月	じほう出版、調剤と情報 (28(6))
(著書) 聴覚障がいをもつ患者への対応について	単著	令和4年9月	モダンメディア、68(9)
(論文) Effects of Medication Education by Pharmacists on Deaf Patients.	共著	平成28年4月	J Deaf Stud Deaf Educ. 2016; 21(4):416-21
(論文) 喉頭摘出者の術後症状の理解度及び安心感に対する薬剤師による教育の効果	共著	平成29年1月	YAKUGAKU ZASSHI. 137(1):83-93
(論文) Effects of Learning on the Confidence to Provide Medication Education for Pharmacy Students	共著	令和2年6月	YAKUGAKU ZASSHI. 140(6):827-838
(論文) Survey of Pharmacists' Knowledge, Actions and Confidence in Medication Education to Patients with Hearing Disabilities	共著	令和2年10月	YAKUGAKU ZASSHI. 140(10):1295-1298
(論文) 服薬指導に関する先天性聴覚障害者と薬剤師の認識の比較	共著	令和4年2月	YAKUGAKU ZASSHI. 142(2), 181-188(2022)

俵口奈穂美

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）聴覚障害e-learningシステムの構築と 服薬指導の自信への効果	令和2年9月	第32回日本医療薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成27年～現在	北九州栄養薬物研究会世話人	
平成27年～現在	塩野義コミュニケーションバリアフリープロジェクト 薬学的監修担当	
平成28年～現在	難障・医ネット 幹事	
令和3年1月～現在	薬学雑誌 論文審査員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
第一薬科大学 薬学部	講座名 薬物治療学分野	職名 教授	氏名 小山 進
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 病態・薬物治療学V 病態・薬物治療学I		令和4年・前期 令和4年・後期	4年次生の講義を担当した（授業評価：3.7/5）。 2年次生の講義を担当した（授業評価：4.2/5）。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬理学実習書：バイタルサインの観察		令和4年8月	3年次生用の薬理学実習を分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）コンパス薬物治療学 改訂第2版	共著	令和4年12月	南江堂
（論文）Electricity use is associated with residents' vital data and lifestyles: observational study using an IT health support system in Japan	共著	令和2年	Keiji Yasukawa, Yukio Ishihara, Fumi Hirayama, Megumi Nakanishi, Hideo Utsumi, <u>Susumu Koyama</u>
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）大学生における睡眠の質と日中の自律神経機能.		令和4年1月	第61回日本心身医学会 九州支部会
（演題名）高脂肪食投与による易肥満マウスにおいては、脳内食報酬系ドパミン神経の興奮が高まる.		令和4年6月	第63回日本心身医学会 総会・学術集会
III 学会および社会における主な活動			
令和4年1月～12月	薬剤師国家試験問題検討委員会 病態・薬物治療学会委員		
令和4年1月～12月	日本糖尿病協会 糖尿病療養指導医		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬品作用学分野	職名 教授	氏名 有竹 浩介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年4月1日 ～令和2年12月31日	科目「薬理学Ⅲ」に於いて、パワーポイントによるスライドを主体として講義を進め、予め学生に配布した資料と適宜板書によって、理解を深める工夫をした。 また毎回、講義の後半には、復習問題（10問程度の選択問題）を配付し、時間が許せば解答と解説を行った。解答解説が出来ない場合は、後日、解答をサーバーに収納し、学生が確認と復習を行える環境を整えた。
		平成29年4月1日 ～令和2年12月31日	科目「薬理学Ⅳ」に於いて、教科書の内容に沿って作成したパワーポイントによるスライドを主体として講義を進め、予め学生に配布した資料と適宜、板書によって理解を深める工夫をした。 また毎回、講義の後半には、復習問題（10問程度の選択問題）を配付し、時間が許せば解答と解説を行った。解答解説が出来ない場合は、後日、解答をサーバーに収納し、学生が確認と復習を行える環境を整えた。
		平成29年4月1日 ～令和2年12月31日	薬理学実習に於いて、実験に先立ち、動物倫理について学習させて配慮が行えるようにした。自律神経系に作用する薬、抗炎症薬、局所麻酔薬、抗痙攣薬について実験動物を用いて、投与から作用発現までを理解出来るようにした。3Rの法則に従い、実験動物の使用数削減、正確さの向上や理解の向上等を目的として、代替可能な実験についてはシミュレーションソフトの利用を導入し、骨格筋収縮、血圧に対する各種薬物の作用を調べさせた。また、骨格筋標本作製には、実験動画を視聴させた。
		令和3年4月1日～ 令和4年12月31日	科目「薬学への招待」に於いて、パワーポイントによるスライドを主体として講義を進め、予め学生に配布した資料と適宜板書によって、理解を深める工夫をした。特に、国際宇宙ステーションの微小重力環境で作製した高品位タンパク質の結晶とそのX線結晶構造解析による理論的な創薬について、学生に創薬研究に関する好奇心を導いた。
		令和3年4月1日～ 令和4年12月31日	科目「学内研修」に於いて、基礎的な科学力と理解、薬物療法における実践的能力を獲得させるために、基礎研究とその応用について、パワーポイントのスライドを主体として、講義を行った。 また、学外講師（製薬会社研究者、製薬会社臨床開発担当職員、薬局薬剤師、病院薬剤師）を招聘した講義を行った。
		令和3年4月1日～ 令和4年12月31日	科目「臨床応用薬理学特論」において、パワーポイントによるスライドとそれを補助する資料を並行して、現在、進行中の研究を具体例として、創薬に関する講義を進め、またディスカッションを交えながら学生の理解を深め、思考力を高める工夫をした。
2 作成した教科書、教材、参考書			科目「薬理学Ⅲ、Ⅳに関する教科書「コンパス薬理学」(第2版、分担執筆、編集 櫻田司、南江堂)を出版した。

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	令和2年1月23日	飯塚市市民公開講座にて、「快眠の話」の講義を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Neuroprotective Activities of Saffron and Crocin.	共著	平成28年	Springer, Advances in Neurobiology (NEUROBIOL, volume 12), The Benefits of Natural Products for Neurodegenerative Diseases
(論文) L-PGDS-produced PGD ₂ in premature, but not in mature, adipocytes increases obesity and insulin resistance	共著	平成31年2月	Scientific Reports. 13:9(1):1931.
(論文) Substrate-induced product-release mechanism of lipocalin-type prostaglandin D synthase	共著	令和3年9月	Biochem Biophys Res Commun 569, 66-71.
(論文) L-PGDS Attenuates Acute Lung Injury by Prostaglandin D ₂ in Both Dependent and Independent Ways	共著	令和3年11月	J Immunol 207, 2545-2550.
(論文) Discovery of a Highly Potent and Selective Degradator Targeting Hematopoietic Prostaglandin D Synthase via In Silico Design.	共著	令和3年11月	J Med Chem 64, 15868-15882.
(論文) Structure-activity relationship study of PROTACs against hematopoietic prostaglandin D ₂ synthase	共著	令和4年9月	RSC Med Chem. 13(12):1495-1503
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) プロスタグランジン(PG) D ₂ 情報伝達抑制によるDuchenne型筋ジストロフィーの進行抑制		令和3年12月	第7回日本筋学会 シンポジウム
(演題名) Specific degrader of hematopoietic prostaglandin D synthase prevented the progression of dilated cardiomyopathy in Duchenne muscular dystrophy.		令和4年3月	日本薬理学会 年会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年～現在	日本薬理学会評議委員		
平成30年～現在	薬剤師国家試験問題検討委員会薬理部会委員		
平成31年4月～現在	Journal of Pharmacological Sciences (Japanese Pharmacological Society) 論文審査員		
令和2年	日本薬学会九州支部幹事		
令和4年3月	日本薬学会第142年会・ポスター発表学生優秀発表賞審査員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

有竹浩介

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬品化学分野	職名 教授	氏名 門口 泰也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年～	「有機化学VI」においては、有機反応の理解に重要な電子の動きが視覚的に分かるように板書を用いて講義を進めている。学生の理解を促すよう問題を作成しweb上にupしている。令和4年度の「有機化学VI」の授業評価は、4.31 (100名中81名であった)。	
	平成30年～	「有機化学V」においては、「有機化学V」と同様に板書で授業を進めているが、より基本的な内容であるため、同じ意味の内容を表現を変えて数回説明するようにしている。令和4年度の「有機化学V」の授業評価は、4.16 (109名中77名)であった。	
	令和3年～	「医薬品化学I」においては、医薬品の構造式と名称、作用機序、適応をまとめて覚えられるように補助プリントを用意した。構造式と作用機序を結び付けて理解できるように、化学反応式を用いて説明している。「有機化学V」の授業評価は、3.82であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成27年10月	平成27年度岐阜薬科大学・第32回市民公開講座において「化学物質が及ぼす環境汚染」と題して講義を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 2-8 Reduction of azides. in Science of Synthesis Reference Library: Catalytic Reduction in Organic Synthesis 2	共著	平成30年 (2018)	Georg Thieme Verlag KG, Stuttgart, 2018, pp. 353-374.
(論文) Birch-type reduction of arenes in 2-propanol catalyzed by zero-valent iron and platinum on carbon.	共著	令和元年 (2019)	ACS Omega, 2019, 4, 11522-11531.
(論文) Microwave-mediated continuous hydrogen abstraction reaction from 2-PrOH catalyzed by platinum on carbon bead.	共著	令和元年 (2019)	Catalysts, 2019, 9, 655.
(論文) Esterification or thioesterification of carboxylic acids with alcohols or thiols using amphipathic monolith-SO3H resin.	共著	令和3年 (2021)	Bull. Chem. Soc. Jpn., 2021, 94, 2702-2710.
(総説) Nitriles for the production of various amines.	単著	令和4年 (2022)	Science, 2022, 376 (6600), 1382-1383.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Palladium-catalyzed introduction of alkoxy group to β -C-H bond of α, β -unsaturated carbonyl compounds.		令和3年 (2021) 12月	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2021 (PACIFICHEM 2021), Honolulu, on-line

門口泰也

(演題名) アルデヒドをアルキル源とする、ケトンの α -アルキル化反応	令和4年(2022) 3月	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成28年1月～平成28年12月	有機合成化学協会 東海支部 常任幹事	
平成29年～現在	有機化学系教科担当教員会議、担当委員	
平成30年1月～現在	有機合成化学協会 九州山口支部 大学幹事	
平成30年4月～令和2年3月	日本薬学会 九州支部、幹事	
令和2年1月～現在	有機合成化学協会 九州山口支部 代議員	
令和2年1月～令和3年12月	有機合成化学協会 九州山口支部 代議員	
令和2年4月～令和2年12月	有機合成化学協会九州山口支部、支部奨励賞・優秀論文賞・技術賞選考委員	
令和3年4月～令和5年3月	日本薬学会 九州山口支部、代議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬物解析分野	職名 教授	氏名 小松 生明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年～現在	薬理学Iと薬理学II担当している。板書を主体とし、重要ポイントを図を用いて丁寧に示すことを意識し講義を進めている。また、授業の終わりには練習問題を適宜配布し授業全体の理解度や満足度を高めるよう工夫をしている。令和4年度授業評価は、薬理学I(2年生平均4.62/5.0、1年生平均4.4/5.0)、薬理学II(2年生平均4.596/5.0)であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年～現在	「コンパス薬理学」薬理学の教科書の作成を行った。南江堂、令和元年8月
		平成30年～現在	「機能形態学」の教科書の作成を行った。南江堂、平成30年12月
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成28年10月	市民公開講座(講演タイトル:アメリカの薬剤師教育から学ぶ~Duquesne大学薬学部PharmaDプログラムを例に~):第一薬科大学
		平成29年11月	招待講演:アロマテラピーを実践している従事者に対し、精油による鎮痛効果の基礎研究を紹介した。「Involvement of the peripheral opioid system in antinociception induced by bergamot essential oil.」The 3rd international symposium REFORMED Aisbl.Brussels, Belgium.
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成27年8月～ 平成28年7月	第一薬科大学の教育研究水準の向上及び国際交流の進展に資することを目的とし、Duquesne大学へ派遣留学の任務を遂行した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Possible involvement of the peripheral Mu-opioid system in antinociception induced by bergamot essential oil to allodynia after peripheral nerve injury.	共著	平成30年8月	Neurosci Lett. Vol. 686:p127-p132
(論文) Possible involvement of the μ opioid receptor in the antinociception induced by sinomenine on formalin-induced nociceptive behavior in mice.	共著	令和元年4月	Neurosci Lett. Vol. 699:p103-p108
(論文) Sex Differences Revealed in a Mouse CFA Inflammation Model with Macrophage Targeted Nanotheranostics.	共著	令和2年1月	Theranostics 1;10(4):p1694-p1707
(論文) Development and Translation of NanoBEO, a Nanotechnology-Based Delivery System of Bergamot Essential Oil Deprived of Furocoumarins, in the Control of Agitation in Severe Dementia.	共著	令和3年3月	Pharmaceutics 13(3) 379.

小松生明

(論文) A new colorimetric method for determining antioxidant levels using 3,5-dibromo-4-nitrosobenzene sulfonate (DBNBS).	共著	令和4年7月	MethodsX 9: 101797.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Neuropharmacology of bergamot essential oil for clinical application.		令和4年11月	Dementia Therapeutics and Cognitive Rehabilitation, Italy
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～現在	日本私立薬科大学協会 薬理学教科検討委員会委員		
平成26年4月～現在	薬学教育協議会・薬理学担当教員会議委員		
平成29年4月～現在	公立私立大学実験動物施設協議会会員 主代議員		
令和2年4月～現在	九州山口薬学会運営委員会 理事		
令和2年4月～現在	福岡市薬物乱用防止対策推進協議会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 地域医療薬学センター	職名 教授	氏名 大光 正男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年～現在	科目「臨床薬学英语」において、パワーポイントを主体として講義を進めており、配布資料とテキストを用いて読む書く聞くを心がけた講義を行い、学生の理解を深める工夫をしている。授業評価(4.22-4.50)
		平成21年～現在	科目「実務実習事前学習Ⅱ」において、作成した実務実習事前学習実習書をもとに、学生の理解を深める工夫をしている。授業評価(4.17-4.30)
		平成27年～現在	科目「薬事関係法規・制度」において、パワーポイント、教科書を主体として講義を進めており、各項目で確認問題を講義中に解かせ、理解を確かめながら講義をすすめている。配布資料と教科書を用いて行っている。授業評価(4.04-4.32)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年～現在	科目「実務実習事前学習」に関する「実務実習事前学習(演習・実習書)」(毎年改訂)
		平成30年5月 (初版)	科目「実務実習事前学習」、「実務実習」に関する「PBLケーススタディ薬物治療学演習-実務実習から在宅医療を見据えて-分担執筆(株)廣川鉄男事務所」を出版した。
		令和2年1月	科目「処方解析学」に関する教科書「ファーマシューティカル処方解析学. 分担執筆 ばーそん書房 分担執筆」を出版した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		令和4年12月18日	薬学共用試験OSCEモニター員 長崎国際大学薬学部
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) PBLケーススタディ薬物治療学演習-実務実習から在宅医療を見据えて-	共著	平成30年5月 (初版)	(株)廣川鉄男事務所 分担執筆(p25-p34)
(著書) ファーマシューティカル 処方解析学-実際の症例に学ぶ-	共著	令和2年2月	ばーそん書房 V章婦人科 分担執筆 (p177-p202)
(論文) 中途視覚障害者における薬剤使用の実態調査笹原明日香、小武家 優子、村井 未来、大光 正男、吉武 毅人	共著	平成28年6月	社会薬学35.(2) 69-79
(論文) 「資源の呪い」の要因分析に関する文献調査～コンゴ民主共和国での活動を踏まえ～ 吉武 慎吾、窪田 敏夫、田中 圭、Ngatu Nlandu Roger、井上 裕貴、鎌内 朋子、古賀 多津子、小武家 優子、大光 正男、森内 宏志、吉武 毅人	共著	平成31年3月	第一薬科大学研究年報 35. 21-26
(論文) Improvement of the water-solubility of paclitaxel with an amorphous solid dispersing technique using polyvinylpyrrolidone as hydrophilic carrier. Katsuki M, Irikura M, Moriuchi H, Ohmitsu M, Kubota T, Iohara D, Hirayama F, Otori T, Matsuyama K.	共著	令和1年7月	International Journal of Pharmacy and Technology 11(2) 231701-31710

大光正男

(論文) 佐賀県薬剤師会における自己血糖測定事業に参加した薬局の検体測定室の現状調査 大光 正男、徳淵 昭代、米倉 裕大、河野 広美、曲淵 直喜、佛坂 浩、荒牧 弘範	共著	令和1年6月	社会薬学38(1) 27-31
(論文) Effects of Learning on the Confidence to Provide Medication Education for Pharmacy Students. Hyoguchi N, Ohmitsu M, Kubota T.	共著	令和2年6月	YakugakuZasshi. 140 (6):827-838
(論文) Examination on the Sterilization Effects of Disinfection Spray "Hygi-aid" Ohmitsu M, Suyama A, Koga T, Matsubara F, Komatsu T, Sakurada T, Shuto H.	共著	令和4年10月	Journal of Kyushu Pharmacy 76:11-14
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 初年次の多職種連携教育としての講義「薬学への招待」の実践と学生の意識調査		令和4年3月	第3回福岡県薬剤師会学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成15年10月～現在	日本薬剤師研修センター認定薬剤師 (第04-11685号)更新5回		
平成21年4月～令和3年3月	(一社)福岡市薬剤師会 実務実習支援センター 副センター長		
平成23年4月～現在	第一薬科大学同窓会 幹事		
平成26年～現在	(一社)日本社会薬学会 九州支部 事務局		
平成26年4月～現在	福岡市立春吉中学校 学校薬剤師		
平成26年4月～現在	福岡市医師会急患診療センター 出動薬剤師		
平成27年4月～現在	薬学教育協議会 薬事関係法規・倫理・制度 国家試験問題担当教員		
平成27年4月～現在	薬学と社会教科担当教員		
平成27年～現在	薬学教育協議会 薬事関係法規・制度教科担当教員		
平成28年～現在	熊本大学薬学部同窓会福岡支部 蘇稜会 理事 副総務		
平成28年4月～現在	福岡市立小呂小中学校 学校薬剤師		
平成29年4月～現在	(一社)日本老年薬学会企画運営委員会委員 九州地区担当		
平成30年4月～現在	(一社)スマートヘルスケア協会 シニアアドバイザー		
平成31年4月～現在	(一社)日本老年薬学会評議委員		
令和元年6月～現在	老年薬学指導薬剤師 日本老年薬学会(第1909号)		
令和3年4月～現在	(一社)福岡市薬剤師会 薬学教育委員会 大学委員		
令和3年6月	春日市立春日西中学校薬物乱用防止教室		
令和4年1月	糸島市立加布里小学校薬物乱用防止教室		
令和4年4月～現在	(一社)日本社会薬学会 代議員		
令和4年9月	久留米市 Dr. Bun Bun モバイルファーマシー啓発活動		
令和4年10月	篠栗町立篠栗中学校薬物乱用防止教室		
令和4年11月	福岡市防災フェア モバイルファーマシー啓発活動		
令和4年12月	春日市春日野小学校薬物乱用防止教室		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	第一薬科大学	講座名	免疫薬品学分野	職名	教授	氏名	小川 和加野
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
(1) 微生物学II				平成29年9月-平成30年3月		2014年度より担当。通年講義の後半部分を担当した。薬学部の学生が知っておくべき約60種類の病原体の各項目についてまとめさせた。これは低学年時に継続的に自己学習する習慣の形成に役立った。また、記述式の小テストを毎授業ごとに実施し、文章で説明するというアウトプットのトレーニングを実施した。授業評価は3.7であった。なお、この評価は後半の講義のみの評価であり、前半部分の教員の評価は含まない。	
(2) 薬学英語				平成29年4月-令和1年9月		2016年度より担当した前期の講義である。授業終了時に小テストを実施した。予習したものや講義中のメモは解答時に見ても良いこととして、予習や授業中にメモを取る等の行動を促進させた。授業評価は3.62(2018年度)-3.81(2016年度)であった。	
(3) 微生物学II				平成29年9月-令和1年9月		2016年度より担当した前期の講義である。薬学部の学生が知っておくべき約60種類の病原体の各項目についてまとめさせた。これは試験後に提出させ、評価に加えた。授業評価は3.49(2019年度)-3.92(2016年度)であった。	
(4) 微生物学I				令和2年4月-令和4年9月		前期の講義である 2020年度はコロナ禍のため、全ての講義をオンライン(Stream配信型)で実施した。資料は電子媒体で配布した。対面講義の実施が可能になってからもこの形態を継続している。タブレットを利用し、この資料に書き込む形で講義を実施した。授業評価は3.55(2020年度)-3.81(2021年度)であった。 2021年度、2022年度は教務指示のもとで、正規の15回の講義に加え、8回/年の補習を実施した。	
(5) 感染症治療学				令和2年9月-現在		後期の講義である 2020年度はコロナ禍のため、全ての講義をオンライン(Stream配信型)で実施した。資料は電子媒体で配布した。対面講義の実施が可能になってからもこの形態を継続している。タブレットを利用し、この資料に書き込む形で講義を実施した。授業評価は3.46(2020年度)-3.79(2022年度)であった。 2021年度、2022年度は教務指示のもとで、正規の15回の講義に加え、3回/年の補習を実施した。	

2 作成した教科書、教材、参考書	平成30年3月	シンプル微生物学（改訂第6版）：教科書／南江堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
新規抗菌薬のシーズ発掘と標的探索	共著	平成29年4月	YAKUGAKU ZASSHI 137(4)383-388
Comprehensive analysis of resistance-nodulation-cell division superfamily (RND) efflux pumps from <i>Serratia marcescens</i> , Db10.	共著	平成31年3月	Sci Rep. 9(1):4854.
S-Nitrosated alpha-1-acid glycoprotein exhibits antibacterial activity against multidrug-resistant bacteria strains and synergistically enhances the effect of antibiotics.	共著	令和1年9月	FASEB Bioadv. 1(3):137-150.
The role of RND-type efflux pumps in multidrug-resistant mutants of <i>Klebsiella pneumoniae</i> .	共著	令和2年7月	Sci Rep. 10(1):10876.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
該当なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成29年-令和3年	CBTモニター員		
平成29年-令和2年	日本薬学会広報委員会委員		
令和4年3月	日本薬学会第142年会・ポスター発表学生優秀発表賞審査員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 分析化学分野	職名 教授	氏名 藤井 清永
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		令和元年～4年 (4月～7月)	担当の科目「分析化学Ⅲ」において、パワーポイントをプロジェクター投影して講義を進めた。講義内容に沿って、写真やビデオを活用し、薬剤師国家試験の演習問題を組み入れているなど、学生の学習意欲の喚起に努めた。学生にはそのパワーポイントをもとにした講義資料を提供した。講義の途中でも静止できる動画の特徴を活かし、講義資料は穴埋め式で、受講によりキーワードとなる解答の確認を可能とした。授業評価はいずれの期間も5段階評価で3.7以上であった。
		令和元年～4年 (9月～12月)	担当の科目「構造解析演習」において、少人数グループ討論を利用したアクティブラーニングを導入して演習講義を進めた。グループで集約された意見や結果を発表・討議して議論を広げ、理解を深めるといった手法を活用し、演習問題の難易度を段階的に上げるなど、学生の効果的な学習促進を試みた。授業評価はいずれの期間も5段階評価で3.7以上であった。
		令和2年～4年 (4月～7月)	担当の科目「基礎物理学」において、講義資料のパワーポイントによるプロジェクター投影と板書を併用した対面式授業を行った。講義内容を示したパワーポイントは事前に、学生が資料としてダウンロードできるように、そして、講義と同様に音声を録音して講義動画も作成し、学生用サーバーに保存・提供することにより、学習の予習・復習を可能とした。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		令和4年1月～12月	本学のFD研修会に5回すべて参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Hepatocyte MKK7 contributes to restoration of the liver parenchyma following injury.	共著	令和3年10月	Hepatology Vol. 73

(論文) Protein co-expression network-based profiles revealed from laser-microdissected cancerous cells of lung squamous-cell carcinomas.	共著	令和3年11月	Scientific Reports Vol. 11
(論文) Discovery of a highly potent and selective degrader targeting hematopoietic prostaglandin D synthase via in silico design.	共著	令和3年11月	Journal of Medicinal Chemistry Vol. 64
(論文) Minichromosome maintenance 2 is an independent predictor of survival in patients with lung adenocarcinoma.	共著	令4年1月	Molecular and Clinical Oncology Vol. 16
(論文) Perfluorooctanoic acid as a stimulator of estrogen receptor-negative breast cancer MDA-MB-231 cell aggressiveness: Evidence for involvement of fatty acid 2-hydroxylase in the stimulated cell migration.	共著	令和4年4月	The Journal of Toxicological Sciences Vol. 47
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
該当なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成7年4月～現在	日本質量分析学会 会員		
平成16年5月～現在	日本癌学会 会員		
令和2年4月～現在	日本薬学会九州山口支部 幹事		
令和2年4月～現在	日本分析化学会九州支部 幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 衛生化学分野	職名 教授	氏名 副田 二三夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		平成28年～現在	授業は、教科書および資料を用いた講義形式であり、スライドや視聴覚教材の活用、到達度テストの実施や誤答ノートの提出、個別の質問への対応などを通じて、学生の理解を深める工夫をしている。講義関連資料や遠隔動画は、eラーニングシステムやマイクロソフト社のストリームでも学習できるよう工夫している。また、授業に演習形式も取り入れている（アクティブラーニングの導入）。授業評価（5点満点）は、4.24～4.53であった。授業評価の結果を基に次年度の改善計画を立て、学生のニーズに可能な範囲で対応する努力を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年5月～平成27年5月	生物系薬学実習Ⅳ・環境衛生薬学実習 実習書
		平成29年4月～令和4年4月	衛生薬学実習書
		令和4年6月	予防薬学としての衛生薬学 -健康と環境- 第4版（廣川書店）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年4月～平成25年5月	学校法人華苑学園 熊本看護専門学校 非常勤講師
		平成24年～現在	FD講習会への参加
		平成24年7, 11月	教育研究指導学生の受賞（4件）
		平成25年11月	教育研究指導学生の受賞（1件）
		平成26年3, 7月	教育研究指導学生の受賞（2件）
		平成27年3, 8, 10月	教育研究指導学生の受賞（3件）
		平成28年3月	教育研究指導学生の受賞（1件）
		平成31年3月	教育研究指導学生の受賞（1件）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Miki R, Honda I, Hamasaki R, Kawahara R, Soeda F, Shirasaki T, Misumi S, Takahama K. Effects of tipepidine on MK-801-induced cognitive impairment in mice.	共著	令和元年(2019)	Elsevier, Brain Res. 2019 May 1;1710:230-236.
（論文）Zhou JR, Shirasaki T, Soeda F, Takahama K. Suplatast tosilate inhibited nicotinic single-channel currents in the paratracheal ganglia neurons of rats.	共著	令和2年(2020)	Austin Publications LLC, Austin Journal of Pharmacology and Therapeutics. 2020 Dec;8:1125.

副田二三夫

(論文) Soeda F, Toda A, Masuzaki K, Miki R, Koga T, Fujii Y, Takahama K. Effects of enriched environment on micturition activity in freely moving C57BL/6J mice.	共著	令和3年(2021)	Wiley, Lower Urinary Tract Symptoms. 2021 Jul;13(3):400-409.
(論文) Soeda F, Toda A, Masuzaki K, Honda A, Moriyama S, Tashiro A, Kimura I, Kudo S, Sato A, Hashimoto T, Wakayama K, Koga T, Kobuke Y, Takahama K. Micturition function of freely moving BALB/c mice and their effects on rearing environment and neurogenesis inhibitor.	共著	令和3年(2021)	日本排尿機能学会, The journal of Japanese continence society. 2021;31(2):404-410.
(論文) Soeda F, Kinoshita M, Fujieda Y, Takahama K. Effects of cloperastine, a non-narcotic antitussive, on the expression of GIRK channels in the brain of methamphetamine-induced hyperactive mice.	共著	令和4年(2022)	Scientific Scholar, Indian Journal of Physiology and Pharmacology. in press.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アレルギー性皮膚炎における肝メチオニン代謝酵素Bhmtの寄与の検討: 古賀 貴之、廣村 信、平尾 雅代、竹田 修三、石田 卓巳、石井 祐次、小武家 優子、戸田 晶久、副田 二三夫		令和4年3月	日本薬学会第142年会(名古屋)
(演題名) エンリッチ環境飼育マウスの排尿機能に対するテモゾロミドおよびPCPAの影響: 副田 二三夫、森山 柊樹、古賀 貴之、小武家 優子、戸田 晶久		令和4年3月	第95回日本薬理学会年会(福岡)
(演題名) 薬物誘発性閉経モデルマウスの加齢による排尿機能の変化と短期間のエンリッチ環境飼育の影響: 副田 二三夫、寺崎 史朗、阿部 瑞季、熊谷 碧、森山 柊樹、古賀 貴之、小武家 優子		令和4年8月	フォーラム2022: 衛生薬学・環境トキシコロジー(熊本)
(演題名) 果糖過剰摂取によるNAFLDへのSelenbp1欠損が及ぼす影響の解析: 古賀 貴之、廣村 信、香川 正太、平尾 雅代、竹田 修三、石井 祐次、石田 卓巳、長島 史裕、小武家 優子、戸田 晶久、副田 二三夫		令和4年8月	フォーラム2022: 衛生薬学・環境トキシコロジー(熊本)
(演題名) エンリッチ環境飼育した閉経モデルマウスの排尿機能に対するチロシンヒドロキシラーゼ阻害薬AMPTの影響: 副田 二三夫、寺崎 史朗、阿部 瑞季、古賀 貴之、小武家 優子		令和4年9月	第29回日本排尿機能学会(札幌)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成28年4月～現在	薬学教育協議会・衛生薬学担当教員会議委員		
平成28年4月～現在	薬剤師国家試験問題検討委員会(衛生薬学部会)委員		
令和2年9月～令和4年3月	薬学共用試験センター CBTモニター員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

副田二三夫

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 和漢薬物学	職名 教授	氏名 森永 紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成28年度 ～現在	科目「薬用資源学」において、毎回の講義内容を配布資料にまとめ、教科書に沿って適時スライドを用いて、板書中心の講義や4-5回分の講義内容に関する小テストを実施した。令和2-3年度はコロナ禍、対面に加えてStream動画格納方式で講義を実施し、繰り返し講義動画を見ることで学生の理解を深める工夫をした。授業評価 (3.8~4.3)
		平成28年度 ～現在	科目「生薬学」において、教科書に沿って適時スライドを用いて、板書中心の講義や4-5回分の講義内容に関する小テストを実施し、学生の理解を深める工夫をした。令和2-3年度はコロナ禍、対面に加えてStream動画格納方式で講義を実施した。授業評価 (3.8~4.3)
		令和2年年度 ～現在	科目「伝統医療薬学実習」において、伝統医療薬学の実践で用いる漢方薬を念頭におき、薬草園実習や外部の伝統医薬施設見学、報告会を実施した。授業評価 (4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年10月	物理系実習の実習書の作成 2年生生物系実習において、機器分析に関する実習講義テキストおよびTLCやELISA実施に関する実習教材を作成した。
		平成30年9月 ～現在	化学系実習の実習書作成 2年生化学系実習において、生薬の鑑定、生薬総則、生薬の確認試験に関する導入教材、実習教材を作成した。
		令和2年年度 ～現在	伝統医療薬学実習の実習書の作成 5年生アドバンス実習において、薬草園実習、伝統医薬施設見学に関する導入教材、実習教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成29年度 平成30年度	国家試験対策委員会 委員長 教務委員会 部長補佐
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Isolation of a novel glycyrrhizin metabolite as a causal candidate compound for pseudoaldosteronism.	共著	平成30年10月	Scientific Reports Vol. 8, No. 1(1)
(論文) 18β-glycyrrhetyl-3-O-sulfate would be a causative agent of licorice-induced pseudoaldosteronism.	共著	平成31年2月	Scientific Reports Vol. 9, No. 1

(論文) Appetite-enhancing effects of inhaling cinnamon, clove, and fennel essential oils containing phenylpropanoid analogues.	共著	令和2年9月	Journal of Natural Medicines Vol. 74, No. 4
(論文) Identification of an Alternative Glycyrrhizin Metabolite Causing Licorice-Induced Pseudohyperaldosteronism and the Development of ELISA System to Detect the Predictive Biomarker.	共著	令和3年5月	Frontiers in Pharmacology Vol. 12
(論文) Evaluation of the Amounts of Senosides A and B in Rhubarb-containing Kampo Medicines to Create a Ranking of Kampo Medicines for Appropriate Selection of Laxatives.	共著	令和3年7月	Journal of the Anus, Rectum and Colon Vol. 5, No. 3
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 抗18β-glycyrrhetyl-3-O-sulfateマウス血清の化合物認識について		令和3年9月	日本生薬学会 第68回年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成27年度～30年度	日本薬学会代議員		
平成27～28年度、令和元年度～現在	日本生薬学会代議員		
令和3年度～現在	日本薬学会 学術誌編集委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	第一薬科大学	講座名	薬学教育推進センター
職名	准教授	氏名	高橋 義人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		令和4年4月～令和4年7月	科目「基礎化学Ⅰ」において、パワーポイントや配布資料を活用し、有機化合物の構造についての理解を深める工夫をした。パワーポイントの内容は、事前に電子データとして配信し、講義中にもみることができるようにした。授業評価（3.8）。
		令和4年9月～令和4年1月	科目「基礎化学Ⅱ」において、パワーポイントや配布資料を活用し、化学反応についての理解を深める工夫をした。パワーポイントの内容は、事前に電子データとして配信し、講義中にもみることができるようにした。また、講義内容の理解を確認するための提出物の課した。授業評価（3.9）。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年12月	文部科学省検定済教科書 化学基礎 改訂版(新興出版社啓林館)
		平成30年12月	文部科学省検定済教科書 化学 改訂版(新興出版社啓林館)
		令和3年12月	文部科学省検定済教科書 高等学校 化学基礎(新興出版社啓林館)
		令和3年12月	文部科学省検定済教科書 i版 化学基礎(新興出版社啓林館)
		令和4年12月	文部科学省検定済教科書 高等学校 化学(新興出版社啓林館)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		令和4年10月15日	新課程の高等学校「化学」に対応するための研修会において、「エンタルピーとエントロピーの導入」と題する講演を行った。
		令和4年10月21日	沖縄県高等学校化学教育研究会研修会において、「エンタルピーとエントロピーの導入」と題する講演を行った。
		令和4年11月5日	新課程の高等学校「化学」に対応するための研修会において、「電子軌道の導入と周期表」と題する講演を行った。
		令和4年12月10日	新課程の高等学校「化学」に対応するための研修会において、「電子軌道の導入と有機化合物」と題する講演を行った。
		令和4年12月26日	大分県高等学校教育研究会新課程「化学」研修会において、「エンタルピーとエントロピーの導入」と題する講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）
(論文) 理論化学の分野における思考力とは		単著	令和2年8月
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
			日本化学会誌(化学と教育第68巻第8号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Visualization of gel-precipitation formation reaction using pH indicator pH指示薬を用いたゲル・沈殿生成反応の可視化		令和4年3月	日本化学会第102春季年会
III 学会および社会における主な活動			
令和4年12月～		福岡県立城南高等学校の総合的な探究の時間の発表会の審査員	

高橋義人

令和4年7月～	福岡市立福翔高校学校の総合的な探究の時間の発表会のコメンテーター
令和3年8月～	九州地区高大接続化学教育研究会会長

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	第一薬科大学	講座名	薬品化学分野
職名	准教授	氏名	横山 さゆり
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年～平成27年、令和元年～令和3年	授業開始とともに前回の授業で取り扱った単語テストを行って単語力を養っている。情報演習室を使用して、講義内容を目の前のパソコン画面で示し、解説や補足を入れたり、ネイティブの発音で本文を聞かせている。また、講義内容に関連する動画を視聴させ、英文の理解を図っている。令和2年度に動画（WEB公開）を作成し、現在は、ハイブリット講義にも対応している。動画での授業内容は、従来と同様の形式にて作成した。授業評価（令和3年度）は、教員側の8項目に対して3.63～4.67（平均4.11）と高評価が得られた。（薬学英语）
		平成28年～現在	講義は、主にパワーポイントを使用し、計算など分かりにくい箇所は黒板を使用している。実験内容などは、理解しやすいように動画を視聴させている。パワーポイントには、写真、イラスト、図などを極力取り入れ、理解を深める工夫を行っている。また、学生実習と対応している箇所は、実習例を取り入れながら説明を加えている。令和2年度に動画（WEB公開）を作成したが、従来通り、パワーポイントと黒板を使用した講義内容とし、同時に、動画での復習も可能とした。現在は、ハイブリット講義にも対応している。授業評価（令和4年度）は、教員側の5項目に対して4.31～4.54（平均4.46）と高評価が得られた。（分析化学Ⅱ）
		平成29年～令和3年	講義資料を配布し、パワーポイントを主体として講義を行っている。講義資料中にいくつか関連問題を組み込み、講義中に問題を解かせることで、理解度の確認を行っている。動画作成については、同上。（オムニバス授業のため、個人授業評価はなし）（基礎化学Ⅱ）
		平成29年～現在	要点と演習問題を組み合わせたのプリントを作成し、要点を説明したのちに、演習問題を解かせ、解説を加えている。要点が分かりにくい場合は、パワーポイントを使用し、理解を深める工夫をしている。動画作成については、同上。（演習のため、授業評価はなし）（物理系演習）
		平成30年、令和4年～	平成30年に1回、令和4年度よりカリキュラム編成により、再度担当。新カリキュラムにより2年生前期から1年生前期に移動となるため、今年度は1・2年生前期を担当した。教科書の内容を要点にまとめたプリントを配布して講義の理解を深める工夫をした。授業開始から3コマ分の授業に対して小テストを実施。講義は、主にパワーポイントを使用し、写真、イラスト、図などを極力取り入れ、理解を深める工夫を行っている。授業評価（令和4年度）は、教員側の5項目に対して2年生は、4.09～4.43（平均4.26）と高評価が得られた。しかし、1年生では、3.04～3.86（平均3.40）と初めての専門科目であったため、理解が難しかった結果と思われる。（無機化学）

横山さゆり

	平成26年～現在	他2件（基礎実習、化学系実習）。（実習のため、個人評価はなし）	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年10月～現在	「薬学基礎実習書」（第一薬科大学 物理・化学・生物系分野 編）（令和4年）物理全般	
	平成27年4月～平成29年4月	「薬局方概論」（第一薬科大学 横山さゆり 編）（平成29年）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	令和3年4月21日～令和3年11月30日	本学の第1回～第8回のFD・SD研修会に参加	
	令和4年7月1日、11月28日	本学の第1回～第2回のFD・SD研修会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）アルデヒドをアルキル源とする、ケトンの α -アルキル化反応		令和4年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
（演題名）ジシアノメチレン化アクリドン誘導体の合成とこれらの固体ならびに溶液状態における近赤外発光挙動		令和4年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
III 学会および社会における主な活動			
平成22年～現在	日本薬局方教科担当委員会委員		
平成27年4月～現在	日本分析化学会九州支部 分析化学講習会、幹事		
令和2年～現在	日本分析化学会九州支部 常任幹事		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 生薬学分野	職名 准教授	氏名 城戸 克己
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年～	講義資料を配布し、適宜パワーポイントを用いて講義を実施している。講義資料は、重要ポイントを空白におき、講義中の説明を聞き書き込めるようにしている。また、確認テストを行うことで理解を深めている。授業評価は、2.86～4.02	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年～	漢方疾患治療論・漢方治療論・漢方免疫学講義資料(毎年改定)、臨床薬学英語	
	平成22年～	「実務実習事前学習」、「病院・薬局実務実習書」	
	平成27年～28年	「化学系実習書」	
	平成29年～30年	「物理系実習書」	
	平成30年～	「伝統医療薬学実習書」	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
	令和2年1月	九州漢方研究会 661回例会 「漢方の副作用」を講演	
	令和3年3月	一葉漢方zoomセミナー～漢方の基本を学ぶ～	
	令和3年3月	一葉漢方zoomセミナー～漢方の基本を学ぶ～	
	令和4年1月	「臨床準備教育に関する研修会」	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
「新薬剤師の漢方処方」	共著	平成24年	廣川書店
(論文) Effect of SRD-P401 on the Discomfort of Neck and/or Shoulder Stiffness	共著	平成29年	American journal of plant Sciences, 2017, 8, 1065-1076
(論文) 城戸 克己, 廣瀬 恵美, 片岡 裕美, 増田 寿伸, 田鶴谷(村山) 恵子, 食品による生薬製剤のマスクング効果	共著	令和元年	日本食品化学学会誌、(2019) 26 巻 (1) : 68-76
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 伝統的な煎出法が漢方薬に及ぼす影響: 城戸 克己、吉武 実優、田鶴谷(村山) 恵子		令和4年3月	日本薬学会第142年会(名古屋)
骨粗鬆症治療におけるビタミンD製剤と生薬製剤併用リスク評価: 高岡 彩子、梅野 耀1、城戸 克己、廣村 信、片岡 裕美、飯田 浩子、田鶴谷(村山) 恵子		令和4年11月	第16回日本薬局学会学術総会(福岡)

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成16年5月～	日本東洋医学会会員
平成20年4月～	日本生薬学会会員
平成23年11月～	日本薬学会会員
平成29年12月～	日本食品化学学会会員
平成29年12月～	薬学協議会教科担当教員会議 生薬学・天然物化学教科担当教員会議担当委員
令和4年度	薬物乱用防止教室
令和4年7月	「南区こども大学2022」
令和4年8月	南市民センターオープニングイベント

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	第一薬科大学	講座名	薬物解析学分野	職名	准教授	氏名	高村 雄策
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 1) 講義				平成25年4月 ～平成31年3月		「解剖生理学」(解剖生理学全範囲) 富山市立看護専門学校看護学科1年次 富山県立総合衛生学院看護学科1年次 錯視や盲点の実験、解剖模型や臓器3Dモデルを使用した、実感を伴う解剖生理学講義となるよう工夫をした。	
				平成25年4月 ～令和元年3月		「生理学」(消化管) 富山大学医学部医学科2年次 医学科学生向けに、消化器系の正常機能の基礎に関する講義を行った。これには、消化吸収の生理学的機能に加え、消化管免疫系、腸内細菌叢、栄養素の輸送機構などについて最新の研究知見を取り入れた。講義で使用したレジュメ、講義資料等を作成し、最新の知見を取り入れて毎年度刷新を行った。講義資料や成績の開示に Moodle を使い学生が自由にアクセスできる環境を構築した。	
				平成25年4月 ～令和元年3月		「生理学」(消化管) 富山大学薬学部2年次 薬学部生向けに、消化管の機能に加え、消化管で機能する代表的な薬剤、経口薬の動態と代謝を概説した。	
				令和元年4月 ～令和元年3月		「生理学」(生理学全範囲) 北信越柔道整復師専門学校1年次、2年次 心音、心電図読図など実感を伴う解剖生理学講義となるよう工夫をした。	
				令和元年4月～継続中		機能形態学Ⅱ 第一薬科大学薬学部薬学科2年次、漢方薬学科2年次 最新の知見を取り入れ、動画等を活用し視覚的にも理解しやすいように工夫をした。 また毎講義終了時に小テストを行い、講義の理解度を講義内容にフィードバックできるようにした。小テストの解説を次の講義の初めに行い、リマインドさせた。 試験を3回に分けて実施し、適度な学習範囲でのより深い理解を促せるようにした。	
				令和元年4月～現在		形態機能学Ⅱ 第一薬科大学看護学部1年次 最新の知見を取り入れ、動画や人体模型を活用し視覚的にも理解しやすいように工夫をした。 また毎講義終了時に小テストを行い、講義の理解度を講義内容にフィードバックできるようにした。小テストの解説を次の講義の初めに行い、リマインドさせた。 試験を3回に分けて実施し、適度な学習範囲でのより深い理解を促せるようにした。	

高村雄策

	令和元年5月	<p>「先端生命科学特論 (Advanced life science)」 (新規アルツハイマー治療薬の開発) 富山大学大学院生命融合学科 新規アルツハイマー治療薬 edonerpic maleate について、ライブラリからの選出とそのメカニズムについて講義を行った。留学生向けに英語による講義を行った。</p>
	令和元年11月	<p>「解剖生理病態学」(神経系の機能) 富山大学大学院医学薬学研究部修士1年 神経細胞の電気生理学的特性、神経伝達物質の開口放出機構について最新の研究知見を取り入れ概説した。</p>
2) 実習	令和4年4月～継続中	<p>薬学基礎英語 I 第一薬科大学薬学部薬学科1年次、漢方薬学科1年次、薬科学科1年次 既存テキストに加え、最新の科学的知見のうち、学生にもわかりやすく興味を持てる内容の英語記事を教材に使用した。また毎講義終了時に小テストを行い、講義の理解度を講義内容にフィードバックできるようにした。小テストの解説を次の講義の初めに行い、リマインドさせた。</p>
	平成25年4月～令和元年3月	<p>生理学実習」(呼吸機能) 富山大学医学部医学科2年次 スパイロメーターを用いた各自の一般的呼吸機能のパラメーターを取得し、あらかじめ計算しておいた日本呼吸学会ガイドラインによる日本人スパイロメトリー標準値と比較考察させた。また、新規に考案した数種類の呼吸機能障害モデルによるパラメーターを、スパイロメーターから得られた数値データから解析することにより、正常と比較してどのような変化があるかを考察させた。使用するテキストの作成、グループウェア Moodle 上でのインストラクション及び課題提示、評定などを行う双方向性の学習システムを構築した。</p>
	令和元年4月～継続中	<p>「薬理学実習」(局所麻酔薬、自律神経作動薬による腸管の運動) 第一薬科大学薬学部薬学科3年次、漢方薬学科3年次 角膜刺激による瞬目反射を指標とした、局所麻酔薬点眼投与による薬理作用の実習項目を構築した。グラフの作成方法、統計解析方法について具体的な手順を記載した実習書を作成した。</p>
3) 大学院学生の研究指導 富山大学医学薬学教育部生命融合学科 博士後期課程	平成26年4月～平成30年3月	<p>CHOIJILJAV CHINZORIG 氏 「Rat retrosplenial cortical involvement in wayfinding using visual and locomotor cues」 (ラット脳梁膨大後部皮質は、視覚および歩行運動入力により経路識別に関与する) 主任指導教官富山大学医学部西条寿夫教授との指導のもと、行動課題遂行中のラットの脳梁膨大部皮質(RCS)から神経活動を記録する実験系を構築した。この結果RCSには空間移動識別および移動関連ニューロンの2種類のニューロンが存在し、2) これらニューロンは空間移動時に発生する自原性感覚入力(オプティック・フロー、固有感覚等)に応答性を有する、3) 移動関連ニューロンの一部は歩行速度に比例して活動が増大する“スピード細胞”であることなどが判明した。これらのことからRSCが経路積分(path integration: 自原性感覚入力から自己の位置を算出する脳内過程)に関与していることを示唆する神経生理学的基盤が明らかになった。(博士論文)(共著論文)</p>

	<p>平成26年度 ～平成30年3月</p> <p>平成27年度 ～令和元年3月</p> <p>平成30年4月</p>	<p>RAFAEL BRETAS VIEIRA氏 「Neural representation of overlapping trajectories and reward acquisitions in the monkey hippocampus」(サル海馬体における重複した移動軌跡および報酬獲得の再現機構) 主任指導教官富山大学西条寿夫教授の指導のもと、時空間的に重複する事項識別の神経機構を明らかにする目的で、仮想現実空間移動課題遂行中のサル海馬から神経活動を記録した。その結果、1) 霊長類の海馬体においても、げっ歯類と同様にルート依存性空間応答が存在することが明らかになった。さらに、これら場所ニューロンの集団的活動により、ルートと空間的位置情報が符号化されていることが判明し、霊長類もげっ歯類と同様の重複空間識別機構を有していることが明らかになった。2) 報酬応答ニューロンもルート依存性応答を示すことが初めて明らかになった。さらに、これら報酬応答ニューロンの集団応答は、ルートと報酬獲得の時間情報を含んでいることが判明した。3) 重複事項を識別に関するNeural differentiation仮説の妥当性を神経生理学的に検討した結果、それを支持する結果が得られた。これら2) および3) の結果は霊長類で初めて明らかになった。(博士論文) (共著論文)</p> <p>本江 信子氏 「Astaxanthin ameliorated parvalbumin-positive neuron deficits and Alzheimer' s disease-related pathological progression in the hippocampus of AppNL-G-F/NL-G-F mice. 」(アスタキサンチンはAppNL-G-F/NL-G-F マウス海馬におけるバルブアルブミン陽性神経細胞障害およびアルツハイマー病関連病態の進展を改善した) 主任指導教官富山大学西条寿夫教授の指導のもと、次世代型アルツハイマーモデルヒト変異APPノックインマウスを用い、行動学的および神経生理学的な解析と天然由来抗酸化成分アスタキサンチンの効果を検討した。この結果、AppNL-G-F KI マウスにおいて記憶力の低下、Aβ42の蓄積、pTauの増加およびミクログリアの活性化(Iba1/Aβ比の増加)が認められ、その相関分析によりAβの凝集がトリガーとなりADが発症とするというアミロイドカスケード理論を補強するデータが得られた。 AppNL-G-F(Ctrl)マウスにおいてAXが示したADの予防的効果の作用機序として、1) 生体内抗酸化力の上昇によるPV陽性ニューロン密度の増加、2) γオシレーション増強によるミクログリアの活性化およびミクログリアによるAβ取り込みの増加を介したAβ蓄積の抑制、3) GSH合成系であるNrf2/AREシグナル伝達系はオートファジーも活性化することから、オートファジー増強によるpTauの分解の亢進によるpTauの減少等が示唆された。(博士論文) (共著論文)</p> <p>富山大学医学部教授会による再任評価(教育・研究業績評価)により平成30年4月以降の再任が決定された。</p>
4) 教育上の能力に関する大学等の評価		
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年4月～継続中	生理学系授業用レジュメ、講義用スライド資料、生理学、薬理学実習テキスト、実習用装置を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
（論文）Non-invasive electroencephalographical (EEG) recording system in awake monkeys.	共著	令和2年2月	Frontiers in System Neuroscience Vol. 14
（論文）A Prototypical Template for Rapid Face Detection Is Embedded in the Monkey Superior Colliculus.	共著	令和2年2月	Frontiers in Neuroscience Vol. 14
（論文）Impaired hemodynamic activity in the right dorsolateral prefrontal cortex is associated with impairment of placebo analgesia and clinical symptoms in postherpetic neuralgia.	共著	令和2年2月	IBRO Reports Vol. 8
（論文）Astaxanthin Ameliorated Parvalbumin-Positive Neuron Deficits and Alzheimer's Disease-Related Pathological Progression in the Hippocampus of <i>App^{NL-G-F/NL-G-F}</i> Mice.	共著	令和2年3月	Frontiers in Pharmacology Vol. 11
（論文）Neuronal Representation of Locomotion During Motivated Behavior in the Mouse Anterior Cingulate Cortex.	共著	令和3年4月	Frontiers in System Neuroscience Vol. 15
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成6年4月～継続中	日本生理学会会員		
平成13年13月～継続中	Society for Neuroscience 会員		
令和元年4月～継続中	Frontiers In Behavioral Neuroscience 論文審査委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 健康・環境衛生学講座 衛生化学分野	職名 准教授	氏名 小武家 優子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年10月1日 ～現在	科目「公衆衛生学」において教科書を主体として講義を進め、パワーポイントを用いて学生の理解を深める工夫をした(パワーポイントの内容はPDFファイルで事前に配布)。遠隔講義においては、zoomおよびstreamを用いた動画にて対応した。2019年度授業評価平均3.8(2.7～4.3)。
		令和2年4月1日～ 令和4年9月30日	科目「衛生薬学実習」において、オンラインによる学習動画を用いて、理解を深める工夫をした。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成30年5月1日	科目「事前学習」に関する教科書「PBLケーススタディー薬物治療学演習—実務実習から在宅医療を見据えて—」(序章0-8在宅医療 分担執筆、廣川鉄男事務所)を作成した。
		令和3年4月～令 和4年4月1日	科目「衛生薬学実習」にて使用する「衛生薬学実習書」を作成した。
		令和4年6月1日	科目「公衆衛生学」で学修する感染症と関連した「予防薬学としての衛生薬学-健康と環境-[第4版]」(第8章 感染症の現状とその予防 分担執筆、廣川書店)を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		令和3年8月7日	福岡未来創造プラットフォーム加盟大学の教員を対象として開催された「アントレプレナーシップ教育向上のための教員向けプログラム」にFD参加し、米バプソン大学におけるアントレプレナーシップ教育の在り方について意見交換を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) PBLケーススタディー薬物治療学演習—実務実習から在宅医療を見据えて—	共著	平成30年5月1日	廣川鉄男事務所, 序章0-8 在宅医療
(著書) 予防薬学としての衛生薬学-健康と環境-[第4版]	共著	令和4年6月1日	廣川書店, 第8章 感染症の現状とその予防
(論文) 薬学教育における在宅医療教育の現状とその課題「教育用在宅症例作成ワーキンググループ」活動を通じて。	単著	平成30年8月1日	薬学雑誌. 137巻8号: 935-940.
(論文) 無麻酔・無拘束条件下におけるBALB/cマウスの排尿機能とそれに対する飼育環境および神経新生阻害薬の影響。	共著	令和3年7月1日	日本排尿機能学会誌. 31巻2号: 404-410.
(論文) Use of Nonprescription and Prescription Drugs and Drug Information Sources among Breastfeeding Women in Japan: A Cross-Sectional Study.	共著	令和4年9月1日	International journal of environmental research and public health. 19(18): 11722.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）エンリッチ環境飼育した閉経モデルマウスの排尿機能に対するチロシンヒドロキシラーゼ阻害薬AMPTの影響	令和4年8月1日	フォーラム2022：衛生薬学・環境トキシコロジー（熊本）
（演題名）果糖過剰摂取によるNAFLDへのSelenbp1欠損が及ぼす影響の解析	令和4年8月1日	フォーラム2022：衛生薬学・環境トキシコロジー（熊本）
（演題名）エンリッチ環境飼育した閉経モデルマウスの排尿機能に対するチロシンヒドロキシラーゼ阻害薬AMPTの影響	令和4年9月1日	第29回日本排尿機能学会（札幌）
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成29年4月～現在	日本薬学会（平成31年 第139年会（千葉）：薬学教育 座長）（令和3年 第141年会（広島）：学生優秀発表賞審査員）	
平成29年4月～現在	日本社会薬学会（平成30年日本薬学会「社会系薬学部会」設立に向けて、日本社会薬学会として関与）	
平成29年4月～平成31年3月	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会 法規・制度・倫理部会 担当教員	
平成29年4月～平成31年3月	薬学教育協議会 薬学と社会教科担当教員会議 担当教員	
令和3年4月～現在	薬学教育協議会 衛生薬学教科担当教員会議 担当教員	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 分子生物学分野	職名 准教授	氏名 廣村 信
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成30年4月～現在	科目担当「生命科学Ⅱ」において、書込み式の授業プリントを事前に配布し、予習資料とした。講義当日はこの資料をもとに、板書により講義を深める内容とした。また、単元終了後には演習講義を行い、問題を使って講義の理解を深める努力をした。(授業評価 4.0)
		令和4年～現在	書込み式の授業プリントを事前に配布し、予習資料とした。講義当日はこの資料をもとに、板書により講義を深める内容とした。また、単元終了後には演習講義を行い、問題を使って講義の理解を深める努力をした。(授業評価 3.9)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成28年4月～現在	実習科目「衛生薬学実習」に関して担当教員と共同して実習内容について解説している。
		平成28年4月～現在	実習科目「基礎実習」において、担当教員と共同で「顕微鏡観察」に関して実習内容を解説している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成28年4月1日～現在	薬学共用試験CBT実施責任者
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Munekane M., Motomura S., Kamino S., Ueda M., Haba H., Yoshikawa Y., Yasui H., Hiromura M. and Enomoto S.: Visualization of biodistribution of Zn complex with antidiabetic activity using semiconductor Compton camera GREI.	共著	平成28年	Biochem., Biophys. Rep., 2016,
(総説) 鶴谷(村山) 恵子、廣村信. 海洋性ピコプランクトンによるビタミンの産生と相互利用	共著	平成30年	ビタミン., 2018, 92(3), 132-135
(論文) Koga T., Hirayama F., Satoh T., Ishii Y., Kashige N., Hiromura M., Soeda F. and Toda A.: Methionine is a key regulator in the onset of atopic dermatitis in NC/Nga mice.	共著	令和3年	BPB Reports Vol. 4, No. 1, p. 47-54
(論文) Ziegler O., Sriram N., Gelev V., Radeve D., Todorov K., Feng J., Selke FW., Robson SC., Hiromura M., Alexandrov BS. and Usheva A.: The cardiac molecular setting of metabolic syndrome in pigs reveals disease susceptibility and suggests mechanisms that exacerbate COVID-19 outcomes in patients.	共著	令和3年	Scientific Reports Vol. 11, 19752

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）アレルギー性皮膚炎における肝メチオニン代謝酵素Bhmtの寄与の検討. 古賀 貴之、廣村 信、平尾 雅代、竹田 修三、石田 卓巳、石井 祐次、小武家 優子、戸田 晶久、副田 二三夫	共著	令和4年3月	日本薬学会 第142年会
（演題名）漢方薬「八味地黄丸」の抗肥満作用に対する脂質代謝の影響. 香川 正太、田部 勝也、廣村 信、古賀 貴之、椎木 幾久子、大嶺 貴亮、濱地 桜子、奥屋 茂、木村 郁子、谷澤 幸生、長島 史裕	共著	令和4年3月	日本薬学会 第142年会
（演題名）果糖過剰摂取によるNAFLDへのSelenbp1欠損が及ぼす影響の解析. 古賀貴之、廣村信、香川正太、平尾雅代、竹田修三。石井祐次、石田卓巳、長島史裕、小武家優子、戸田晶久、副田二三夫	共著	令和4年8月	フォーラム2022 衛生薬学・環境トキシコロジー
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成30年4月～現在	金属の関与する生体関連反応シンポジウム 評議員		
平成30年4月～現在	薬学教育協議会生化学分野教科担当会議委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 准教授	氏名 清水 典史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年～現在	科目「機能形態学」において、講義資料を配布し、適宜パワーポイントや動画を用いて講義を実施している。講義資料は、重要ポイントを空白にしてあり、講義中に学生に記入させている。また、配布用講義資料や演習問題を学内サーバーに収納してあり、学生がいつでも閲覧・取得できるようにしている。
		平成29年～現在	科目「基礎生物学」において、生物学に関する複数のテーマから興味のあるテーマを学生に選択させ、それについて調べて発表させるといった、アクティブラーニングを主体とした授業を展開している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年～現在 平成29年～現在 平成29年～現在	機能形態学講義資料（毎年改定） 基礎実習（生物系）実習書（毎年改定） 解剖生理学（福岡こども短期大学での講義用教科書、毎年改定）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) サポートベクターマシンに基づく試験合否判別モデルの構築	共著	平成29年	薬学教育 Vol. 2. 141-147. 2018 doi.org/10.24489/jjphe.2017-023.
(論文) 薬剤師国家試験合否予測モデルを利用した学生の学修状況の把握	共著	平成30年	薬学教育 Vol. 3. 2019. DOI: https://doi.org/10.24489/jjphe.2018-037.
(著書) 機能形態学（改訂第4版）	共著	平成30年	南江堂
(論文) オンラインを利用した小規模ピア・ラーニングシステムの構築と実践.	共著	令和2年	Annual Report of Daiichi University of Pharmacy, 2020. 37: 13-23.
(論文) Effects of chronic glucocorticoid receptor stimulation on circadian locomotor activity and serotonergic neurotransmission in the basolateral amygdala of rats	共著	令和2年	Biol Pharm Bull. Vol. 43, 1279-1282.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成17年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員	
平成29年8月	ワークショップコレクションミニ in 福岡	
平成29年12月	論文審査 (Neuroscience Research)	
平成29年～現在	学校薬剤師 (福岡県立早良高等学校)	
平成29年～現在	九州・沖縄・山口の高等学校での薬物乱用防止教室 (現在まで計131校で実施)	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	第一薬科大学	講座名	生薬学分野	職名	准教授	氏名	久保山 友晴
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫							
1-1) 授業							
富山県高岡看護専門学校における薬理学の授業		平成31年4月～令和2年3月	薬理学に苦手意識を持たれないことと、薬理学を学ぶ重要性を理解してもらうことで、学生のモチベーションを上げられるような授業を心掛けた。また、各疾患に対する各処方箋の意義、注意すべき副作用や食物と薬の組み合わせに関しては特に力を入れて講義した。				
第一薬科大学における本草学、漢方民間薬概論の授業		令和2年4月～現在	漢方、生薬に興味を持ってもらえるよう、写真を多く用いたスライドを準備した。また、毎回の授業後に課題を出し、次の授業にその課題の確認をすることで、授業の要点を復習できるよう、工夫した。令和4年度の学生による授業評価は、漢方民間薬概論が4.33、本草学が4.46と高評価であった(5点満点)。				
1-2) 実習							
第一薬科大学 物理系実習		令和3年9月～現在	適定、反応速度、界面活性剤の物性などに関する物理系実習を指導。実習に関する概要を事前に動画で予習してもらい、スムーズに実習に取り組めるようにした。				
第一薬科大学 基礎実習 化学系		令和4年11月～現在	1年生を対象としており、大学入って初めてとなる実習なので、実習への取り組み方や器具の名称の指導だけではなく、実習の面白さが分かってもらえるよう、視覚的に変化が分かりやすい実験を行ってもらった。				
1-3) 卒業研究							
第一薬科大学 卒業研究指導		令和2年4月～現在	自分の研究がどれだけ社会に貢献できるのか、その意義が理解できるよう、指導した。また、プレゼンや論文執筆の指導を丁寧に行った。				
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
		令和3年7月13日	第一薬科大学薬剤師生涯学習講座において、「漢方薬を用いたアルツハイマー病の予防・治療への挑戦」という演題名で発表を行った。				
4 その他教育活動上特記すべき事項							
(FDを含む)		令和2年4月～令和3年3月	「現代の大学生の心理的特徴と支援について」、「学生の『能力』を把握するための教育評価の考え方 ～ルーブリックを中心に」、「卒業研究発表会・卒業論文の評価用ルーブリックを作ろう」の計3回の学内FD研修会に参加した。				

久保山友晴

令和2年4月～ 現在	福岡県立輝翔館中等教育学校にて、科目「総合的探究の授業」の指導を行った。まず導入授業で探究・研究の魅力、そしてそのやり方についてパワーポイントを用いた講義を行った。その後、各グループの探究内容について、対面での指導およびClassiシステムを用いたオンラインでの指導を行った。また、各学年最後の研究成果発表会の審査を行った。
令和2年12月7～ 10日	天津中医薬大学が主宰するアジア地区中医薬教育上級教員養成プログラムに参加した。
令和3年4月～ 令和4年3月	大学の教育・研究に関するDXの基本について、「学術協定締結大学におけるIT化の現状」など計11回の学内FD研修会に参加した。
令和4年4月～ 12月	「薬物療法に強い看護師育成のための必要な教育」、「知って、納得！ 福岡市の消防・防災」の計2回の学内FD研修会に参加した。
令和4年9月3～ 4日	第82回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加した。

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Visualizing Axonal Growth Cone Collapse and Early Amyloid β Effects in Cultured Mouse Neurons.	単著	平成30年10月	Journal of Visualized Experiments社, Journal of Visualized Experiments, 140: e58229.
(論文) Matrine promotes neural circuit remodeling to regulate motor function in a mouse model of chronic spinal cord injury.	共著	令和元年11月	Wolters Kluwer社, Neural Regeneration Research, 14(11), 1961-1967.
(論文) GRP78-Mediated Signaling Contributes to Axonal Growth Resulting in Motor Function Recovery in Spinal Cord-Injured	共著	令和2年5月	Frontiers社, Frontiers in Pharmacology, 11:789.
(論文) Recovery from spinal cord injury via M2 microglial polarization induced by Polygalae Radix.	共著	令和3年2月	Elsevier社, Phytomedicine, 82:153452.
(論文) Shati/Nat8l Overexpression Improves Cognitive Decline by Upregulating Neuronal Trophic Factor in Alzheimer's Disease Model Mice.	共著	令和4年9月	Springer社, Neurochemical Research, 47(9):2805-2814.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) マイクログリアM2化活性に着目した長野県産大黃の品質評価		令和4年3月	日本薬学会第142年会
(演題名) アオジソに特徴的な一酸化窒素産生抑制成分の研究		令和4年3月	日本薬学会第142年会
(演題名) 夜交藤中の一酸化窒素産生抑制成分に関する研究		令和4年3月	日本薬学会第142年会
(演題名) 遠志成分sibiricose A5によるアルツハイマー病モデルマウスの記憶改善作用		令和4年3月	第95回日本薬理学会年会
(演題名) アルツハイマー病モデルマウスにおいて、HDAC3阻害はマイクログリアから分泌されるIGFBP6を介して変性軸索を正常化させ、記憶回復作用を示す		令和4年7月	Neuro2022
(演題名) 長野県栽培Rheum属植物由来根茎のマイクログリアM2化に着目した品質評価		令和4年9月	日本生薬学会第68回年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成29年4月～現在	和漢医薬学会 次世代を担う若手研究者の会 世話人
平成30年11月	日本薬学会北陸支部第130回例会 副実行委員長
令和元年8月	第36回和漢医薬学会学術大会 実行委員
令和2年8月	第37回和漢医薬学会学術大会 実行委員
令和4年4月～現在	和漢医薬学会代議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 臨床薬学分野	職名 准教授	氏名 香月 正明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		令和4年9月～ 12月	科目「調剤学」について、パワーポイント資料を主体として講義を行い、計算問題等は適宜板書を用いて、学生の理解を深める工夫をした。授業評価の平均点は3.8であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
(論文) Improvement of the water-solubility of paclitaxel with an amorphous solid dispersing technique using polyvinylpyrrolidone as hydrophilic carrier <u>Katsuki M.</u> , Irikura M, Moriuchi H, Ohmitsu M, Kubota T, Tohara D, Hirayama F, Otori T, Matsuyama K.	共著	令和元年7月	Int J Pharm Tech. 2019 July 11(2) 31701-31710.
(論文) Survey of the assessment and reduction of unused medicines in pharmacies. <u>Katsuki M.</u> , Kubota T, Yahiro T, Irikura M.	共著	令和元年8月	薬局薬学, J Community Pharm Sci (11巻), 136-141
(論文) Survey of patients' criteria to choose a proper insurance pharmacy -To become a pharmacy chosen by patients- <u>Katsuki M.</u> , Toriyama A, Tajima F, Kubota T, Moriuchi H, Irikura M.	共著	令和2年7月	薬局薬学, J Community Pharm Sci (12巻), 129-134
(論文) Survey of satisfaction regarding palliative care provided to patients who died at home or in a hospital. <u>Katsuki M.</u> , Nakamata M, Ezaki A, Yamanaka S, Imamura S, Honda C, Kubota T, Moriuchi H, Irikura M.	共著	令和2年9月	Mark Allen Group Int J Palliat Nurs. 2020 Aug 26 (6) 272-277.
(論文) Comparison of quality of life and activity of daily living status of patients with myasthenia gravis treated with low-dose and high-dose prednisolone. <u>Katsuki M.</u> , Sugahara H, Kojima Y, Yamashita K, Moriuchi H, Kubota T, Masuda M, Irikura M.	共著	令和2年10月	Maghira & Maas Publications Neuro Endocrinol Lett. 2020 Oct 41 (4) 173-178.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		
(演題)機械学習を用いたシクロデキストリン誘導体の複合体形成自由エネルギーの予測	令和4年3月	日本薬学会年会
(演題)初年次の多職種連携教育としての講義「薬学への招待」の実践と学生の意識調査	令和4年3月	日本薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
令和4年3月	医療薬学1報査読	
令和4年1月～12月	薬物乱用防止教室9校	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 健康・環境衛生学講座 分析化学分野	職名 准教授	氏名 藤井 由希子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年～現在	図を多く取り入れ、視覚で分かりやすい授業を心掛けている。また講義と演習を組み合わせることにより、学習した内容の理解深め、定着を促すを工夫を行っている。本学FD委員会による授業評価では5点平均4.47と高い評価を得た。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成31年～現在	「よくわかる薬学分析化学」廣川書店 ISBN-13: 978-4567257008 (分担執筆) (緩衝液とpHと化学物質の形の項目を担当)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		令和4年7月	国際薬剤師会 (FIP: International Pharmaceutical Federation) の査読誌 Pharmacy Education に薬学教育について以下の論文を発表した。A study of pharmacists' resilience-enhancing behaviours to improve pharmacy student resiliency in Japan 2022. 22(1). 715-726.
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Urinary equal levels are positively associated with urinary estradiol excretion in women.	共著	令和3年9月	Scientific reports 11(1) 19532-19532
(論文) Identification of novel halogenated naturally occurring compounds in marine biota by high-resolution mass spectrometry and combined screening approaches	共著	令和3年11月	Environmental Pollution 289 117933-117933
(論文) Exposure to phthalate esters in Japanese females in Kyoto, Japan from 1993 to 2016: Temporal trends and associated health risks	共著	令和4年7月	Environment International 165 107288-107288
(論文) Levels of Short- and Medium-Chain Chlorinated Paraffins in Edible Insects and Implications for Human Exposure	共著	令和4年8月	Environmental Science & Technology 56(18) 13212-13221
(論文) Occurrence and contamination profile of legacy and emerging per- and polyfluoroalkyl substances (PFAS) in Belgian wastewater using target, suspect and non-target screening approaches	共著	令和4年9月	Journal of Hazardous Materials 437 129378-129378
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
2,2',4,4',6,6'-六塩素化ビフェニル(PCB155)のヒト肝ミクロゾームおよびチトクロムP450分子種による代謝		令和4年3月	日本薬学会第141回年会

藤井由希子

Identification of novel halogenated naturally occurring compounds in sea sponge by high-resolution mass spectrometry and combined screening approaches	令和4年5月	17th International Symposium on Hyphenated Techniques in Chromatography and Separation Technology 2022.5, Ghent, Belgium.
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成29年4月	薬学教育協議会 分析化学教科担当教員（平成30年3月まで）	
令和2年4月～現在	日本衛生学会 評議員・衛生学エキスパート	
令和3年3月	日本薬学会 学生優秀発表賞審査員（令和3年3月まで）	
令和3年4月～現在	Chief Guest Editor, Special Issue "Exposure Science and Toxicology for Infants: Anthropogenic and Naturally Produced Environmental Pollutants, Pharmaceuticals and Personal Care Products", International Journal of Environmental Research and Public Health (IF of 2021, 4.614)	
令和4年4月～現在	日本衛生学会 編集委員	
令和4年4月～現在	Editor, Environmental Health and Preventive Medicine (IF of 2021, 4.395)	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 講師	氏名 跡部 秀之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		令和元年～	科目「基礎生物学」の講義は、主にアクティブラーニング形式を採用して、学生が能動的に学ぶ場として設定した。学生は提示された複数の課題の中から、自らのテーマを選択したのち、グループを作り、協力して口頭発表の資料とスライドの作成を行った。評価は相互に評価した。
		令和2年～	科目「看護学生のための生物・化学」の講義は、Kahoot! を用いて高校時代の復習を行い、グループフォームにて課題の提示・回収を行った。また、講義資料や課題の解説・解答はeポートフォリオに up し学生の学習内容の整理と定着を支援した。
2 作成した教科書、教材、参考書			特記事項なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		令和4年 7, 9, 10, 12月	輝翔館中等教育学校に定期定期訪問して総合的探究の時間における各研究グループ(4, 5年生)の研究活動への助言や研究内容に対しての講評を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		令和4年3月	第4回高校生サイエンス研究発表会の運営
		令和4年7月	高大連携研究協議会の運営
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
なし			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月
なし			学会名
III 学会および社会における主な活動			
令和元年～	高校生サイエンス研究発表会(令和3年度より第一薬科大学、日本薬科大学、横浜薬科大学主催)の運営員		
令和元年～	福岡県高等学校総合文化祭自然科学部門福岡県大会-審査委員		
令和元年～	福岡県立輝翔館中等教育学校4, 5年生の総合的な探究の時間の指導		
令和2年～	福岡県立城南高等学校の総合的な探究の時間の発表会の審査員		
令和2年～	福岡市立福翔高校学校の総合的な探究の時間の発表会の審査員		
令和4年～	新課程の高等学校「化学」に対応するための研修会の運営(九州地区高大接続化学教育研究会)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

跡部秀之

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	第一薬科大学	講座名	薬学教育推進センター
職名	講師	氏名	古賀 和隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年9月～平成30年1月 平成30年9月～平成31年1月 令和元年9月～令和2年1月 令和2年9月～令和2年12月 令和3年9月～令和3年11月 令和4年9月～現在に至る	有機化学演習(2年次) : 有機化学の内容に関する課題を事前に与え、それに基づいたSGD形式の演習を行い、演習の最後に確認試験を実施することで習熟度等の確認を行った。新型コロナウイルス感染症対策の一環として、必要に応じたZoomのミーティング機能を活用したSGDによる演習を実施すると共に、Microsoft Formsを活用した確認試験を実施した。なお、演習に用いる資料等についてはそのPDFファイルをeポートフォリオにて事前配布した。遠隔授業対象者への確認試験問題については、試験開始直前にそのPDFファイルをeポートフォリオで開示し、答案をMicrosoft Formsで提出させることと並行して、試験時間中はZoomのカメラ機能を活用して不正等を防止する工夫を講じた。授業評価 (3.4～4.0)
		平成30年9月～平成30年10月 令和元年9月～令和元年10月 令和2年9月～令和2年10月 令和3年9月～令和3年10月	基礎化学Ⅱ(1年次) : 全15回のうちの最初の5回を担当 「物質の量」、「溶液の濃度と溶解度」、「化学変化と量的関係」、「酸化と還元」といった薬学を学ぶ上で必要不可欠な化学の基本事項について、配布した講義プリントを用いながら、板書にて実際に問題を解く演習を交えながら講義を行った。担当する領域をひと通り終えた時点で確認テストを行うことで習熟度の確認を行った。新型コロナウイルス感染症対策を必要とした令和2年度については、講義プリントを基としたパワーポイントの動画を作成し、その動画視聴によって講義を実施した。令和3年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、原則、対面式にて講義プリントとパワーポイントを用いた講義を実施すると共に、遠隔授業が必要な場合に備えて対面式の講義講義で用いたパワーポイントの動画作成を行い、その動画をMicrosoft Streamで視聴できる状態として対応した。令和2年度と令和3年度では、講義プリントのPDFファイルをeポートフォリオにて事前開示することで予習する時間を充分取れるように配慮し、講義終了後に穴埋め問題の解答などをeポートフォリオで配布することで復習を実施しやすいように工夫した。講義動画は、繰り返し視聴して復習できるように一定期間視聴可能とした。基礎化学Ⅱ全体(15回)の授業評価 (3.6～3.9)
		令和元年6月～令和元年7月 令和2年5月～令和2年7月 令和3年4月～令和3年7月	無機化学(2年次) : 薬学を学ぶ上で必要となる無機化学に関する内容について、要点等をまとめた講義プリントを作成・配布し、教科書と配布プリントを用いながら板書にて講義を行うと共に、演習問題を解かせ、その解説を行うことで理解度を深められるよう工夫した。新型コロナウイルス感染症対策を必要とした令和2年度については、講義プリントを基としたパワーポイントの動画視聴を活用した講義を実施した。令和3年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、原則、対面式にて講義プリントとパワーポイントを用いて講義を実施し、並行して遠隔授業が必要な場合に備えて対面式の講義講義で用いたパワーポイントの動画作成を行い、その動画をMicrosoft Streamで視聴できる状態として対応した。令和2年度と令和3年度の講義プリントはeポートフォリオにて事前開示することで予習する時間を充分取れるように配慮し、講義終了後に穴埋め問題の解答やパワーポイントの内容をPDFファイルとしたものなどをeポートフォリオにて配布することで、復習を実施しやすいように工夫した。講義動画は、繰り返し視聴して復習できるように一定期間視聴可能とした。授業評価 (3.6～3.8)

	令和3年4月～令和3年6月	医薬品化学Ⅱ（4年次）：全15回のうちの最初の7回を担当 「オニウム塩：アセチルコリン類似医薬品」、「アミノ酸とペプチド関連医薬品」、「脂肪族関連医薬品」について、基本事項や要点等をまとめたパワーポイントを作成し、その印刷物を講義プリントとして配布した。パワーポイント、講義プリントおよび教科書を用いながら講義を行うと共に、演習問題を配布し、理解度を深められるよう工夫した。遠隔授業が必要な場合は、講義をZoomにてライブ配信することで対応した。講義プリントのPDFファイルはeポートフォリオにて講義前に配布することで予習する時間を充分取れるように配慮し、演習問題やその解答のPDFファイルも同様にeポートフォリオにて配布し、活用できるようにした。医薬品化学Ⅱ全体(15回)の授業評価（3.7）
	令和4年4月～令和4年6月	医薬品化学Ⅱ（4年次）：全15回のうちの最初の8回を担当 内容等については上記と同じ。担当部分の授業評価（4.3）
	令和4年4月～現在に至る	有機化学Ⅳ（2年次）：「共役不飽和系」、「芳香族化合物」、「芳香族化合物の反応」について、基本事項や要点等をまとめたパワーポイントを作成し、その印刷物を講義プリントとして配布した。パワーポイント、講義プリントおよび教科書を用いながら講義を行うと共に、教科書の問題を演習問題として要点や間違えやすいポイントを説明しながら解説を行い、一連の流れを通して理解度を深められるよう工夫した。遠隔授業が必要な場合は、講義をZoomにてライブ配信することで対応した。講義プリントのPDFファイルはeポートフォリオにて講義前に配布することで予習する時間を充分取れるように配慮し、必要に応じて演習問題の解答・解説のPDFファイルも同様にeポートフォリオにて配布し、活用できるようにした。授業評価（4.4）
		他5件
2 作成した教科書、教材、参考書	平成30年9月～令和3年10月	基礎化学Ⅱ（1年次） 薬学を学ぶ上で必要となる化学の基礎知識として、「物質の量」、「溶液の濃度と溶解度」、「化学変化と量的関係」、「酸化と還元」について、ポイントを穴埋め形式とした要点集ならびに練習問題をまとめた講義プリントを作成した。令和2年度は、講義プリントを元とするパワーポイントを作成し、その動画編集を行った。
	令和元年6月～令和3年7月	無機化学（2年次） 薬学を学ぶ上で必要となる無機化学に関する内容について、ポイントを穴埋め形式とした要点集ならびに練習問題や演習問題をまとめた講義プリントを作成した。令和2年度は、講義プリントを元とするパワーポイントを作成し、その動画編集を行った。
	令和3年4月～現在に至る	医薬品化学Ⅱ（4年次） 「オニウム塩：アセチルコリン類似医薬品」、「アミノ酸とペプチド関連医薬品」、「脂肪族関連医薬品」について、基本事項や要点等をまとめたパワーポイントを作成し、その印刷物を講義プリントとした。さらに、演習問題とその解答を作成した。
	令和4年4月～現在に至る	有機化学Ⅳ（2年次） 「共役不飽和系」、「芳香族化合物」、「芳香族化合物の反応」について、基本事項や要点等をまとめたパワーポイントを作成し、その印刷物を講義プリントとした。さらに、演習問題として取り上げた問題のうち、抜粋したものの解答・解説を作成した。
		他4件

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	該当なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	令和2年8月	本学の第2回FD・学生委員会合同研修会に参加した。	
	令和3年4月	本学の第1回FD・SD合同研修会に参加した。	
	令和3年6月	本学の第3回FD研修会に参加した。	
	令和3年7月	本学の第4回FD・SD合同研修会に参加した。	
	令和3年7月	本学の第5回FD・SD合同研修会に参加した。	
	令和3年9月	本学の第6回FD・SD合同研修会に参加した。	
	令和3年9月	本学の第7回FD・SD合同研修会に参加した。	
	令和4年2月 令和4年7月	本学の第10回FD研修会に参加した。 本学の第4回FD・SD合同研修会に参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Three-in-one: Miniature Models of Natural Acyl-transfer Systems Enable Vector-selective Reaction on the Primary Side of Cyclodextrins	共著	令和4年2月	Chemistry - A European Journal, 28 (8), https://doi.org/10.1002/chem.202103940
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Tail-to-tailで架橋したモノアルトロ-β-シクロデキストリン二量体のアルトロースユニット回転運動		令和4年3月	日本薬学会 第142年会(オンライン開催)
(演題名) シクロデキストリン一級水酸基側における遠隔的官能化		令和4年3月	日本薬学会 第142年会(オンライン開催)
(演題名) アルデヒドをアルキル源とする、ケトンのα-アルキル化反応		令和4年3月	日本薬学会 第142年会(オンライン開催)
(演題名) ジシアノメチレン化アクリドン誘導体の合成とこれらの固体ならびに溶液状態における近赤外発光挙動		令和4年3月	日本薬学会 第142年会(オンライン開催)
(演題名) Head-to-tail型シクロデキストリンヘテロ二量体の合成と疑似ロタキサン形成		令和4年9月	第38回シクロデキストリンシンポジウム(大宮)
(演題名) β-シクロデキストリン一級側における方位選択的反応の開発		令和4年9月	第38回シクロデキストリンシンポジウム(大宮)
(演題名) β-シクロデキストリン二量体の修飾糖回転による疑似ロタキサン形成: 修飾糖が回転運動に及ぼす影響		令和4年9月	第38回シクロデキストリンシンポジウム(大宮)
III 学会および社会における主な活動			
平成8年11月～現在	日本薬学会会員		
平成13年6月～現在	日本化学会会員		
平成15年5月～現在	シクロデキストリン学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬剤設計学分野	職名 講師	氏名 鎌内 朋子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成30年～現在	科目「医薬品情報学」において、配布資料、パワーポイントを主体として用い、講義の中で確認問題を提示し、学生の理解を深める工夫をしている。授業評価(4.2-4.3)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成30年～現在	科目「事前学習」において「実務実習事前学習(演習・実習書)」を学内で作成した(分担執筆)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)「資源の呪い」の要因分析に関する文献調査～コンゴ民主共和国での活動を踏まえ～	共著	令和元年3月	第一薬科大学研究年報 35 : 21-26
(論文) Survey of Pharmacists' Knowledge, Actions and Confidence in Medication Education to Patients with Hearing Disabilities	共著	令和2年10月	YAKUGAKU ZASSHI. 140(10) : 1295-1298.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 糖尿病における創傷治癒遅延に対するプロスタグランジンD2合成酵素の関与について		令和4年3月	第95回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動			
令和4年～現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ タスクフォース		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

鎌内朋子

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 天然物化学分野	職名 講師	氏名 香川 正太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成28年9月 平成29年9月 平成30年9月 令和元年9月 令和4年4月 令和2年9月 令和3年9月 平成30年4月 令和元年4月 令和2年4月 令和3年4月 令和4年4月 平成30年4月 令和元年4月 令和2年4月 令和3年4月 令和4年4月	1年生基礎生物学において、アクティブラーニング形式を採用し、教員が資料を作成、学生に課題を与えた後、学生が主体となった口頭発表資料の作成、実際の口頭発表のスライド作成を行うことで、学生が能動的に学ぶ場を設けた。 授業評価は平均3.24であった。 1年生基礎生物学において、教員がスライドや動画、参考資料を作成・提供し、課題達成に必要な基礎的な病態および分子生物学を解りやすく説明した上で、レポートを作成し提出させた。 授業評価は平均3.90であった。 3年生漢方製剤薬剤学において、スライドを主体として講義を進め、適宜板書で説明を加えながら、配布資料とパワーポイントを用いて学生の理解を深める工夫をした(パワーポイントの内容、小テストは授業時に配布)。 授業評価は平均4.41であった。 6年生健康管理学において、スライドを主体として講義を進め、適宜配布資料とパワーポイントを用いて学生の理解を深める工夫をした(パワーポイントの内容は授業時に配布)。 授業評価は平均4.47であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			特記事項なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特記事項なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Self-administered rhubarb-free kyoseihatekigan has novel anti-asthma effects: Two case reports	共著	平成29年4月	和漢医薬学会・日本東洋医学会、Traditional & Kampo Medicine(4), pp58-61
(論文) Multitasking bamboo leaf-derived compounds in prevention of infectious, inflammatory, atherosclerotic, metabolic, and neuropsychiatric diseases	共著	令和4年2月	Elsevier, Pharmacology & Therapeutics (235), 108159

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）漢方薬「八味地黄丸」の抗肥満作用に対する脂質代謝の影響	令和4年3月	日本薬学会年会
（演題名）漢方薬「六味丸」および「八味地黄丸」の肥満抑制作用への影響と各構成生薬の寄与について	令和4年11月	日本薬学会九州山口支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成17年5月11日～	日本糖尿病学会会員	
平成26年4月1日～	老化促進モデルマウス学会評議員	
平成28年4月1日～	日本薬学会会員	
平成29年8月27日～	和漢医薬学会代議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬物治療学分野	職名 講師	氏名 山脇 洋輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成31年4月1日 以降、令和3年3 月31日まで	科目「病態薬物治療学III」および「病態薬物治療学IV」において、スライドを主体として講義を進めており、単元ごとに確認問題を解かせて学生の理解を深める工夫をしている。また、「薬理学実習」では、学生個人からの質問にできる限り答えるようにしている。コロナ禍においては、動画を作製することで遠隔講義を行い、サーバー上に講義期間中アップロードすることで常時視聴可能とすることで復習を容易にした。(授業評価:3.88-3.98)
2 作成した教科書、教材、参考書			これまでになし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			これまでになし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Phospholipase C-related catalytically inactive protein regulates lipopolysaccharide-induced hypothalamic inflammation-mediated anorexia in mice	共著	令和元年12月	Neurochemistry International Vol.131, No. 104563
(論文) Possible Involvement of MyD88 in Regulating Stress Response in Mice.	共著	令和3年3月	Front in Neuroscience Vol.15, No. 621446
(論文) Spike firing attenuation of serotonin neurons in learned helplessness rats is reversed by ketamine.	共著	令和3年12月	Brain Communication Vol.3(4), No. fcab285
(論文) Peripheral Immune Activation in Mice Elicits Unfolded Protein Responses Independent on MyD88 Pathway in the Liver but not the Hypothalamus and Hippocampus	共著	令和4年4月	Frontier in Physiology, Vol 13, No. 854538
(論文) Imipramine prevents Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide-induced microglial neurotoxicity.	共著	令和4年12月	Biochemistry and Biophys Research Communication Vol. 634, 92-99
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) イミプラミンは炎症状態下においてAKT-GSK3 β 経路を介したMEF2Dタンパク上昇によってインターロイキン-10の発現を増強させる (Imipramine enhances interleukine-10 via MEF2D upregulation mediated by AKT-GSK3 β pathway under inflammatory state)		令和5年3月	日本薬学会第143年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成30年10月～現在	日本神経精神薬理学会 評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬物解析学分野	職名 講師	氏名 岡崎 史泰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年4月1日～9月30日	保険薬局学 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	平成29年4月1日～平成30年3月31日	実務実習(薬局)株式会社メディファムいずみ かみ いいの薬局にて、実習生の指導補佐にあたった。	
	平成29年10月1日～平成30年3月31日	専門英語II シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	平成29年10月1日～平成30年3月31日	臨床前実習 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	平成30年4月1日～9月30日	保険薬局学 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	平成30年4月1日～平成31年3月31日	実務実習(薬局) NPO法人 とやまコミュメデ・ラボ にて、実習生の指導補佐にあたった。	
	平成30年10月1日～平成31年3月31日	専門英語II シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	平成30年10月1日～平成31年3月31日	臨床前実習 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	平成31年4月1日～令和元年9月30日	保険薬局学 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	平成31年4月1日～令和元年9月30日	薬学英语I シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	平成31年4月1日～令和2年3月31日	実務実習(薬局) シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和元年10月1日～令和2年3月31日	専門英語II シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和元年10月1日～令和2年3月31日	臨床前実習 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和2年4月1日～9月30日	保険薬局学 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和2年4月1日～9月30日	薬学英语I シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和2年4月1日～令和3年3月31日	実務実習(薬局) NPO法人 とやまコミュメデ・ラボ にて、実習生の指導補佐にあたった。	
	令和2年10月1日～令和3年3月31日	専門英語II シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和2年10月1日～令和3年3月31日	臨床前実習 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和3年4月1日～令和4年3月31日	臨床前実習 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和3年10月1日～令和4年3月31日	臨床薬理学 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和4年4月1日～令和5年3月31日	臨床前実習 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和4年4月1日～令和4年9月30日	ターミナルケア論 シラバスの内容に沿って講義を行った。	
	令和4年10月1日～令和5年3月31日	臨床薬理学 シラバスの内容に沿って講義を行った。	

2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成28年8月 平成29年4月1日～平成30年3月31日 平成29年8月 平成30年4月1日～平成31年3月31日 平成30年8月 平成31年4月1日～令和2年3月31日 令和元年8月 令和2年4月1日～令和3年3月31日 令和2年8月	FD参加 学校法人 和楽学園 美容専門学校 富山ビューティーカレッジ 非常勤講師 FD参加 学校法人 和楽学園 美容専門学校 富山ビューティーカレッジ 非常勤講師 FD参加 学校法人 和楽学園 美容専門学校 富山ビューティーカレッジ 非常勤講師 FD参加 学校法人 和楽学園 美容専門学校 富山ビューティーカレッジ 非常勤講師	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Administering xCT Inhibitors Based on Circadian Clock Improves Antitumor Effects.	共著	平成29年12月	Cancer Res. 77(23):6603-6613
(論文) Mechanism Underlying Linezolid-induced Thrombocytopenia in a Chronic Kidney Failure Mouse Model.	共著	平成29年1月～3月	J Pharmacol Pharmacother. 8(1):8-13.
(論文) Lamellarin-inspired potent topoisomerase I inhibitors with the unprecedented benzo[g][1]benzopyrano[4,3-b]indol-6(13H)-one	共著	平成31年1月	Bioorg Med Chem. 27(2):265-277
(論文) Effects of a rifampicin pre-treatment on linezolid pharmacokinetics.	共著	令和元年9月	PLoS One. 14(9):e0214037.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) Administering xCT inhibitors based on		令和4年11月	第39回 日本薬学会九州山口支部大会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 衛生化学分野	職名 講師	氏名 古賀 貴之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
薬学部3年生 食品衛生学Ⅰ・Ⅱ タブレット端末を使用した講義の実践および総括資料の活用		令和3年4月～現在	令和3年度より担当している食品衛生学Ⅰおよび食品衛生学Ⅱ(ともに3年次科目)ではタブレット端末を利用し、私の手元のタブレットに表示させた教科書への重要事項の書き込みをプロジェクターにて映し出すことで、私の書き込みと同時の学生の教科書への書き込みによる理解の促進に努めました。また、講義担当範囲に関する総括資料は、学生の理解しやすさを重視するために、なるべく一覧表形式にて作成し、宿題として提示することで学生の講義時間外の勉学の促進に取り組みました。 授業評価; 食品衛生学Ⅰ 令和3年度 3.9、令和4年度 4.5 食品衛生学Ⅱ 令和3年度 3.9、令和4年度 4.4
看護学部2年生 栄養学 タブレット端末を使用した講義の実践、講義担当範囲に関する総括資料の活用および疾患別食事療法に関するスモールグループディスカッションの実践		令和3年9月～現在	令和3年度より担当している栄養学(看護学部)ではタブレット端末を利用し、上記の食品衛生学と同様に、私の書き込みと同時の学生の教科書への書き込みによる理解の促進に努めました。講義担当範囲に関する総括資料は、学生の理解しやすさを重視するために、なるべく一覧表形式にて作成し、課外学習の課題として提示することで学生の講義時間外の勉学の促進に取り組みました。 また、講義内では疾患別の食事療法について、各班ごとに代表的8疾患のいずれかについて患者背景を設定した設問を用意し、それら患者に対する食事療法について、注意点や推奨食材などをスモールグループディスカッションをさせました。講義最終回では、そのスモールグループディスカッションのプロダクトについて全体発表会を実施し、各疾患への食事療法についての理解の促進に努めました。 授業評価; 令和3年度 4.2
薬学部4年生および6年生 薬学演習 演習問題の作問およびタブレット端末を使用した講義の実践		平成26年4月～現在	4年生および6年生対象の薬学総合演習や補講では、講義時間に取り扱った内容と合致するオリジナル問題を配布し、学生の講義時間外の勉学の促進に取り組みました。また、近年ではタブレットを使用した講義により、学生と同時に教科書やプリントへ書き込むことを実践し、重要ポイントの周知や学生の理解の促進に努めました。
薬学部3年生 衛生薬学実習 安全面に配慮した実習の実施および実習実施者目線の実習操作動画の活用		平成26年4月～現在	3年次前期科目である衛生薬学実習では、実習中に使用する試薬類の危険性や機器類の特性など、安全面を重視した指導を行いました。また新型コロナウイルス感染拡大後のオンライン実習では、事前に動画を撮影・編集し教材としました。動画内では、技術を要する操作や安全面上注意を要する操作では、実習実施者視点での動画の撮影を重視し、また注意点や重要な点については字幕で解説を入れるなど、理解しやすさに重点をおいて編集・活用いたしました。

<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>薬学部3年生 食品衛生学Ⅰ・Ⅱ 看護学部2年生 栄養学 タブレット端末を使用した講義動画の作成 講義担当範囲に関する総括資料の作成</p> <p>薬学部3年生 衛生薬学実習 乱用薬物の時事問題に即したレポート課題の作成 実習実施者目線の実習操作動画作成</p>	<p>令和3年4月～現在</p> <p>平成26年4月～現在</p>	<p>令和3年度より担当している食品衛生学Ⅰ・Ⅱ（ともに薬学部）および栄養学（看護学部）のオンライン講義では、動画の事前撮影・編集したものを利用しました。対面講義との学力差が生じないように、対面講義と同様にタブレット端末を用いて書き込みながら説明を加える形式の動画を作成しました。</p> <p>また、講義担当範囲に関する総括資料は、学生の理解しやすさを重視するために、一目で各項目の要点が認識できるよう、一覧表形式にて作成しました。課外学習での利便性のために、教科書の参考すべき該当ページについて、そのページ数なども併記しました。</p> <p>衛生薬学実習実習書について、乱用薬物に関する問題の追加など、時事問題を反映した改定を適宜行いました。また、新型コロナウイルス感染拡大後のオンライン実習では、実習実施者視点の動画や字幕などを活用し、実際に対面実習を行ったときと同程度の理解ができる動画の作成を心がけました。</p>	
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>			
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)</p> <p>薬学教育者ワークショップ 修了</p>	<p>平成30年1月7日～8日</p>	<p>第58回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州・福岡 修了</p>	
<p>Ⅱ 研究活動</p>			
<p>1. 著書・論文等の名称</p>	<p>単著・共著の別</p>	<p>発行または発表の年月（西暦でも可）</p>	<p>発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称</p>
<p>(論文) Methionine is a Key Regulator in the Onset of Atopic Dermatitis in NC/Nga Mice</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年2月</p>	<p>BPB reports, Vol 4, Issue 1</p>
<p>(論文) Ablation of Selenbp1 Alters Lipid Metabolism via the Pparα Pathway in Mouse Kidney</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年5月</p>	<p>International Journal of Molecular Sciences, Vol 22, Issue 10</p>
<p>(論文) Species Differences between Mouse and Human PPARα in Modulating the Hepatocarcinogenic Effects of Perinatal Exposure to a High-Affinity Human PPARα Agonist in Mice.</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年8月</p>	<p>Toxicological Sciences, vol 183 Issue 1</p>
<p>(論文) Targeting Peroxisome Proliferator-Activated Receptor-β/δ (PPARβ/δ) for the Treatment or Prevention of Alcoholic Liver Disease</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年11月</p>	<p>Biological and Pharmaceutical Bulletin, Vol 44 Issue 11</p>
<p>(論文) Perfluorooctanoic acid (PFOA) as a stimulator of estrogen receptor-negative breast cancer MDA-MB-231 cell aggressiveness: Evidence for involvement of fatty acid 2-hydroxylase (FA2H) in the stimulated cell migration.</p>	<p>共著</p>	<p>令和4年4月</p>	<p>The Journal of Toxicological Sciences, vol 47 Issue 4</p>
<p>2. 学会発表（評価対象年度のみ）</p>		<p>発表年・月</p>	<p>学会名</p>
<p>アレルギー性皮膚炎における肝メチオニン代謝酵素Bhmtの寄与の検討</p>		<p>令和4年3月</p>	<p>日本薬学会第142年会</p>
<p>果糖過剰摂取によるNAFLDへのSelenbp1欠損が及ぼす影響の解析</p>		<p>令和4年8月</p>	<p>フォーラム2022 衛生薬学・環境トキシコロジー</p>
<p>Ⅲ 学会および社会における主な活動</p>			
<p>令和元年5月～現在</p>	<p>BPB reports論文審査員</p>		
<p>令和元年10月～現在</p>	<p>J. Toxicol. Sci. 論文審査員</p>		
<p>令和4年9月～現在</p>	<p>BPB 論文審査員</p>		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 分子生物学分野	職名 講師	氏名 岡崎 裕之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年～ 令和4年	生命科学Ⅲの講義を担当した。スライドを中心に使用し、重要部分の解説・強調に適宜板書を用いた。講義で用いるスライドは学生の予習・復習に利用できるように学内サーバーに公開した。また、適宜補習を実施して講義内容の定着に務めた。講義内容に関する学生授業評価では、令和4年度は平均4.39だった(1, 2, 4, 5の4段階評価)。
		平成29年～ 令和4年	生物系実習において生化学実習を担当した。実習前に基礎講義を行い、実習に必要な知識の予習・復習を十分に実施した上で実習を行い知識と技術の習得に務めた。また、令和2年～令和3年には新型コロナウイルス感染症に対応するためのビデオ教材を作成し、動画を用いた実習方法の確認ができるように対応した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年～ 令和4年	「生物系実習 実習書」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		令和元年10月	障害学生支援理解・啓発セミナーに参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Okazaki H , Takeda S, Kakizoe K, Taniguchi A, Tokuyasu M, Himeno T, Ishii H, Kohro-Ikeda E, Haraguchi K, Watanabe K, Aramaki H: Bisphenol AF as an Inducer of Estrogen Receptor β (ER β): Evidence for Anti-estrogenic Effects at Higher Concentrations in Human Breast Cancer Cells.	共著	平成29年6月	Biol Pharm Bull. 40(11): 1909-1916.
(論文) Okazaki H , Hirao-Suzuki M, Takeda S, Takemoto Y, Mizunoe R, Haraguchi K, Watanabe K, Takiguchi M, Aramaki H. Bisphenol AF as an activator of human estrogen receptor β 1 (ER β 1) in breast cancer cell lines.	共著	平成30年2月	J Toxicol Sci. 43(5):321-327
(論文) Matsunaga T, Matsunaga N, Kusunose N, Ikeda E, Okazaki H , Kakimoto K, Hamamura K, Koyanagi S, Ohdo S.: Angiotensin-II regulates dosing time-dependent intratumoral accumulation of macromolecular drug formulations via 24-h blood pressure rhythm in tumor-bearing mice.	共著	平成30年3月	Biochem Biophys Res Commun. 498(1):86-91.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
(演題名) 該当なし		
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成26年～現在	日本薬学会 学会会員	
平成26年～現在	日本薬剤学会 学会会員	
平成26年～現在	日本薬理学会 学会会員	
平成26年～現在	日本時間生物学会 学会会員	
平成28年～現在	日本動物実験代替法学会 学会会員	
平成28年～現在	日本毒性学会 学会会員	
令和3年 7月	日本毒性学会 ファイザー賞受賞	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	第一薬科大学	講座名	薬品作用学分野
職名	講師	氏名	濱村 賢吾
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成28年4月以降 現在まで	科目「基礎生物学」において、最新の生物学的トピックに関する調査をグループワークにて実施するアクティブラーニングを主体とした授業を展開している。学生の満足度が高く、生物学の各論を学ぶ上での意欲向上に寄与している。 授業評価 (2.71~4.05)
		平成28年4月以降 現在まで	実習「薬理学実習」において、講義あるいは教科書で学んだ薬物の作用について、動物実験、およびシュミレーションソフトを用いて理解するだけでなく、実験から得た結果をどのように解釈するのかという考え方の基本を身につけるように実習を展開している。 近年は、事前動画を視聴し予習したうえで、動物実験を実施している。 授業評価 (3.2~4.23)
		平成28年4月以降 現在まで	講義にて配布する資料は、eポートフォリオ（第一薬科大学IPo）上にも掲載し、学生が復習に活用できるようにしている。 また、オフィスアワー及びメールにて学生からの質問を随時受け付けている。
		平成28年4月以降 現在まで	その他「薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、基礎実習、薬学演習、薬学総合演習、薬学への招待 等」
		令和3年4月以降 現在まで	科目「薬理学Ⅲ、薬理学Ⅳ」において、各項目の薬理作用と用法を理解させるために、教科書、および板書にて“なぜその病気が発症するのか”を理解させた上で、“どのようにすれば（どのような作用をもつ薬を使えば）よいか”を説明している。
		令和4年4月以降 現在まで	科目「プレゼンテーション論」において、パワーポイントを用いたスライド・ポスターの作成方法や講義（情報のまとめ方や表現技術、発表方法に関する基本的な知識・技術）に加え、6年生の卒業研究発表会の聴講や学生全員に口頭発表する機会を設けている。 授業評価 (2.72~4.58)
2 作成した教科書、教材、参考書			
1) 教科書		平成29年7月1日	「コンパス薬理学」 (第2版、分担執筆、編集 櫻田司 他、南江堂) (ISBN: 978-4-524-40348-6) (執筆担当部分: 薬の運命、抗菌薬、ウイルス感染症の薬) 科目「薬理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「薬理学実習」に関する教科書を「わかりやすく、ミニマムエッセンス」をコンセプトに薬学生が知っておくべき医薬品の薬理について、薬理作用・機序、適応、副作用・禁忌の項目を設け、化学構造式を示しながら解説した。
2) 教材		平成28年4月以降 現在まで	科目「薬理学実習」の実習書を編集し、毎年改定している。

濱村賢吾

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		本欄は該当しない。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成30年2月1日	平成29年度「FDのための情報技術研究講習会」に参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Alterations of Hepatic Metabolism in Chronic Kidney Disease via D-box-binding Protein Aggravate the Renal Dysfunction.	共著 (筆頭著者)	平成28年3月1日	The Journal of biological chemistry, vol. 291(10), 4913-4927.
(論文) Administering xCT Inhibitors Based on Circadian Clock Improves Antitumor Effects.	共著	平成29年12月1日	Cancer research, vol. 77(23), 6603-6613.
(論文) Behavioral Effects of Continuously Administered Bergamot Essential Oil on Mice With Partial Sciatic Nerve Ligation.	共著 (筆頭著者)	令和2年8月1日	Frontiers in Pharmacology, vol. 11, 1310.
(論文) Analgesic Effects of PREGABALIN OD TABLETS "NIPRO" in a Mouse Model of Neuropathic Pain.	共著 (筆頭著者)	令和2年12月1日	Journal of New Remedies & Clinics, vol. 69(12), 1441-1450.
(論文) Alteration of circadian machinery in monocytes underlies chronic kidney disease-associated cardiac inflammation and fibrosis.	共著	令和3年5月1日	Nature communications, vol. 12(1), 2783.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Identification of the site of production of complement C5, which is upregulated on exosomal bilayers from serum of mice with partial sciatic nerve ligation.		令和4年3月1日	第95回日本薬理学会年会
(演題名) Specific degrader of hematopoietic prostaglandin D synthase prevented the progression of dilated cardiomyopathy in Duchenne muscular dystrophy.		令和4年3月1日	第95回日本薬理学会年会
(演題名) Novel enhancement mechanisms of the nociceptive response by serum exosomes in a mouse model of neuropathic pain.		令和4年11月1日	Dementia Therapeutics and Cognitive Rehabilitation
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月1日	日本薬剤学会 会員		
平成26年7月1日	日本時間生物学会 会員		
平成29年10月1日	日本薬理学会 会員		
平成31年4月1日	北米神経科学学会 会員		
令和元年4月1日以降、現在まで	薬物乱用防止教室 10校		
令和元年11月2日	第41回日本薬学会九州支部コロキウム 世話人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 和漢薬物学分野	職名 講師	氏名 小川 鶴洋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年5月～5月 より令和3年5月～6月	基礎実習(2年次)：有機溶媒と水あるいはメタノールとの混和性や比重に関しての実験を指導するとともに、化学物質の取扱いについての注意点についても指導した。また、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、有機溶媒が水やメタノールなどと混和するかを映像で見て実習とすることとなった。そこで、水やメタノールに硫酸銅や塩化鉄などで着色をし、本来透明な液体同士が混和するか否かを映像上で示すことに成功し、加えてそこから比重を考察させることもできた。再結晶の手法についても化学系実習で用いるサリチル酸を再結晶し、それらを利用して化学系実習でアスピリンまで合成できるよう指導した。平成29年度以降の当該実習内容は毎年継続されている。
		平成29年より令和2年9月～10月 令和3年10月～11月 令和4年9月～10月	化学系実習(2年次)：平成30年度より生薬の確認試験に2種類の不明生薬の鑑別の項目を加え、漢方薬学科に対しては薬学科の有機溶媒を用いた抽出法をダイオウやケイヒなどの生薬を用いてエキスの抽出、化合物の分配・単離する項目を導入した。生薬の鑑別については当初は設備が整っていなかったものの、徐々に改善しており、直近3年では110名前後の学生が95%以上で正確に分析、同定できている。薬学科については平成29年度以降、漢方薬学科については平成30年度以降の当該実習内容は毎年継続されている。
		令和4年4月～7月	薬学英語(2年次)：2年次後期に実施される化学系実習の実修書中で用いられる英文や英語で書かれた操作手法が理解・実施できるよう必要な語彙の解説やそれに関連した薬学並びに科学に関する文章の読み方について指導した。同時に、4年次以降で読むこととなる可能性の高い英語論文で汎用される動詞やそのような文章がどのように書かれているかを解説・読解指導をした。講義資料は自身で作成し、ペニシリン・アスピリンなど今日でも用いられる医薬品の歴史についても解説した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年9月～令和4年9月	化学系実習の実修書作成 第一薬科大学薬学部和漢薬物学分野の助教・講師として、大学2年後期の薬学科・漢方薬学科の学生に対する化学系実習の実習書を作成した。生薬の鑑定、生薬総則、生薬の確認試験の講義に加え、生薬の確認試験、未知検体試験については実践型実習を実施した。
		令和4年4月～7月	薬学英語教材作成 教科書の内容では不十分な内容があるため、ニュース記事などを参考に資料を作製し、講義に応用した。また、必要な事項などについては事前に学習できるように資料をeポートフォリオ上で掲載したほか、ノートの代わりに資料を利用できるよう工夫した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Appetite-enhancing effects of vanilla flavours such as vanillin	共著	平成30年6月	Journal of Natural Medicines, 72(3), 798 - 802
(論文) Appetite-enhancing effects of nutmeg oil and structure-activity relationship of habituation to phenylpropanoids	共著	令和元年6月	Journal of Natural Medicines, 73(3), 513 - 522
(論文) Appetite-enhancing effects of inhaling cinnamon, clove, and fennel essential oils containing phenylpropanoid analogues	共著	令和2年9月	Journal of Natural Medicines, 74(4), 710- 721
(論文) Evaluation of the Amounts of Sennosides A and B in Rhubarb-containing Kampo Medicines to Create a Ranking of Kampo Medicines for Appropriate Selection of Laxatives	共著	令和3年5月	Journal of Anus, Rectum and Colon, 5(3), 229-236
(論文) Identification of an Alternative Glycyrrhizin Metabolite Causing Liquorice-Induced Pseudohyperal- dosteronism and the Development of ELISA System to Detect the Predictive Biomarker	共著	令和3年5月	Frontiers in pharmacology, 12, doi: 10.3389/fphar.2021.688508
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 抗18β-glycyrrhetyl-3-0-sulfateマウス血清の 化合物認識について		令和4年9月	日本生薬学会第68回年会(松 山;web開催)
III 学会および社会における主な活動			
平成24年2月～現在	日本薬学会会員		
平成24年5月～現在	生薬学会会員		
平成26年8月～現在	日本食品化学学会会員		
令和2年11月～現在	大腸肛門病学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 地域医療薬学センター	職名 助教	氏名 古賀 多津子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年～現在 平成30年～現在	薬学演習、薬学総合演習では、医療現場の情報を反映させた資料とパワーポイントを作成し丁寧に説明することを心掛けた。 実務実習事前学習では予習動画及び資料を事前にアップし対面実習において口頭質問と解説を行う等、理解を深める工夫をした。実務実習において対応できるような時間を設定して実施した。医療概論では多職種の方の講義やSGDを通し将来への目標をもち、授業後のレポート提出において決められた文字数で授業の概要と自分の考えを文章にまとめることを指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成31年～現在	事前学習の実習書Ⅱ加筆修正。 事前学習Ⅱで使用する資料作成。 授業資料の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成29年10月	フィジカルアセスメント症例体験 講師
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成29年12月18日 平成30年6月26日 平成30年10月16日 平成30年7月4日 平成30年7月23日 平成30年9月13日 平成30年9月5日 平成30年9月13日 平成30年10月4日 平成30年12月2日 平成31年1月23日 平成31年2月13日 平成31年3月6日 平成31年4月24日 令和元年6月25日 令和元年7月3日 令和元年7月17日 令和元年9月3日 令和元年9月4日 令和元年9月10日 令和元年10月3日 令和元年11月5日 令和元年12月14日 令和2年1月22日 令和2年2月27日	長崎大学薬学共用試験OSCE評価者 福岡市立草ヶ江小学校プール水水質検査・ダニ検査 実務実習5年生(2名) 引率指導 福岡市立草ヶ江小学校飲料水水質検査 実務実習5年生(4名) 引率指導 福岡市立草ヶ江小学校 学校保健委員会 学校環境衛生活動状況報告 平成30年度薬学共用試験OSCE評価者養成伝達講習会 上級学校訪問体験実習 志免東中学校2年生(10名) 中学生職場体験 筑紫ヶ丘中学校2年生(10名) 中学生職場体験 春吉中学校2年生(10名) 中学生職場体験 野間中学校2年生(10名) 薬学共用試験OSCE ST5責任者 福岡市立草ヶ江小学校 学校保健委員会 学校環境衛生活動状況報告 福岡市立草ヶ江小学校「薬物乱用防止教室」 中学生職場体験 玉龍中学校2年生(6名) 福岡市立草ヶ江小学校プール水水質検査 実務実習5年生(2名) 引率指導 福岡市立草ヶ江小学校飲料水水質検査、教室のCO2検査指導 実務実習5年生(4名) 引率指導 福岡市立草ヶ江小学校 学校保健委員会 学校環境衛生活動状況報告 春日市立春日東小学校5年生「薬物乱用防止教室」 中学生職場体験 筑紫ヶ丘中学校2年生(7名) 中学生職場体験 春吉中学校2年生(7名) 上級学校訪問体験実習 志免東中学校2年生(11名) 中学生職場体験 野間中学校2年生(9名) 飯塚市立穂波西中学校1-3年「薬物乱用防止教室」 福岡大学薬学共用試験OSCE評価者 福岡市立草ヶ江小学校 学校保健委員会 学校環境衛生活動状況報告 福岡市立草ヶ江小学校6年「薬物乱用防止教室」

古賀多津子

	令和3年2月20日	福岡市立草ヶ江小学校6年「薬物乱用防止教室」	
	令和4年12月13日	福岡市立草ヶ江小学校6年「薬物乱用防止教室」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）1. 「資源の呪い」の要因分析に関する文献調査～コンゴ民主共和国での活動を踏まえ～井上 裕貴、鎌内 朋子、古賀 多津子、小武家 優子、大光 正男、森内 宏志、吉武 毅人	共著	平成31年3月1日	第一薬科大学研究年報(2019) 35 : 21-26
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）佐賀県薬剤師会における自己血糖測定事業に参加した薬局の検体測定室の現状調査：大光 正男、徳淵 昭代、河野 広美、曲淵 直喜、古賀 多津子、鎌内 朋子、香月 正明、小武家 優子、俵口 奈穂美、吉武 毅人、森内 宏志、窪田 敏夫		令和2年2月1日	第2回福岡県薬剤師会学術大会 福岡
（演題名）学校保健安全法に基づく学校環境衛生定期検査の実施を目指し～教室等の換気状況を検証～：古賀 多津子、ディバナディ綾子、中島亜希、石川友裕、小河友紀、田代雅代、檜崎美恵、久本晋平、清水 敦、北 智之、吉村 宏、福岡英樹、東 千鶴、高木淳一、田中泰三		令和2年2月1日	第2回福岡県薬剤師会学術大会 福岡
（演題名）薬学生における子宮頸がんに関する意識調査：4. 安倍 穂、田中 優美、大光 正男、岡崎 光洋、福井 良清、古賀 多津子、窪田 敏夫、森内 宏志		令和2年3月1日	日本薬学会第140回年会 京都
（演題名）新型コロナウイルス感染症に関する教育現場からの相談事例、学校薬剤師からの情報提供に関するアンケート結果：清水 敦、小河 友紀、古賀 多津子、檜崎 美恵、北 智之、吉村 宏、福岡 英樹、東 千鶴、高木 淳一、田中 泰三（一般社団法人福岡市薬剤師会）		令和3年10月1日	第54回日本薬剤師会学術大会 福岡
（演題名）学校薬剤師研修会におけるWEB 研修会の有用性について～研修会受講者終了後アンケートから見てきたこと～		令和3年2月20日	第3回福岡県薬剤師会学術大会 福岡
III 学会および社会における主な活動			
平成16年4月～現在	リンデンホールスクール小学部・中中学部 学校薬剤師		
平成16年4月～現在	福岡市立草ヶ江小学校 学校薬剤師		
平成18年7月～現在	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師		
平成22年4月～現在	中央区薬剤師会 理事		
平成22年4月～令和2年6月	一般社団法人 福岡市薬剤師会 代議員		
平成22年4月～現在	一般社団法人 福岡市薬剤師会 学校薬剤師委員		
平成22年4月～現在	中央区学校薬剤師研修会開催		
平成23年6月～令和1年6月	福岡市立学校プール開放監視員講習会 講師		
平成24年4月～現在	急患診療センターおよび診療所への出勤薬剤師		
平成27年1月～29年3月	薬剤師臨床シミュレーション研究会、世話人		
平成28年4月～29年3月	第一薬科大学薬剤師生涯学習講座 第1～19回 企画、開催		
平成28年4月～令和4年3月	第一薬科大学後援会 副会長		
平成29年4月～30年3月	福岡地域ケアコンソーシアム 副代表		
平成29年4月～30年3月	第一薬科大学薬剤師生涯学習講座 第1～7回 企画、開催		
平成30年4月～31年3月	第一薬科大学薬剤師生涯学習講座 第1～4回 企画、開催		
平成30年4月～31年3月	第一薬科大学薬剤師生涯学習講座 一薬漢方セミナー 第1～4回 企画、開催		
平成31年4月～令和2年3月	第一薬科大学薬剤師生涯学習講座および第1～8回 企画、開催		
令和2年4月～令和3年3月	第一薬科大学薬剤師生涯学習講座および一薬漢方セミナー 第1～4回 企画、開催		

古賀多津子

令和3年4月～令和4年3月	第一薬科大学薬剤師生涯学習講座および一薬漢方セミナー 第1～4回 企画、開催
令和3年4月～現在	コロナワクチン集団接種会場への出務
令和4年4月～令和5年3月	第一薬科大学薬剤師生涯学習講座および一薬漢方セミナー 第1～4回 企画、開催

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 第一薬科大学	講座名 薬剤設計学分野	職名 助教	氏名 高口 寛子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		令和4年6月～現在	科目「薬事関係法規・制度」において、パワーポイントを主体として講義を進め、配布資料や演習問題を取り入れて学生の理解を深める工夫をした。
2 作成した教科書、教材、参考書		令和4年～現在	科目「事前学習」において、「実務実習事前学習(演習・実習書)」を学内で作成した(分担執筆)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成28年8月20, 21日 平成29年8月31日 平成29年9月6日 平成29年9月8日 平成29年9月13日 平成29年9月30日 平成29年11月1日 平成30年7月28日 平成30年9月5日 平成30年9月13日 平成30年9月13日 平成30年10月4日 令和元年7月28日 令和元年8月24日 令和元年9月3日 令和元年9月4日 令和元年9月10日 令和元年10月3日 令和3年3月18日 令和3年4月～令和4年2月 令和3年6月15日 令和3年8月23日 令和3年11月18日 令和4年2月～現在 令和4年3月17日 令和4年8月26日	ワークショップコレクション 上級学校訪問体験実習、志免東中学校2年生(9名) 中学生職場体験、筑紫丘中学校2年生(11名) 上級学校訪問体験実習、宇美中学校2年生(20名) 中学生職場体験、春吉中学校2年生(13名) 南区大学マルシェ 中学生職場体験、野間中学校2年生(9名) 南区こども大学 中学生職場体験、筑紫丘中学校2年生(10名) 上級学校訪問体験実習、志免東中学校2年生(10名) 中学生職場体験、春吉中学校2年生(10名) 中学生職場体験、野間中学校2年生(10名) 南区こども大学 北九州ゆめみらいワーク2019 中学生職場体験 筑紫ヶ丘中学校2年生(7名) 中学生職場体験 春吉中学校2年生(7名) 上級学校訪問体験実習 志免東中学校2年生(11名) 中学生職場体験、野間中学校2年生(9名) 第3回高校生サイエンス研究発表会審査員 FD講習会受講6回 高大連携体験実習(早良高校) 高大連携体験実習(福翔高校) 高大連携体験実習(雙葉高校) 実務実習学生担当教員として薬局・病院訪問を行った。 第4回高校生サイエンス研究発表会審査員 福翔高校体験実習

高口寛子

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（博士論文）薬剤師の薬学的介入による処方適正化と医療経済効果に関する研究	単著	令和4年3月	福岡大学、1-87
（論文）薬局薬剤師の薬学的介入により回避されるリスクと医療経済効果	共著	平成31年3月	薬理と治療、2019;47(3):375-382
（論文）Study on prescription optimization for hospitalized elderly patients in general wards using a template for evaluating medicines brought to the hospital.	共著	令和元年8月	Japanese Pharmacol. Ther. 2019; 47(8):1187-1193
（論文）Prescription optimization for hospitalized elderly patients in convalescence rehabilitation wards using a template for pharmaceutical intervention.	共著	令和2年11月	Japanese Pharmacol. Ther. 2020; 48(11):1897-1903
（論文）Prescription optimization for hospitalized elderly patients in community-based integrated care wards using a template for pharmaceutical intervention.	共著	令和3年2月	Japanese Pharmacol. Ther. 2021; 49(2):221-228
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
該当なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成28年4月～現在	日本食品安全協会会員		
平成29年4月～現在	医療薬学会会員		
平成29年4月～現在	日本学生相談学会会員		
平成30年3月～現在	日本TDM学会会員		
平成31年4月～現在	日本薬学会会員		
令和3年6月～現在	コロナワクチン集団接種会場出務		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。